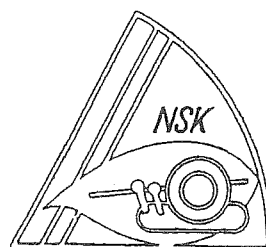


JA 北海道厚生連
旭川厚生看護専門学校

令和 3 年度
31 期 生

SYLLABUS



_____ 期生 _____ 番 氏 名 _____

は じ め に

「シラバス」(Syllabus)とは、授業計画や授業概要という意味です。

看護学校のカリキュラムは基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野と多くの授業が組み込まれています。これからの学習は、ただ“暗記する”のではなく、理解し、自分の身につけていくことが必要です。そして、自分の課題や目標を持ち主体的に学習していくこと、つまり、学習することに個々の学生が責任を持って取り組むことが求められます。

その学習の羅針盤となるよう、「シラバス」を作りました。

はじめに全体に目を通して下さい。学習の組立を理解しましょう。どのような科目があり、それらと教育目標の関係はどうなっているのかを読み取って下さい。そして、各授業の始まる前には必ず目を通し、目的や授業の概要を理解して臨むようにしましょう。さらに、紹介されている文献に目を通して授業に臨むと、より理解が深まります。

旭川厚生看護専門学校の学生としてどのように学習するか、3年間の良きガイドとして有効に活用して下さい。

目次

I	教育理念・目的・目標	1
II	教育課程	
1	教育課程構造化	2
2	教育課程表	3
3	教科進度状況	5
4	教育課程計画	6
5	授業科目の概要	11

基礎分野

科学的思考の基盤

文章構成法	23
物理学	24
統計学	25
英語Ⅰ	26
英語Ⅱ	28
選択科目	30
倫理学	33

人間と生活、社会の理解

心理学……………35
文学……………36
社会学……………37
保健体育……………38
人間関係論……………39
教育学……………40

專門基礎分野

人間の構造と機能

解剖学Ⅰ	41
解剖学Ⅱ	42
生理学Ⅰ	43
生理学Ⅱ	44
生化学	45

疾病の成り立ちと回復の促進

栄養学	47
微生物学	48
薬理学	49
病理学総論	50
病理学各論Ⅰ	51
病理学各論Ⅱ	52
病理学各論Ⅲ	53
病理学各論Ⅳ	54
病理学各論Ⅴ	55

健康支援と社会保障制度

醫療概論.....	57
公衆衛生學.....	58
社會福祉Ⅰ.....	59
社會福祉Ⅱ.....	59
關係法規.....	60

專門分野 I

基礎看護学

看護学概論Ⅰ・・・・・・・・・・63
看護学概論Ⅱ・・・・・・・・・・65
看護援助の基本Ⅰ・・・・・・・・68
看護援助の基本Ⅱ・・・・・・・・72
看護援助の基本Ⅲ・・・・・・・・76
日常生活援助技術Ⅰ・・・・・・78
日常生活援助技術Ⅱ・・・・・・82
日常生活援助技術Ⅲ・・・・・・86
診療援助技術Ⅰ・・・・・・・・・・90
診療援助技術Ⅱ・・・・・・・・・・93
臨床看護総論・・・・・・・・・・97
臨床看護技術演習・・・・・・・・99

専門分野Ⅱ

成人看護学

成人看護学概論	105
成人看護学援助論Ⅰ	107
成人看護学援助論Ⅱ	110
成人看護学援助論Ⅲ	113
成人看護学援助論Ⅳ	116
成人看護学援助論Ⅴ	120

老年看護学

老年看護学概論……………124
 老年看護学援助論Ⅰ……………126
 老年看護学援助論Ⅱ……………129
 老年看護学援助論Ⅲ……………131

小児看護学

小兒看護學概論……………134
小兒看護學援助論Ⅰ……………136
小兒看護學援助論Ⅱ……………138
小兒看護學援助論Ⅲ……………141

母性看護学

母性看護学概論・・・・・・・・・・・・・146
母性看護学援助論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・148
母性看護学援助論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・150
母性看護学援助論Ⅲ・・・・・・・・・・・・・152

精神看護学

精神看護学概論・・・・・・・・・・156
精神保健・・・・・・・・・・157
精神看護学援助論Ⅰ・・・・・・・・158
精神看護学援助論Ⅱ・・・・・・・・160

統合分野

在宅看護論

在宅看護概論……………164
在宅看護援助論Ⅰ……………166
在宅看護援助論Ⅱ……………168
在宅看護援助論Ⅲ……………171

看護の統合と実践

看護の統合.....	174
看護管理.....	178
ケーススタディ.....	179
統合演習.....	181

I. 教育理念・目的・目標(卒業生の特性)

教育理念

本校の教育の基本は、人間愛に基づいて、人間の本質的価値を理解し科学的思考による看護を提供することをとおして地域社会に貢献できる看護者を育成することである。

本学の教育においては、第一に看護を行う人間として、人の喜び・痛みを受け止められる感性を養い、豊かな人間性を育み、他者を活かし自分を活かすことができる幸いな人間を育成すること。第二に、人間は様々な文化・歴史背景の中、多様な価値観をもち、自然・人的環境の中に生活している存在として捉え、関わる人々と関係性を築きながら相互に成長していくことができること。第三に、看護学、医学、人間諸科学の発展に即した学問・技術を統合させ科学的思考ができること、を目指す。

これらの能力を統合、発展させながら専門職業人としての自覚と責任感を育む。

教育目的

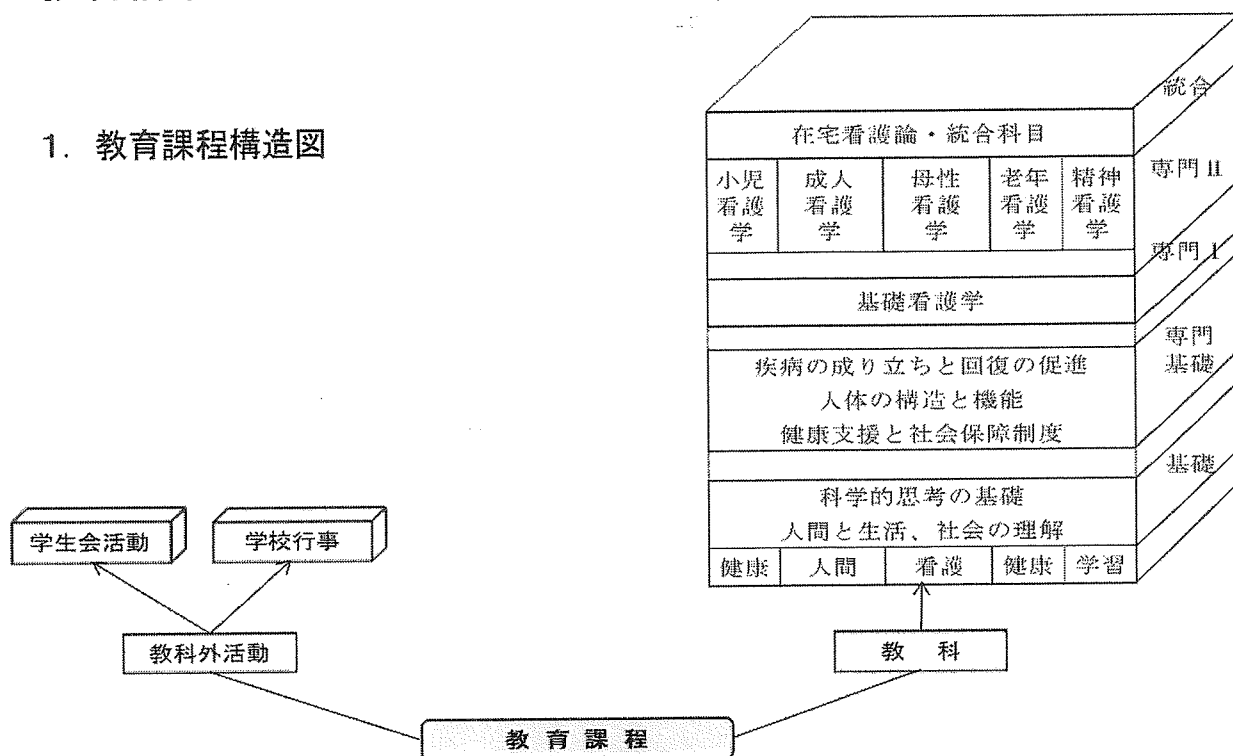
人間愛に基づく豊かな感性を育み、人と人との関係性を築きながら、専門的知識・技術を統合させ、様々な健康レベルにある看護の対象者に対して看護サービスを提供し、自己の能力を発展させながら地域社会に貢献することができる看護師を育てることを目的とする。

教育目標(卒業生の特性)

1. 自己と他者の価値・尊さに気づき、倫理に基づいた行動がとれる。
2. 豊かな感性とコミュニケーション力を養い、他者を受け入れ調整できる人間関係能力を持つ。
3. 問題意識・探究心・自己推進力をもち主体的に行動できる。
4. 自己洞察を通して、自己を常に発展させることができる。
5. 様々な健康レベルにある対象を全人的に捉え、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につける。
6. 総合保健医療福祉システムを理解し、チームの一員としての看護職の役割を果たすための基礎的能力を身につける。
7. 看護に関わる専門職業人としての自覚と責任を持ち、地域社会に貢献することができる。

Ⅱ.教育課程

1. 教育課程構造図



科目の配列とその順序

分野	1 学 年		2 学 年		3 学 年	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
基礎	文章構成法 英語Ⅰ 保健体育	心理学 物理学 社会学	英語Ⅱ 人間関係論		倫理学 統計学 教育学 選択科目 文学	
専門基礎	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生化学 栄養学 医療概論 病理学総論	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 微生物学 薬理学 社会福祉学Ⅰ 公衆衛生学	病理学各論Ⅲ 病理学各論Ⅳ 社会福祉学Ⅱ 病理学各論Ⅴ		関係法規	
専門Ⅰ	看護学概論Ⅰ 看護援助の基本Ⅰ 看護援助の基本Ⅱ 看護援助の基本Ⅲ 日常生活援助技術Ⅰ 日常生活援助技術Ⅱ 日常生活援助技術Ⅲ	看護学概論Ⅱ 看護援助の基本Ⅲ 診療援助技術Ⅰ 臨床看護総論	診療援助技術Ⅱ	臨床看護技術演習		
専門Ⅱ	基礎Ⅰ(1)実習	基礎Ⅰ(2)実習	基礎Ⅱ実			
	成人看護学概論	成人看護学援助論Ⅰ 老年看護学概論	成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学援助論Ⅲ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ	成人看護学援助論Ⅳ 成人看護学援助論Ⅴ 成人実習 老年実習	成人実習Ⅱ 成人実習Ⅲ 老年実習Ⅱ	
	小児看護学概論 小児看護学援助論Ⅰ	小児看護学援助論Ⅱ 母性看護学概論	小児看護学援助論Ⅲ 小児看護学援助論Ⅳ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ	小児実習 母性実習	小児実習 母性実習	
	精神保健	精神看護学概論 精神看護学援助論Ⅰ	精神看護学援助論Ⅱ 在宅看護学援助論Ⅰ 在宅看護学援助論Ⅱ 在宅看護学援助論Ⅲ 看護の統合	精神実習 在宅看護論実習	精神実習 在宅看護論実習	
統合		在宅看護概論			統合演習 看護管理 ケーススタディ 在宅看護論実習	統合実習

2. 教 育 課 程 表

教 育 内 容	授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		単位合計	時間合計	備 考
		単位	時間	単位	時間	単位	時間			
基礎分野 13単位 315時間	科学的思考の基礎 [7単位]180時間	文章構成法	1	30				1	30	
		物理学	1	15				1	15	
		統計学				1	30	1	30	
		英語 I	1	30				1	30	
		英語 II			1	30		1	30	
		選択科目				1	30	1	30	韓国語、フランス語、英語Ⅲより1科目選択する
		倫理学				1	15	1	15	
	人間と生活、社会の理解 [6単位]135時間	心理学	1	30				1	30	
		文学				1	15	1	15	
		社会学	1	15				1	15	
		保健体育	1	30				1	30	
		人間関係論			1	30		1	30	
		教育学				1	15	1	15	
	合 計		6	150	2	60	5	105	13	315
専門基礎分野 21単位 510時間	人間の構造と機能 [5単位]150時間	解剖学Ⅰ	1	30				1	30	
		解剖学Ⅱ	1	30				1	30	
		生理学Ⅰ	1	30				1	30	
		生理学Ⅱ	1	30				1	30	
		生化学	1	30				1	30	
	疾病の成り立ちと回復の促進 [10単位]270時間	栄養学	1	30				1	30	
		微生物学	1	30				1	30	
		薬理学	2	45				2	45	
		病理学総論	1	15				1	15	
		病理学各論Ⅰ	1	30				1	30	
		病理学各論Ⅱ	1	30				1	30	
		病理学各論Ⅲ			1	30		1	30	
		病理学各論Ⅳ			1	30		1	30	
		病理学各論Ⅴ			1	30		1	30	
	健康支援と社会保障制度 [6単位]90時間	医療概論	1	15				1	15	
		公衆衛生学	2	30				2	30	
		社会福祉Ⅰ	1	15				1	15	
		社会福祉Ⅱ			1	15		1	15	
		関係法規				1	15	1	15	
	合 計		16	390	4	105	1	15	21	510
専門分野Ⅰ 15単位 495時間	基礎看護学 [12単位]360時間	看護学概論Ⅰ	1	30				1	30	
		看護学概論Ⅱ	1	30				1	30	
		看護援助の基本Ⅰ	1	30				1	30	
		看護援助の基本Ⅱ	1	30				1	30	
		看護援助の基本Ⅲ	1	30				1	30	
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30				1	30	
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30				1	30	
		日常生活援助技術Ⅲ	1	30				1	30	
		診療援助技術Ⅰ	1	30				1	30	
		診療援助技術Ⅱ			1	30		1	30	
		臨床看護総論	1	30				1	30	
		臨床看護技術演習			1	30		1	30	
		小 計	10	300	2	60	0	0	12	360
	臨床実習 基礎看護学 [3単位]135時間	基礎看護学Ⅰ実習	1	45				1	45	
		基礎看護学Ⅱ実習			2	90		2	90	
		小 計	1	45	2	90	0	0	3	135
	合 計		11	345	4	150	0	0	15	495

教 育 内 容		授 業 科 目	1年次		2年次		3年次		単位合計	時間合計	備 考
			単位	時間	単位	時間	単位	時間			
専門分野Ⅱ 38単位 1320時間	成人看護学 [6単位]165時間	成人看護学概論	1	15					1	15	
		成人看護学援助論Ⅰ	1	30					1	30	
		成人看護学援助論Ⅱ			1	30			1	30	
		成人看護学援助論Ⅲ			1	30			1	30	
		成人看護学援助論Ⅳ			1	30			1	30	
		成人看護学援助論Ⅴ			1	30			1	30	
		小 計	2	45	4	120	0	0	6	165	
	老年看護学 [4単位]120時間	老年看護学概論	1	30					1	30	
		老年看護学援助論Ⅰ			1	30			1	30	
		老年看護学援助論Ⅱ			1	30			1	30	
		老年看護学援助論Ⅲ			1	30			1	30	
		小 計	1	30	3	90	0	0	4	120	
	小児看護学 [4単位]105時間	小児看護学概論	1	15					1	15	
		小児看護学援助論Ⅰ	1	30					1	30	
		小児看護学援助論Ⅱ			1	30			1	30	
		小児看護学援助論Ⅲ			1	30			1	30	
		小 計	2	45	2	60	0	0	4	105	
	母性看護学 [4単位]105時間	母性看護学概論	1	30					1	30	
		母性看護学援助論Ⅰ			1	30			1	30	
		母性看護学援助論Ⅱ			1	30			1	30	
		母性看護学援助論Ⅲ			1	15			1	15	
		小 計	1	30	3	75	0	0	4	105	
	精神看護学 [4単位]105時間	精神看護学概論			1	15			1	15	
		精神保健	1	30					1	30	
		精神看護学援助論Ⅰ			1	30			1	30	
		精神看護学援助論Ⅱ			1	30			1	30	
		小 計	1	30	3	75	0	0	4	105	
	臨地実習 [16単位]720時間	成人看護学実習 (6単位)270時間			6	270	10	450	16	720	
		老年看護学実習 (4単位)180時間									
		小児看護学実習 (2単位)90時間									
		母性看護学実習 (2単位)90時間									
		精神看護学実習 (2単位)90時間									
		小 計	0	0	6	270	10	450	16	720	
	合 計		7	180	21	690	10	450	38	1320	
統合分野 12単位 360時間	在宅看護論 [4単位]90時間	在宅看護概論	1	15					1	15	
		在宅看護援助論Ⅰ			1	30			1	30	
		在宅看護援助論Ⅱ			1	30			1	30	
		在宅看護援助論Ⅲ			1	15			1	15	
		小 計	1	15	3	75	0	0	4	90	
	看護の統合と実践 [4単位]90時間	看護の統合			1	30			1	30	
		看護管理					1	15	1	15	
		ケーススタディ					1	30	1	30	
		統合演習					1	15	1	15	
		小 計	0	0	1	30	3	60	4	90	
	臨地実習 [4単位]180時間	在宅看護論実習					2	90	2	90	
		統合実習					2	90	2	90	
		小 計	0	0	0	0	4	180	4	180	
	合 計		1	15	4	105	7	240	12	360	
請 義 総 計			40	1035	27	750	9	180	76	1965	
実 習 総 計			1	45	8	360	14	630	23	1035	
総 合 計			41	1080	35	1110	23	810	99	3000	

3. 教 科 進 度 状 況

教育内容		授業科目	学 年		1 学 年												2 学 年												3 学 年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
			単 位	時 間	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
基礎分野 (13単位)	科学的思考 の基礎 (7単位)	文章構成法	1	30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									</

4.教育課程計画

教 育 内 容		科 目		学 年	単 位 (時間)	講 義 時 間 (コマ)	評価方法	配 点
基礎分野 13単位	科学的思考の基礎 7単位(180)	文章構成法		1	1(30)	28(14)	レポート	100
		物 理 学		1	1(15)	14(7)	テスト	100
		統 計 学		3	1(30)	28(14)	テスト	100
		英 語 I		1A	1(30)	28(14)	テスト	100
		“		1B	“	“	テスト	100
		英 語 II		2A	1(30)	28(14)	テスト	100
		“		2B	“	“	“	100
		選択科目 (フランス語)		3選択	1(30)	30(15)	授業評価	100
		(韓国語)		3選択		30(15)	授業評価	100
		(英語Ⅲ)		3選択		28(14)	テスト	100
		倫 理 学		3	1(15)	14(7)	テスト	100
	人間と生活、社会 の理解 6単位(135)	心 理 学		1	1(30)	30(15)	レポート	100
		文 学		3	1(15)	14(7)	テスト	100
		社 会 学		1	1(15)	15(8)	レポート	100
		保 健 体 育		1	1(30)	30(15)	実技テスト	100
		人間関係論		2	1(30)	30(15)	レポート	100
		教 育 学		3	1(15)	14(7)	テスト	100
専門基礎分野 21単位	人体の構造と機能 5単位(150)	解 剖 学 I		1	1(30)	28(14)	テスト	100
		解 剖 学 II		1	1(30)	28(14)	テスト	100
		生 理 学 I		1	1(30)	28(14)	テスト	100
		生 理 学 II		1	1(30)	28(14)	テスト	100
		生 化 学		1	1(30)	28(14)	テスト	100
	疾病の成り立ちと 回復の促進 10単位(270)	栄 養 学		1	1(30)	28(14)	テスト	100
		微 生 物 学		1	1(30)	28(14)	テスト	100
		薬 理 学		1	2(45)	44(22)	テスト	100
		病理学総論		1	1(15)	14(7)	テスト	100
		病理学各論Ⅰ		1	1(30)		テスト	100
		消化器内科				14(7)		50
		消化器外科				6(3)		20
		腎・泌尿器				10(5)		30
		病理学各論Ⅱ		1	1(30)		テスト	100
		呼吸器				10(5)		35
						4(2)		15
		循環器				12(6)		40
						4(2)		10
		病理学各論Ⅲ		2	1(30)		テスト	100
		内 分 泌				4(2)		
		“				4(2)		
		代謝				6(3)		
		自己免疫				2(1)		
		血液・リンパ				10(5)		
		口腔外科				4(2)		
		病理学各論Ⅳ		2	1(30)		テスト	100
		女性生殖器				6(3)		
		乳 腺				2(1)		
		発生異常				4(2)		
						2(1)		
		骨・筋肉				8(4)		
		麻 酔				6(3)		
		病理学各論Ⅴ		2	1(30)		テスト	100
		脳神経・脳外科				8(4)		
		脳神経(認知症病態含)				8(4)		
		眼 科				4(2)		
		耳鼻咽喉				4(2)		
		皮 膚				4(2)		

教 育 内 容		科 目	学 年	単 位(時間)	講 義 時 間(コマ)	評価方法	配 点
健康支援と 社会保障制度 6単位(90)		医 療 概 論	1	1(15)	14(7)	テスト	100
		公衆衛生学	1	2(30)	28(14) 18(9) 10(5)	テスト	100
		社 会 福 祉Ⅰ	1	1(15)	14(7)	テスト	100
		社 会 福 祉Ⅱ	2	1(15)	14(7)	テスト	100
		関係法規	3	1(15)	14(7)	テスト	100
専 門 分 野 Ⅰ 1 5 単 位	基 礎 看 護 学 12単位(360)	看護学概論Ⅰ	1	1(30)		テスト	100
		1. 看護の概念			8(4)		65
		2. 看護の対象			6(3)		
		3. 人間と健康			4(2)		35
		4. 看護の提供者			2(1)		
		5. 看護理論			4(2)		
		6. 看護の場と役割・機能			4(2)		
		看護学概論Ⅱ	1	1(30)		テスト	100
		1. 倫理学の基本的な考え方			4(2)		50
		2. 看護師にとっての倫理的意義			2(1)		
		3. 看護専門職の倫理			2(1)		
		4. 倫理的問題へのアプローチ			8(4)		
		5. 看護と研究			12(6)		50
		看護援助の基本Ⅰ	1	1(30)		テスト	100
		1. 看護技術の概念			4(2)		10
		2. 安全を守るための技術			16(8)		40,15
		3. コミュニケーション			8(4)		35
		看護援助の基本Ⅱ	1	1(30)		テスト	100
		1. フィジカルアセスメントの理解			12(6)		
		2. フィジカルアセスメントの実際			16(8)		65,35
		看護援助の基本Ⅲ	1	1(30)		テスト	100
		1. 看護過程の概念と構成要素			6(3)		
		2. ロイの適応理論と看護過程			8(4)		
		3. ロイの適応理論に基づく看護過程の実際			10(5)	テスト50 レポート50	
		4. 看護過程と看護記録			4(2)		
		日常生活援助技術Ⅰ	1	1(30)		テスト	100
		1. 環境を整える技術			14(7)		25
		技術チェック			2(1)	技術試験	50
		2. 活動・休息の技術			12(6)		25
		日常生活援助技術Ⅱ	1	1(30)		テスト	100
		1. 健康生活における清潔の意義と基本的知識			4(2)		50
		2. 身体の清潔・衣生活を整える援助			20(10)		
		3. 技術の評価			5(3)	技術試験	50
		日常生活援助技術Ⅲ	1	1(30)		テスト	100
		1. 食生活の援助技術			8(4)		30
		2. 排泄の援助技術			20(10)		20,50
		診療援助技術Ⅰ	1	1(30)		テスト	100
		1. 検査時の看護			6(3)		20
		2. 治療・処置に伴う看護					
		1) 吸引			4(2)		15
		2) 吸入・酸素吸入			4(2)		15
		3) 包帯			4(2)		15
		4) 創傷処置			6(3)		20
		5) 電 法			4(2)		15
		診療援助技術Ⅱ	2	1(30)		テスト	100
		1. 与薬(採血含む)			20(10)		
		2. 輸液・静脈内注射			6(3)		
		3. 輸血			2(1)		
		臨床看護総論	1	1(30)		テスト	100
		1. 経過別看護			10(5)		25,15
		2. 症状別看護			14(7)		50
		3. 継続看護			4(2)		10

教 育 内 容		科 目	学 年	単 位 (時 間)	講 義 時 間 (コ マ)	評 価 方 法	配 点
		臨床看護技術演習 1. 急性期の看護 2. 終末期の看護 技術試験	2	1(30)	12(6) 14(7) 4(2)	レポート 技術試験50	100
	臨地実習 3単位(135)	基礎看護学Ⅰ実習 基礎看護学Ⅱ実習	実習要綱参照				
専 門 分 野 Ⅱ 3 8 単 位	成 人 看 護 学 6単位(165)	成人看護学概論 1. 成人期の特徴と看護の理解 2. 成人期の保健動向と看護 3. 成人の特性や能力を活かす理論	1	1(15)	4(2) 6(3) 4(2)	テスト	100 70 30
		成人看護学援助論Ⅰ 1. 消化吸収機能障害のある人の看護 2. 栄養・代謝機能障害のある人の看護 3. 内部環境調節機能障害のある人の看護	1	1(30)	10(5) 8(4) 10(5)	テスト	100 35 30 35
		成人看護学援助論Ⅱ 1. 血糖機能障害のある人の看護 2. 身体防御機能障害のある人の看護 3. 感覚機能障害のある人の看護	2	1(30)	10(8) 8(4) 4(2)	テスト	100
		成人看護学援助論Ⅲ 1. 周手術期にある人の看護 2. 呼吸機能障害のある人の看護 3. 循環機能障害のある人の看護	2	1(30)	8(4) 8(4) 12(6)	テスト	100
		成人看護学援助論Ⅳ 1. 脳神経機能障害のある人の看護 2. 運動機能障害のある人の看護 3. 排泄機能障害のある人の看護 4. 性・生殖機能障害のある人の看護	2	1(30)	10(5) 8(4) 6(3) 4(2)	テスト	100
		成人看護学援助論Ⅴ 1. がん看護 放射線診断 放射線看護 カウンセリング 2. 終末期看護	2	1(30)	20(10) 8(4) 2(1) 6(3) 8(4) 4(2)	テスト	100
		老 年 看 護 学 4単位(120)	1	1(30)	8(4) 8(4) 6(3) 6(3)	テスト	100 30 30 20 20
		老年看護学援助論Ⅰ 1. 高齢者の日常生活のアセスメントと援助 2. 日常生活動作維持の援助	2	1(30)	24(12) 4(2)	テスト	100
		老年看護学援助論Ⅱ 1. 寝たきりと認知症高齢者の看護 2. 高齢者のコミュニケーション障害と看護 3. 介護ニーズと医療ニーズをあわせ持つ高齢者とその家族への援助 4. 安らかな死に向けての看護	2	1(30)	14(7) 6(3) 4(2) 4(2)	テスト	100
		老年看護学援助論Ⅲ 1. 疾患の治療に伴う看護 2. 老年期特有の健康障害と看護 3. 看護過程の展開	2	1(30)	2(1) 16(8) 10(5)	テスト	100

教 育 内 容		科 目		学 年	単 位 (時 間)	講 義 時 間 (コ マ)	評 価 方 法	配 点
専 門 分 野 II 3 8 単 位	小 児 看 護 学 4単位(105)	小児看護学概論 1. 子どもと家族の看護の概念 2. 子どもの人権と看護 3. 小児保健対策		1	1(15)	2(1) 6(3) 6(3)	テスト	100 60 40
		小児看護学援助論Ⅰ 1. 子どもの成長・発達と評価 2. 小児期における栄養 3. 発達段階に応じた援助と支援		1	1(30)	12(6) 4(2) 12(6)	テスト	100
		小児看護学援助論Ⅱ 1. 小児期の主な疾患 2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 3. 小児における疾病の経過と看護 4. 心身障害のある子どもと家族の看護 5. 低出生体重児家族の看護		2	1(30)	12(6) 4(2) 8(4) 4(2) 2(1)	テスト	100
		小児看護学援助論Ⅲ 1. 外来における子どもと家族 2. 検査・処置を受ける子どもの看護 3. 活動制限が必要な子どもと家族の看護 4. 隔離が必要な子どもと家族の看護 5. 手術を受ける子どもと家族の看護 6. 痛みのある子どもと家族の看護 7. 救急処置が必要な子どもと家族の看護 8. 小児の看護過程		2	1(30)	2(1) 8(4) 2(1) 2(1) 2(1) 2(1) 2(1) 8(4)	テスト	100
	母 性 看 護 学 4単位(105)	母性看護学概論 1. 母性・母性看護の概念 2. 人間の性と生殖 3. 母性看護と倫理 4. 女性の健康問題と看護 5. 母性の健康と社会 6. 母性各期の特徴と看護		1	1(30)	4(2) 8(4) 2(1) 4(2) 4(2) 6(3)	テスト	100
		母性看護学援助論Ⅰ 1. 妊娠・分娩の正常な経過と正常からの逸脱 2. 周産期看護の概要 3. 妊娠期の看護 4. 分娩期の看護		2	1(30)	10(5) 2(1) 8(4) 8(4)	テスト	100
		母性看護学援助論Ⅱ 1. 産褥期の生理的変化と正常からの逸脱 2. 産褥期の看護 3. 母性の看護過程		2	1(30)	2(1) 18(9) 8(4)	テスト	100
		母性看護学Ⅲ 1. 新生児の生理と正常からの逸脱 2. 新生児期の看護		2	1(15)	4(2) 10(5)	テスト	100
	精 神 看 護 学 4単位(105)	精神看護学概論 1. 精神看護の基本的な考えかた 2. 精神障害者と社会生活		2	1(15)	6(3) 8(4)	テスト	100
		精神保健 1. 精神とは、精神の機能 2. ライフサイクルと精神保健 3. 生活の場と精神保健 4. 社会と精神保健 4. 精神の健康の捉え方 5. 精神障害の歴史的変遷 6. 精神保健活動		1	1(30)	4(2) 6(3) 4(2) 6(3) 2(1) 4(2) 2(1)	テスト	100
		精神看護学援助論Ⅰ 1. 精神障害の基本的な考えかた 2. 精神障害の理解 3. 精神障害をもつ人の看護 4. 精神科における看護管理		2	1(30)	2(1) 12(6) 8(4) 4(2)	テスト	100
		精神看護学援助論Ⅱ 1. ケアの人間関係 2. 健康レベルに応じた看護 3. 精神に健康障害を持つ人の看護の実際		2	1(30)	6(3) 8(4) 14(7)	テスト	100

教 育 内 容		科 目		学 年	単 位 (時 間)	講 義 時 間 (コマ)	評 価 方 法	配 点
統 合 分 野 1 2 単 位	臨地実習 16単位(720)	成人看護学実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習	実習要綱参照					
	在 宅 看 護 論 4単位(90)	在宅看護概論 1. 地域保健医療福祉の中の在宅看護 2. 在宅看護の目的と対象 3. 在宅看護と倫理		1	1(15)	6(3) 4(2) 4(2)	テスト	100
		在宅看護援助論Ⅰ 1. 在宅看護の機能と役割 2. 継続看護と連携 3. 在宅看護の展開		2	1(30)	8(4) 8(4) 12(6)	テスト	100
		在宅看護援助論Ⅱ 1. 在宅看護のコミュニケーション 2. 日常生活援助の看護技術 3. 治療処置に伴う看護技術		2	1(30)	6(3) 12(6) 10(5)	テスト	100
		在宅看護援助論Ⅲ 1. 在宅療養者の疾患・状態別看護 2. 在宅看護過程		2	1(15)	6(3) 8(4)	テスト レポート	100 30 70
		看護の統合と実践 4単位(105)	看護の統合 1. 医療安全 2. 救命救急 3. 国際協力 4. 災害看護	2	1(30)	14(7) 6(3) 2(1) 6(3)	テスト	100
		看護管理 1. 看護管理の概念 2. 看護におけるマネジメント 3. 看護管理の実践 4. マネジメントに必要な知識と技術 5. 看護教育と看護の展望		3	1(15)	2(1) 4(2) 4(2) 2(1) 2(1)	テスト	100
		ケーススタディ 1. ケーススタディの意義・目的 2. ケーススタディのプロセス 3. ケーススタディの実践		3	1(30)	2(1) 8(4) 20(10)	ケーススタディ 論文 学習態度	100
		統合演習 1. 臨床看護の実践		3	1(15)		レポート 技術試験	100 30 70
	臨地実習 4単位(180)	在宅看護論実習 統合実習	実習要綱参照					

5. 授業科目の概要

A. 基礎分野

看護の対象である人間を幅広い視野で捉え、感性を磨くと共に人間関係を築くことのできる能力を養う。さらに現象を科学的・論理的に思考し、主体的に判断、行動、自己成長できる基礎とする。

<科学的思考の基盤>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
文章構成法	1	30	現象を的確に捉え筋道を立てて考える論理的思考とそれを表現できる文章構成能力を養う。文章構成に関する問題意識を明確に持ち、かつ自己の文章構成力を自己評価しながら学習できる事と、レポート課題に活用していけるよう1年次前期に履修する。	講義 演習	1年次 前期
物理学	1	15	医療・看護現場において援助技術や医療機器等の作動原理に、物理学の理論が多く利用されている。看護に関連する現象と物理学の現象を理解し、科学的・論理的な態度を養う。	講義	1年次 後期
統計学	1	30	各種統計データの取り扱い方、まとめ方の基礎を習得し、看護研究及び保健の動向への理解に役立てる。情報の収集・整理・活用方法について、パソコンを用いて学び、情報化社会へ対応できる基礎的能力を身に付ける。	講義 演習	3年次 前後期
英語Ⅰ	1	30	国際社会の一員として基本的な英語力を持ち、簡単な日常会話が行えることを目的とした学習を行う。	講義 演習	1年次 前後期
英語Ⅱ	1	30	医療・看護英語を学び、看護に関する簡単な英文を解釈できるようになることを目的とした学習を行う。	講義 演習	2年次 後期
選択科目 ・フランス語 ・韓国語 ・英語Ⅲ	1	30	フランス語、韓国語を通して諸外国とその文化への関心を高め、国際社会の一員としての自覚を持つ。 英語Ⅲでは外国の文献、資料を活用できるよう長文読解の基礎的能力を養う。 1科目を選択し受講する。	講義 演習	3年次 前期
倫理学	1	15	生命倫理を学び、生の尊厳と、生の質について考えることを狙いとする。人間としての社会的成長につなげられるよう、3年次に設定。さらに、看護職者として倫理的課題に向えるよう、全ての実習終了後に演習を行う。	講義 演習	3年次 前期

＜人間と生活、社会の理解＞

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
心理学	1	30	心理学の基礎的知識、及び人間の心理、行動について学び、自己及び対象の幅広い理解を深める。各看護学における対象論の講義に先駆けて行う。	講義	1 年次 前後期
文学	1	15	文学作品に接する事で教養と情操を深めるとともに、文学作品を通して人間存在や人間の生活などに対する考えを深める。	講義	3 年次 前期
社会学	1	15	社会的存在としての人間理解に必要な社会関係の概念をはじめ、人間と社会及び理論に関する基礎的知識を学ぶ。さらに家族社会学の基礎知識を学ぶ。	講義	1 年次 前後期
保健体育	1	30	体力の増強をはかる中でスポーツの楽しみを実感し、その意味を体験を通して学ぶ。	講義 実技	1 年次 前期
人間関係論	1	30	対人関係に関する諸理論を学ぶことにより、相互尊重に基づいて、人間関係を築くための基礎的能力を養う。自己洞察を深めながら学習できるようにする。	講義 演習	2 年次 前後期
教育学	1	15	教育の目的や本質を理解し、看護場面における教育的役割について学ぶ。	講義	3 年次 前期

B. 専門基礎分野

看護の専門性から人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進を学び、看護援助を科学的に判断・実践する上で必要な基礎的知識を学習する。

さらに総合保健医療福祉について学び、健康や障害の状態に応じた支援に必要な知識と基礎的能力を養う。

<人体の構造と機能>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
<解剖学>			人間の正常な形態、構造を人体の諸機能と関連付けて学ぶ。		
解剖学Ⅰ	1	30	細胞、組織、骨格系、筋系、循環器系 血液・造血器・リンパ系、消化器系	講義 見学	1年次 前期
解剖学Ⅱ	1	30	呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系 神経系、外皮、感覚器	講義	1年次 前後期
<生理学>			人間の正常な形態、構造に関連づけ、生理機能や生命現象を学ぶ。		
生理学Ⅰ	1	30	細胞生理、血液・造血・リンパ系、神経系 皮膚、運動器系、循環器系、呼吸器系	講義	1年次 前期
生理学Ⅱ	1	30	消化器系、腎・泌尿器系 内分泌・代謝・栄養・体温、生殖、感覚器	講義	1年次 前後期
生化学	1	30	物質代謝や、エネルギー交代の仕組みについて学び、人体の生命現象を科学的側面から捉える。	講義	1年次 前期

<疾病の成り立ちと回復の促進>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
栄養学	1	30	生命の正常な営みのための必要な栄養に関する基礎的知識及び健康障害・健康回復と栄養との関係を学び、看護実践のための基礎的知識とする。また、調理実習を行い保健指導・患者指導に学んだ知識を活用できるようにする。	講義 調理実習	1年次 前期
微生物学	1	30	病原微生物が人体に及ぼす影響、感染と免疫の機序を理解し、疾病の予防対策について学びと共に、感染予防に対する責任を認識する。	講義	1年次 前期

薬理学	2	45	薬物の作用機序、副作用など生体への影響、薬物の取り扱いや管理について学習する。また基礎的知識をもとに、薬物療法における看護の役割について考えられる。 臨床の場での薬物療法が理解できるよう以下の各薬剤について学習する。 末梢神経作用薬、心臓・血管系作用薬、中枢神経作用薬、炎症とアレルギーに関する薬物、物質代謝作用薬、気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、化学療法薬	講義	1年次 前後期
病理学総論	1	15	人体組織における主要な病的状態について、その原因、発生機序、病理的状态を学ぶ。	講義	1年次 前期
病理学各論			器官系統別の代表的疾病の原因、発生機序、経過、検査、治療法を学び、疾病の成り立ちと回復を助ける医療内容を理解する。		
病理学各論Ⅰ	1	30	消化器系の疾患、腎泌尿器系の疾患	講義	1年次 前後期
病理学各論Ⅱ	1	30	呼吸器系の疾患、循環器系の疾患	講義	1年次 後期
病理学各論Ⅲ	1	30	内分泌系の疾患、自己免疫疾患、血液・リンパ系の疾患、口腔外科疾患、代謝異常	講義	2年次 前後期
病理学各論Ⅳ	1	30	女性生殖器系の疾患、乳腺疾患、発生異常、運動器系の疾患、麻酔	講義	2年次 前後期
病理学各論Ⅴ	1	30	脳神経系の疾患、感覚器系の疾患	講義	2年次 前後期

<健康支援と社会保障制度>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
医療概論	1	15	総合保健医療福祉の概念を理解し、保健・医療・福祉における現状の問題と今後の展望について学ぶ。	講義	1年次前期
公衆衛生学	2	30	健康生活を阻害する環境問題、生活水準、疾病罹患傾向から生ずる健康問題に関する組織的な活動を学ぶ。	講義	1年次後期
社会福祉学Ⅰ	1	15	総合保健医療福祉における福祉の概念を理解し、社会制度と社会資源の活用方法を学ぶ。	講義	1年次後期
社会福祉学Ⅱ	1	15	現代の福祉問題を把握すると共に看護と社会福祉の関連性、看護実践における福祉との協働の意義を修得する。	講義	2年次前後期
関係法規	1	15	我が国の保健医療福祉に関する法令制度を理解し、看護は法的根拠に基づき、看護業務がなされていることを理解し、看護職の果たす役割を理解する。	講義	3年次前期

C. 専門分野 I

看護学の目的・対象・方法論を学び、対象の様々な健康問題を解決するために行われる看護活動を理解し、看護行為の基礎となる知識・技術・態度を修得する。人間の尊厳を重視し、安全で安楽な看護について学ぶ。さらに看護実践する上で欠かせない倫理観をはぐくみ、看護実践の基礎となる態度を養う。

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
看護学概論Ⅰ	1	30	看護学の学習の第1歩として、看護の概念、役割、機能、看護の対象である人間、健康について学ぶ。この科目での学びを通して、看護の役割と重要性について考え、今後の学習の方向性を見出すことを目指す。	講義	1年次前期
看護学概論Ⅱ	1	30	専門職として倫理的判断のもとに看護を行うため、看護実践の基本的概念である職業倫理としての看護倫理を学ぶ。さらに専門職者として、研究を行えるための基礎的知識と方法を学ぶ。	講義 演習	1年次前後期
看護援助の基本Ⅰ	1	30	看護実践の基盤となる看護技術の概念を学び、さらにコミュニケーション、安全など看護行為に共通する技術を学ぶ。	講義 演習	1年次前期
看護援助の基本Ⅱ	1	30	看護を実践するためには、フィジカルアセスメントを行い、根拠に基づいて的確に系統的に把握する必要がある。そのための基本的な知識・技術・態度を身につける。	講義 演習	1年次前後期
看護援助の基本Ⅲ	1	30	看護における問題解決思考プロセスを理解し、対象に応じた問題を的確に捉え、解決して行くための看護過程展開の基礎的知識を学ぶ。	講義 演習	1年次前後期
日常生活援助技術Ⅰ	1	30	心身の機能を十分に発揮できるための環境調整、生体リズムを整える活動・休息の原理・原則を理解し、生活行動を整えるための基礎的援助技術を習得する。	講義 演習	1年次前期
日常生活援助技術Ⅱ	1	30	人間生活に欠かせない基本的ニードである清潔を保つための原理・原則を理解し、対象に応じた方法で生活行動を整えるための基礎的援助技術を習得する。	講義 演習	1年次前後期
日常生活援助技術Ⅲ	1	30	食事・排泄という人間の健康にとって欠くことが出来ない重要な生活行動を整えるための基礎的援助技術を習得する。	講義 演習	1年次前後期

診療援助技術 Ⅰ	1	30	生体機能を整えるための診療援助技術の基本を学習し、安全で安楽な援助が実践できる能力を習得する。ここでは、吸引・吸入・酸素吸入・包帯・創傷処置・電法を学習する。	講義 演習	1 年次 前後期
診療援助技術 Ⅱ	1	30	生命に直結することが多い、与薬・輸液・静脈内注射・輸血などの診療援助技術を中心に、安全で効果的な技術が提供するために必要な看護を学習する。	講義 演習	2 年次 前期
臨床看護総論	1	30	看護実践を行うための基礎的能力を修得するため、健康レベル、看護の目的・役割、主要症状に応じた基礎的知識を学ぶ。	講義 演習	1 年次 前後期
臨床看護 技術演習	1	30	事例に基づいて、対象の健康問題解決に向けて、知識・技術・態度を統合して実践する過程を学ぶ。	講義 演習	2 年次 前後期

D. 専門分野Ⅱ

看護の専門領域別に健康レベルとライフステージに応じた看護を学ぶ。看護の対象及び目的の理解、健康の保持増進および疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ。

<成人看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
成人看護学 概論	1	15	成人各期にある対象の特徴を理解し、成人看護の意義と役割を明確にする。成人期に起こりやすい疾病、障害を理解し、健康を保持・増進するための必要な看護の役割を学ぶ。	講義 演習	1年次 前期
成人看護学 援助論Ⅰ	1	30	消化吸収機能、栄養・代謝機能、内部環境調節機能障害により、生涯に亘り自己コントロールが必要な人の看護を実践するための基礎を学ぶ。	講義 演習	1年次 後期
成人看護学 援助論Ⅱ	1	30	血糖調節器機能、身体防御機能、感覚機能障害により、生涯に亘り自己コントロールが必要な人の看護を実践するための基礎を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期
成人看護学 援助論Ⅲ	1	30	周術期にある人、呼吸機能、循環機能障害があり、健康や生命の危機的状況にある人の看護を実践するための基礎を学ぶ。	講義 演習	2年次 前期
成人看護学 援助論Ⅳ	1	30	脳神経機能、運動機能、排泄機能、性・生殖機能障害により、生活の再構築を要する人の看護を実践するための基礎を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期
成人看護学 援助論Ⅴ	1	30	がん看護の基本的な知識、終末期にある人が安らかな最期を迎える過程の看護の基礎を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期

<老年看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
老年看護学 概論	1	30	老年期にある対象の身体的、精神的、心理的、社会的変化と特徴を理解する。また、高齢社会における保健、医療、福祉の意義と老年看護の役割について学ぶ。	講義 演習	1年次 前後期
老年看護学 援助論Ⅰ	1	30	加齢に伴う身体的、精神的、社会的変化をふまえて、老年期にある対象の日常生活への適応を促進し、自立性の維持を目指した看護が行える方法を学ぶ。	講義 演習	2年次 前期
老年看護学 援助論Ⅱ	1	30	身体・精神・社会的変化などにより、生活機能の低下や日常生活行動が自立に向かえない高齢者が有する特徴的な二次的障害を理解する。また、その高齢者や家族を援助するために必要な基礎的知識と高齢者を尊重した看護を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期
老年看護学 援助論Ⅲ	1	30	老年期は、加齢に伴い回復力や予備力などが低下し、疾患や障害をおこしやすい状態にある。高齢者の身体的特徴を理解したうえで、罹患しやすい疾患を中心にその病態生理と看護を学ぶ。 さらに、疾患や二次的障害の予防に向けたアセスメントをおこない、健康問題を有する高齢者の健康回復と日常生活自立を目指した看護を学ぶ。	講義 演習	2年次 前後期

<小児看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
小児看護学 概論	1	15	小児の健康指標と小児を保護する法律や社会の動向、施策などに目を向け、小児看護を取り巻く環境を学び、小児看護の役割と意義について学ぶ。	講義	1年次 前後期
小児看護学 援助論Ⅰ	1	30	小児（家族を含む）の成長・発達、小児各期の具体的な子どもの生活と発達を理解し、発達段階に応じた援助、支援を学び、小児看護に必要な基本的能力を身につける。	講義 演習	1年次 後期
小児看護学 援助論Ⅱ	1	30	小児の疾患を学ぶ。病気や入院が小児と家族に与える影響を理解することから、看護を学ぶ。	講義	2年次 前期
小児看護学 援助論Ⅲ	1	30	小児の発達段階や家族のニーズ、疾病や健康問題の状態に応じた看護を学ぶ。健康障害を持つ子どもと家族が遭遇するさまざまな状況を知り、看護に必要な知識・技術・態度を身につける。	講義 演習	2年次 前後期

<母性看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
母性看護学概論	1	30	生殖を中心とした女性（男性）及び、母性（父性）の概念と身体・精神・社会的特徴を捉え、母性看護学の概念と意義を理解する、また母子保健の動向と対策、影響要因を学習し、社会変化に伴う母性看護の役割を理解する。	講義	1年次前後期
母性看護学援助論Ⅰ	1	30	妊娠期・分娩期の母子の生理的変化と適応を促す看護を理解する。また健康問題を判断するのに必要な基礎的知識と非効果的反応時の看護について学ぶ。	講義 演習	2年次前期
母性看護学援助論Ⅱ	1	30	産褥期の母体の回復を促し、母子関係を基盤とした育児技術修得に向けての看護を学ぶ。また、新しい家族が増え、家族の結びつきが強化されるための看護活動に必要な看護の基礎的能力を養う。	講義 演習	2年次前後期
母性看護学援助論Ⅲ	1	15	新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活への適応を促す援助を学ぶ。母子相互作用を通じて母親との関係が成立することを基盤とした成長発達を促すために必要な看護の基礎的能力を養う。	講義	2年次前後期

<精神看護学>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
精神看護学概論	1	15	精神看護の概要を対象・場・看護者の役割から理解する。特に地域で生活する障害者にとって必要となる援助とサポートシステムについて理解する。また精神障害者の人権尊重と看護師の倫理的配慮について学ぶ。	講義	2年次前期
精神保健	1	30	精神のはたらき・しくみ、精神の健康と影響因子について理解する。またその中で起きる危機状況について理解し、各看護学で学ぶ対象理解の基盤とする。	講義 演習	1年次後期
精神看護学援助論Ⅰ	1	30	精神疾患とその治療処置を理解し、それぞれにおける看護について学ぶ。また精神科で用いる特徴的な看護援助技法と精神科における看護管理について学ぶ。	講義 演習	2年次前後期
精神看護学援助論Ⅱ	1	30	精神障害をもつ対象との関係の構築に必要なコミュニケーションの技法を学ぶ。また精神障害を持った方の健康レベルに応じた看護過程の展開について理解する。	講義 演習	2年次前後期

E. 統合分野

各看護学で学んだ対人関係能力、看護過程展開能力、看護技術力を臨床で実際に活用することが出来るように知識を統合し、実践力を身につける。また、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、他職種との協働を含めた在宅での看護の基礎を学習する。さらに、チーム医療の中での看護師の役割、患者の安全を守る責務、看護の社会的役割などについて学ぶ。

<在宅看護論>

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
在宅看護概論	1	15	在宅看護を取り巻く地域保健医療福祉の全体像と、その中に位置づけられる地域看護の概要、在宅看護の基盤となる概念の基本的知識と倫理的行動について学ぶ。	講義	1年次後期
在宅看護援助論Ⅰ	1	30	在宅看護での役割を充分発揮するために必要な在宅看護活動の仕組みや関連する法律、他支援機関との連携や継続看護、在宅看護の看護過程の基本について学ぶ。	講義 演習	2年次前期
在宅看護援助論Ⅱ	1	30	対象の状況に応じた在宅看護を展開するために、専門科目Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎看護技術を統合し、在宅で看護実践できる知識、技術、態度を学ぶ。	講義 演習	2年次前後期
在宅看護援助論Ⅲ	1	15	在宅で関わることの多い主な疾患や病状をもつ療養者と家族への援助について、各領域で学んだことをふまえ、事例をとおしながら一連の過程を学ぶ。	講義 演習	2年次後期

＜看護の統合と実践＞

授業科目	単位	時間	教育内容の（概要）ねらい	授業形態	履修時期
看護の統合	1	30	多様な場面で求められる看護の役割・機能を理解し、信頼される看護が実践できるための基礎的能力を修得する。 医療安全、救命救急、国際協力、災害看護において看護者が担う役割・機能・活動内容を学習し、習得した看護技術を安全に実践できる能力を身につける。	講義 演習	2年次 前後期
看護管理	1	15	看護専門職としてマネジメント能力が求められている。マネジメントの概念・看護管理に関する基本的な知識と技術を学び、専門職業人としての基礎作りを行う。	講義	3年次 前後期
ケーススタディ	1	30	ケーススタディのプロセスを理解し、実習中受け持ったケースの看護過程の展開を振り返り、詳細に検討・再評価を行う。 ケーススタディの取り組みを通して問題意識を高め、研究的態度を養う。また自己洞察を深め、自己の看護観を育む。	講義 演習	3年次 前後期
統合演習	1	15	様々な健康レベルにある対象者に、根拠に基づいた看護技術の実践ができるような応用力を身につける。 複数事例の看護計画を展開し、3年間で学習した基礎的知識と看護援助技術の達成状況を総合的に評価する。	講義 演習	3年次 前後期

基礎分野

科学的思考の基盤

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
文章構成法	1 単位（30 時間）	1 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 私たちの生活の中で、他者とのコミュニケーションは、欠かすことのできないものです。そのためのツールとしては、文章が大きな要素を占めています。よりよいコミュニケーションをとるためには、よい文章を用いる必要があることは、容易に理解できます。しかし、よい文章とはどのようなものであるかという絶対的なモデルは存在しません。ここの文章に当たって良いか悪いかの判断をすることはそれほど難しくはありませんが、どういうものがよいかというものを一般化することはできません。同じものが、場合によって良くも悪くもなってしまいます。 この授業では、文章を書く際に、どういう点に、どのように気をつける必要があるかという、着眼点を示したいと思います。それらを知ること、よりよい文章を書くための手がかりとなればよいと思います。			
授 業 計 画	第1回 よい文章とは 第2回 コミュニケーションの留意点 第3回 常用漢字 第4回 仮名遣い 第5回 送り仮名 第6回 文章の様式（手紙・はがき・原稿用紙） 第7回 書くために必要な文法事項（品詞） 第8回 書くために必要な文法事項（敬語） 第9回 文の構造（主語・述語） 第10回 文の構造（修飾語・被修飾語） 第11回 文章表現の要素（記号・句読点／慣用表現1） 第12回 文章表現の要素（慣用表現2） 第13回 文章構成（代表的形式） 第14回 文章構成（効果的な構成） 第15回 まとめ		
評 価	レポートによる。		
教 科 書	特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。		
参 考 文 献	授業の際に、適宜紹介します。		

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
物 理 学		1 単 位 （ 1 5 時 間 ）	1 年 次 後 期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 私たちの周りでおこっている現象は、物理学を理解するときにほとんどのことが合理的に説明できる。物理学というと難しいと考えがちだが、支配している物理法則はそう多くない。私たちが日常生活を通しての経験を単なる経験ですませるのでなく「なぜだろう」と考えこれを物理法則から説明できるようになったときに「科学的にものを考える」ことのすばらしさを感じることだろう。このことは医療の現場に存在するさまざまな事象を理解するうえでも大切な心構えとなる。 この物理学では力や圧力に関する知識を中心にし、電気に関する基礎知識もとりあげる。医療や看護の現場で扱う機器や現象を例題としながら科学的な思考を訓練することを目指したい。				
授 業 計 画	授業回数	講 義 内 容		
	第 1 回	導 入 ： 物理学の歴史と基礎事項		
	第 2 回	質点の力学 ： ニュートンの運動法則 力学的エネルギー保存則		
	第 3 回	剛体の力学 ： トルク、釣り合い、重心、摩擦		
	第 4 回	流体の力学① ： 圧力、浮力、気圧、血圧		
	第 5 回	流体の力学② ： ベルヌーイの定理、ボイルの法則		
	第 6 回	熱 現 象 ： 比熱 熱と仕事		
	第 7 回	電 気 ： 電気に関する基礎知識 感電		
	第 8 回	筆 記 試 験		
評 価	筆記試験は、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等を総合して評価する。 筆記試験による割合は70%程度とする。			
教 科 書	新体系看護学全書 基礎分野 物理学 メヂカルフレンド社 2019 第2版			
参 考 文 献	都度紹介			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
統 計 学	1 単位（30 時間）	3 年次 前・後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 統計学は社会の中の集団を対象として、数値により事象の特性や法則を明らかにしようとする学問領域である。 殊に、近年の医学・看護学領域ではEBM（Evidence based Medicine）の実践において統計学の処理が必須となっている。 本講義では、統計学の基礎知識や基本的な考え方、統計学と医学・看護学の関わりを理解することはもとより、統計学を用いた看護研究デザインを紹介しながら、より実践的な形での理解、習得を目指す。			
授 業 計 画	<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション、看護学における統計学学習の意義 第 2 回 様々な健康指標 第 3 回 データの種類と入力方法 第 4 回 度数分布表、クロス集計表、図示法 第 5 回 集団をあらわす代表的な数値 第 6 回 確率、正規分布 第 7 回 正規分布以外の確率分布 第 8 回 推 定 第 9 回 代表的な統計学的検定（1） 第10回 代表的な統計学的検定（2） 第11回 回帰と相関 第12回 疫学と統計学 第13回 保健統計の実際 第14回 統計学を用いた看護研究のデザイン 第15回 試 験		
評 価	試験、出席状況、講義への参加態度により評価		
教 科 書	系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院 2016 第7版		
参 考 文 献	講義の中で紹介する		

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担当講師名
英 語 I	1 単位 (30 時間)	1 年次 前・後期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 英語の面白さを再発見するために、カンタンな英英クロスワード、漫画みたいなイラスト・ストーリーに英語字幕をつけることなどのようなプリントを使いながら、単語の源や裏話を面白く説明させていただきます。			
授 業 計 画	1. 全世界のメガシティ・ランキング兼日本の大都会ランキング 2. 世界の言語分布ランキング***イラスト・ストーリー#1 寝る時間 3. 英語の起源***英英クロスワード#1 暦上***イラスト・ストーリー#2 起きる時間 4. 韓国語の「アルファベット」ハングルの仕組み***英英クロスワード#2 都会にある場所 5. 中国語の起源***イラスト・ストーリー#3 朝食のコンフ레이크 6. ラテンアルファベット「ローマ字」の起源***英英クロスワード#3 住宅の内部 7. 古代エジプトの象形文字***イラスト・ストーリー#4 昼飯の缶詰スープ 8. 言葉の連想#1 第4番目の単語を想像しましょう 9. ハロウィンの起源と現代の風俗***英英クロスワード#4 ハロウィン 10. 英英クロスワード#5 秋の季節 11. 言葉の連想#2 第4番目の単語を想像しましょう 12. 英英クロスワード#6 冬の季節***日常表現のプリント2頁目「電話で会話する」の説明 13. 日常表現のプリント2頁目「電話で会話する」の一人ひとりで演習すること 14. 期末試験の説明と模擬試験		
評 価	積極的な学習態度。Always do your best. そして学年末の試験の成績も合わせて計算します。		
教 科 書	担当教師が作った教材や市販の教材から選んだページをプリントにして使用します。		
参 考 文 献	英和・和英辞典（電子辞書がお勧めです。軽くて使いやすいため。）		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
英 語 I	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> <テーマ> To help students develop skill and confidence in using English. <ねらい> Speaking , Listening , Grammar Awareness , Vocabulary Expension. <受講形態> ペアワークとグループワークが中心です。 1. ペアワークとグループワークに積極的に参加してください。 2. 失敗を恐れずに英語を話してください。			
授 業 計 画	1. Jobs. Making introductions. 2. Jobs. Asking questions in the simple present. 3. Daily activities. Talking about lifestyles. 4. Daily activities. Presentation on student's daily routines. 5. At the moment. Life experiences. 6. At the moment. Present continuous questions and current life events. 7. Feelings. Making plans. Subject and object pronouns. 8. Feelings. Your opinions on social networking. 9. On the weekend. Past weekend activities. 10. On the weekend. Free time activities. 11. Downtown. Asking for directions. 12. Downtown. Where you live. Museums. Prepositions of place. 13. Presentations. 14. Review. 15. Test.		
評 価	試験の結果と授業中どれだけ積極的に英語を使っていたかという2点で評価します。		
教 科 書	Stretch. Level1. Multi-pack A. Publisher : Oxford Author : Susan Stempleski ISBN : 978019-4603270		
参 考 文 献			

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
英 語 Ⅱ		1 単位（30 時間）	2 年次 後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 体調の悪い人や怪我を負った人との基本的な遣り取りを英語で出来るようになることを目指すと共に、日本滞在中に体調を崩したり、怪我を負ったりした外国人観光客に医療の場で看護師として接する際に必要となる初歩的な会話が英語で行える程度の能力を養うことを目的とします。単に英会話に興味があるというのではなく、英語で積極的に話そうとする姿勢を持ち、自らの考えを表現するのに必要となる最低限の文法と語彙を何としても身に付けたいと強く望むことが肝要です。				
授 業 計 画	1 回 発音と韻律 2 回 相手を気遣う 3 回 会話練習（話し掛けと歩み寄り） 4 回 相手の具合を尋ねる 5 回 会話練習（寄り添いと援助） 6 回 痛みについて詳しく尋ねる 7 回 会話練習（痛みの様態） 8 回 身体に関わる因果関係 9 回 会話練習（怪我や体調不良の原因） 10 回 怪我や病状について説明し、補助する 11 回 会話練習（怪我や体調不良への処置） 12 回 怪我や病気の経過について尋ねる 13 回 会話練習（怪我や病気の経過） 14 回 怪我人・患者を労い、労わり、励ます 15 回 学習のまとめ			
評価	出席と小テストによる。			
教科書	開講時に配布			
参考文献	随時指示			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
英 語 Ⅱ	1 単位（30 時間）	2 年次 後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 履修目的： 病気の症状や病名を表す言葉など、医療に関する基本的な語彙の語構成を理解し、文字及び音声による修得を目指す。実際に医療の現場において必要と思われる英会話を学び、基本的な英会話力を養う。簡単な英文を読み、文法の確認・読解力の向上を目指す。 授業概要： 使用テキスト「First Aid ! English for Nursing」の 1 チャプターを基本的に 1 授業ごとに行う。授業中の活動は、リスニング練習、会話練習、基本構文の暗記、新出語彙の意味検索、英文和訳などを中心とする。3～4 コマごとに小テスト行う。			
授 業 計 画	<授業計画> 1 オリエンテーション、Chapter 1「来院」 2 Chapter 2「初診受付」 3 Chapter 3「生活習慣を聞く」 4 Chapter 4「問診（1）」 5 Chapter 5「脈拍、血圧、体重の測定」 6 Chapter 6「採血、採尿」 7 Chapter 7「診断（1）」 8 Chapter 8「問診（2）」 9 Chapter 9「症状をより詳しく聞く」 10 Chapter 10「診断（2）」 11 Chapter 11「薬の説明」 12 Chapter 12「問診（3）」 13 Chapter 13「MRIを受ける」 14 Chapter 15「術後のコミュニケーション」、総復習 15 最終試験		
評 価	小テストと最終試験の得点を平均した絶対評価であるが、平常点（授業に於ける積極性など）も考慮して総合的に判定する。		
教 科 書	First Aid ! English for Nursing 樋口晶彦・John Tremarco 共著 全星堂 2013		
参 考 文 献	英和辞典必須（電子辞書推奨。書籍辞書は最低でも 6 万語を収録するもの（大修館のジーニアス英和辞典、三省堂のウィズダム英和辞典等）を推奨。）		

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
韓 国 語		1 単位（30 時間）	3 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 韓国語で基本的な会話ができるようになることを目指すと同時に辞書を引けば平易な文章が読み解ける程度の能力を養うことを目的とします。単に韓国語文化に興味があるという程度ではなく、韓国語を文法的にも学びたいと考える人を対象とします。				
授 業 計 画	<授業計画>			
	第 1 回 : オリエンテーション			
	第 2 回 } 第 3 回 } 発音と基本単語 第 4 回 }			
	第 5 回 } 第 6 回 } 基礎文法 第 7 回 }			
	第 8 回 } 第 9 回 } 会話練習 第 10 回 }			
画	第 11 回 } 第 12 回 } 文章読解 第 13 回 } 第 14 回 } 第 15 回 }			
評	出席と小テストによる			
価				
教科書	開講時に配布			
参考文献	随時指示			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
英 語 Ⅲ	1 単位（30 時間）	3 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> Course aims The goal of this course is for students to improve their English communication Skill with a focus on health care.Students will be able to practice dialogs, Increase their vocabulary,and improve their listening skills so they will be to Communicate with future patients in more fluent English. Many students already have a basic knowledge of English and just need the Chance to practice using their English skills in order to feel more confident. Another aim of this class is to build confidence in interacting with English Speaking patients. <授業形態> Class structure The class involves pair work and group work and students are expected to Participate fully at all times. ペアワーク、グループワークがあります。常に積極的に授業に参加してください。			
授 業 計 画	1. Hospital Departments 2. Application Forms 3. Parts of the Body 4. Illnesses 5. Daily Routines 6. Hospital Objects 7. Locations of Hospital Objects 8. Hospital Directions and Instructions 9. Directions Outside the Hospital 10.Chatting with a Patient 11.Taking a Medical History 12.Hospital Procedures 13.Review 14.Review		
評 価	授業の参加態度、プレゼンテーション、スピーキングテストによって評価します。 Evaluation:Students will be evaluated on their class participation, presentations,and a final oral exam.		
教 科 書	Vital Signs(Revised Edition)Essential English for Healthcare Professionals Vivian Morooka and Terri Sugiura. Nan'un-do.ISBN978-4-523-17868-2 C0082		
参 考 文 献	なし		

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
フランス語		1 単位（30 時間）	3 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> フランス語で基本的な会話が出来るように成ることを目指すと共に、辞書を引けば平易な文章が読み解ける程度の能力を養うことを目的とします。単にフランス文化に興味があるというだけでなく、フランス語の文の組み立てとその使われ方について学びたいと考える人を対象とします。				
授 業 計 画	第 1 回～第 2 回 発音、綴りと基本単語 第 3 回～第 5 回 基本文法（口語文法） 第 6 回～第 8 回 会話練習 第 9 回～第 10 回 基本文法（文語文法） 第 11 回～第 14 回 文章解読 第 15 回 学習のまとめ			
評 価	出席と小テストによる			
教 科 書	開講時に配布			
参 考 文 献	随時指示			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
倫 理 学	1 単位（15 時間）	3 年次 前期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 履修目的： 授業の目的は、生命倫理・看護倫理に関わる個別具体的な問題の学習である。生命倫理・看護倫理に関する知識を習得することも重要である。しかし、知識の習得以上に、具体的な事例に触れ、自分自身で考える経験を持ってもらうということが授業の主たる目的になる。さまざまな倫理的な問題に関し、自ら考えてみることによって、医療・看護の現場で働くときの心構えを養う。 概要・指針： まず、生物医学倫理（biomedical ethics）の4原則など、生命倫理・看護倫理の基礎的な議論を確認する（主として講義の形式で進める）。次に、「自分が当事者であるならば、どのように判断するか」という問題意識を持ちながら、生命倫理・看護倫理の観点から、個別具体的な事例に関して議論する（主としてグループ・ワークの形式で進める）。			
授 業 計 画	第1回 生命倫理・看護倫理の基礎1：生物医学倫理の4原則 第2回 生命倫理・看護倫理の事例研究1（グループ・ワーク） 第3回 生命倫理・看護倫理の基礎2：ケアの倫理 第4回 生命倫理・看護倫理の事例研究2（グループ・ワーク） 第5回 生命倫理・看護倫理の基礎3：ナラティブ倫理学 第6回 生命倫理・看護倫理の事例研究3（グループ・ワーク） 第7回 まとめ ＊第2回・第4回・第6回の事例研究は、患者による治療の拒否、終末期医療、生殖医療、在宅医療などに関わる個別具体的な問題を取り上げる。		
評 価	成績評価は試験による。試験は生命倫理・看護倫理の知識を問うものではなく、試験時間のなかで、個別具体的な事例に関する自分自身の見解をまとめる文章を作成する形式のものとなる。試験は授業でのグループ・ワーク討論（ディスカッション）の延長線上に位置付けられるものであるから、とくに、グループ・ワークへの積極的な参加に期待します。		
教 科 書	使用しない。		
参 考 文 献	授業のなかで指示する。		

人間と生活、社会の理解

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
心理学	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ テキスト（「心理学」医学書院 2017）に準じて、教育心理学・社会心理学・臨床心理学・発達心理学・医療心理学等の心理学各分野の代表的な実験や理論に触れてもらいながら、自分とは何なのか、人間とは何なのかということを考えてもらいたいと思います。			
授 業 計 画	1) 心理学とはどのような学問か 2) 性格とパーソナリティ 3) 社会と集団の心理学 4) 感覚と知覚 5) 記憶の心理学 6) 考えること、思うこと、知能について 7) 学習心理学 8) 発達心理学 9) 発達心理学とアタッチメント理論 10) 心理学の歴史 11) 心理臨床 DSMの考え方とストレスについて 12) 心理臨床 治ることはどういうことか 13) 心理臨床 虐待を受けるということ 14) 医療・看護と心理 15) 最終試験		
評 価	検討中です。		
教 科 書	心理学(医学書院 2017)を使用します。		
参 考 文 献	授業の中で随時、お知らせします。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
文 学	1 単位（15 時間）	3 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 百人一首を取り上げ、現代まで続いている伝統的な日本人の感性に触れることを目的とする。			
授 業 計 画	1 講義概要・総論 2～7 百人一首を読む 8 レポート作成		
評 価	レポートに出席、授業態度を加味して総合的に判断する。		
教 科 書	プリントを用意する。		
参 考 文 献	・授業の際に指示する。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
社 会 学	1 単 位 （ 1 5 時 間 ）	1 年 次 前 ・ 後 期	非 常 勤 講 師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 社会学は非常に幅広く、かつ奥の深い学問である。そのため本講義では、人をケアする仕事である看護職に就いた折りに役立つであろう家族社会学を中心に、ジェンダー（社会的・文化的な性のあり方）概念を盛り込みながら社会学を学ぶ。 福祉をはじめ看護や医療も在宅化の方向にある。しかし、在宅での福祉・医療を支える基盤である家族や地域、あるいは住まいはその方向に耐えうるものであるのだろうか。また、耐えうるものでないならば、何をどう変えていけばよいのだろうか。そのような問題意識のもと、グループディスカッション等も取り入れて授業を進めていきたい。			
授 業 計 画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 社会学とは何か 第 3 回 家族社会学、ジェンダーとは 第 4 回 家族とは何か① 家族の概念と定義 第 5 回 家族とは何か② 家族の歴史と現在・未来 ー多様なパートナーシップのあり方 第 6 回 図表からみるジェンダーと家族 第 7 回 無縁社会と家族・ジェンダー 第 8 回 レポート作成		
評 価	レポート、授業毎の感想カード、ディスカッションなどへの取り組み方から総合的に評価する。		
教 科 書	特になし		
参 考 文 献	伊藤公雄・牟田和恵編 2015『ジェンダーで学ぶ社会学 全訂新版』世界思想社 石川稔編 1997 『現代家族の社会学ー脱制度化時代のファミリー・スタディーズ』有斐閣		

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
保 健 体 育		1 単 位 （ 3 0 時 間 ）	1 年 次 前 期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 体育というと、運動の得意な人だけが輝ける教科と考える人もいるかもしれません。しかし、これまでの小・中・高校の体育とは違い、運動技能の高い低いに関係なくその種目に取り組んでいる仲間と、いかにスポーツの魅力に触れることができたかという事を大切に授業を展開します。 したがって単元終了時の技能テストのような事は一切行いません。けれども、活動している仲間とともにどのようなルールや行い方の工夫をしたら、みんなでそのスポーツを楽しめるのかという気付きは大切にしていきたいので、毎時の学習カードをしっかりと記入してください。 ここでは、リハビリテーションのように必要に迫られて行う運動ではなく、主体的なスポーツの実践者になる事の大切さを、活動を通して身につけてもらう事を狙っています。				
授 業 計 画	第 1 回 ： オリエンテーション 体ほぐしの運動 第 2 回 } 第 3 回 } 第 4 回 } 第 5 回 } 第 6 回 } 第 7 回 } 第 8 回 } 選択球技 および 軽スポーツ 第 9 回 } 第 10 回 } 第 11 回 } 第 12 回 } 第 13 回 } 第 14 回 } 第 15 回 }			
評 価	学習カードの記入、活動の姿、出席の状況を総合的に評価します。			
教 科 書	特になし。			
参 考 文 献	特にないが、必要に応じて適宜講義の中で紹介していく。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
人間関係論	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護は社会的存在である「人間」を対象とする。言い換えれば、看護は対人援助職であり、様々な背景や立場にある人々との関係性を常に考慮しながら援助が展開されていく。本講義では、人間関係を個人から集団まで広く捉えながら、人間関係の基礎と対人スキルの基本を学ぶことで、臨床の場で人間関係を活用し対象者への援助の質を高められることを目標とする。 そのために、看護と対人関係理論の関連、コミュニケーション技法の獲得、看護師自身の自己理解、カウンセリングの基本的態度、多職種連携とメンバーシップ・リーダーシップについて講義と演習を通して深めていくことを目的とする。 更に人間理解を深められる感性を学生個々に育んでもらうことも一つの狙いとする。 なお、この講義は単に知識を取得するだけではありません。何よりも皆さんが主体的に人間関係を育むことが必要です。グループワークやロールプレイ等を講義の中で数多く取り入れます。一人ひとりが積極的に参加してください。講義が関係性で成り立ちます。課題と考えず、すべてがコミュニケーションに通ずるという視点で参加して下さい。			
授 業 計 画	第1回 オリエンテーション：人間関係論で目指すところ、講義の心がけ 成績評価について 第2回 人間関係と看護：人間関係論を重視した看護理論から人間関係を捉える 第3回・4回・5回：コミュニケーションの基本概念 ●コミュニケーションの構造、種類、機能 ●コミュニケーションに影響を及ぼす諸要因 ●自分に伝えたいメッセージ・相手の伝えたいメッセージ 第6回・7回・8回：『他者を理解』『自己を理解』この2つの側面の重要性 ●人間関係形成には他者を理解するだけではない。まずは、自分自身を見つめてみよう！ ●自己開示と自己呈示 ●対人理解（感情と表情、対人認知、対人魅力） 第9回・10回・11回：カウンセリングの基本的態度 ●「受容」「共感」の理解 ●そのためには、積極的に「聴く」こと ●「聴く」態度を身につけるための訓練法 ●実際に相手の話を聴こう！ 第12回・13回：自分も相手も大事に～アサーションとコーチング技術から学ぶ ●あなたのアサーション度は ●アサーションの基本 ●アサーションを体験 ●意欲を高める介入はしている？ ●コーチングの基本 ●コーチングを体験 第14回・15回：多職種連携を体験し、気づきをチームで共有 ●リーダーシップとメンバーシップの必要性 ●多職種連携に必要な視点 ●まとめ		
評 価	グループワーク参加状況、グループワーク課題、レポート試験により、総合的に評価する。詳細は講義初日のオリエンテーション時に提示する。		
教 科 書	プリントを中心に講義を行う。		
参 考 文 献	必要に応じて紹介する。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
教 育 学	1 単 位（15 時間）	3 年 次 前 期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 教育学は、教育の目的、意義、方法など、教育に関する基本的な原則や基礎的な諸問題を包括的に学ぶ科目です。 1. 教育とは何か、その理論を学びます。 2. 学校教育の基礎的な理論を学習します。 3. 家庭教育、生涯学習をふくめて相対的に関連付けていきます。			
授 業 計 画	1. 教育と学習 2. 教育と発達 3. 学校と教育Ⅰ 4. 学校と教育Ⅱ 5. 生涯学習とは？ ～インクルーシブな学び～ 6. 小児病棟内での学びⅠ ～HPS, CLS, 医療保育士など～ 7. 小児病棟内での学びⅡ ～院内学級など～ 8. テスト		
評 価	受講態度、毎回のコメント、そして最終テスト		
教 科 書	プリント配布します。		
参 考 文 献	その都度紹介します。		

專 門 基 礎 分 野

人間の構造と機能

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
解 剖 学 I	1 単位（30 時間）	1 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 解剖学の履修目的は、人体における正常の構造を知ることによって、人体の正常な生命現象を理解することにある。そのためには人体の構造のみならず、その機能についても同時に理解を深めなければならない。したがって解剖学を学ぶにあたっては生理学や生化学など基礎医学の他の分野との関連のもとに学習することが必要である。このような人体の正常の構造と機能に関する知識は、将来臨床医学を理解するうえに不可欠であるという認識のうえにたって学習に臨まなければならない。			
授 業 計 画	解剖学（組織学も含むが主としては肉眼解剖学）を板書によって講義する。模型、解剖図を用いる。スライドは用いない。 一通りの授業が終了した時点で、授業の復習として模型・解剖図を用いたグループ学習を1コマ行い、学習内容の理解の確認を行う。 また、最終講は解剖見学を行う。 授業の進行は教科書の各章の順序に従う。主な内容を進行順に列記すると、以下のようになる。 1 回～3 回：骨格系 4 回～6 回：筋系 7 回～8 回：循環器系 9 回～10 回：呼吸器系 11 回～12 回：消化器系 13 回～14 回：グループ学習 15 回：評価（試験）		
評 価	筆記試験を行う		
教 科 書	解剖生理学 南山堂 2009 第1版 第6刷		
参 考 文 献	解剖学講義（南山堂）		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
解 剖 学 II	2 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 解剖学の履修目的は、人体における正常の構造を知ることによって、人体の正常な生命現象を理解することにある。そのためには人体の構造のみならず、その機能についても同時に理解を深めなければならない。したがって解剖学を学ぶにあたっては生理学や生化学など基礎医学の他の分野との関連のもとに学習することが必要である。このような人体の正常の構造と機能に関する知識は、将来臨床医学を理解するうえに不可欠であるという認識のうえにたって学習に臨まなければならない。			
授 業 計 画	解剖学（組織学も含むが主としては肉眼解剖学）を板書によって講義する。模型、解剖図を用いる。スライドは用いない。 一通りの授業が終了した時点で、授業の復習として模型・解剖図を用いたグループ学習を1コマ行い、学習内容の理解の確認を行う。 授業の進行は教科書の各章の順序に従う。主な内容を進行順に列記すると、以下のようになる 1 回～3 回：泌尿器系 4 回～6 回：生殖器系 7 回～8 回：内分泌系 9 回～10 回：神経系 11 回～13 回：感覚器系 14 回：グループ学習 15 回：評価（試験）		
評 価	筆記試験を行う		
教 科 書	解剖生理学 南山堂 2009 第1版 第6刷		
参 考 文 献	解剖学講義（南山堂）		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
生 理 学 I	1 単位（30 時間）	1 年次 前期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 身体の機能の種類、それらの発現部位、意義、調節機序について身体を系として統合的に把握することによって、病態の機構を理解するための身体機能に関する基礎的な知識を獲得する。			
授 業 計 画	身体機能の特徴 筋 肉 血 液 体 液 循 環 呼 吸 消 化・吸 収 について講義形式で展開する。		
評 価	筆記試験		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 第10版 2018		
参 考 文 献	「系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学」 医学書院 「生理学テキスト」 文光堂 第7版		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
生 理 学 II	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 身体の機能の種類、それらの発現部位、意義、調節機序について身体を系として統合的に把握することによって、病態の機構を理解するための身体機能に関する基礎的な知識を獲得する。			
授 業 計 画	身体機能の特徴 腎 内分泌 代謝・体温 生殖 神経 皮膚 特殊感覚 について講義形式で展開する。		
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 第10版 2018		
参考文献	「系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学」 医学書院 「生理学テキスト」 文光堂 第7版		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
生 化 学	1 単位（30時間）	1 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 複雑に見える生命現象も、基本的な化学反応の結果である。生化学の進歩により、生体内では多くの種類の化学反応が、決められた場所で、決められた時に起こり、それらが複雑に絡み合っている様子が、少しずつ明らかにされてきた。その結果さまざまな疾病の発症メカニズムが、化学反応のレベルで明らかにされるようになり、病気の診断、治療に生化学的な検査、療法が広く用いられるようになってきている。 この授業の履修目的は最近の進歩した医学、看護学の理解に必要な生化学の基礎知識を習得することにある。 この授業ではまず生体を構成する各成分の化学的性質と役割を紹介する。そして各臓器の働きを生化学的に解説し、さらにいくつかの疾患について生化学的な面から解説する。			
授 業 計 画 画	以下の項目について、順に講義を行なう		
	1. 生命の保持と生化学の基本	生体の構成成分と役割	
	2. 酵素	酵素とその作用	
	3. 糖質代謝	糖質代謝と血糖の調節機能	
	4. 脂質代謝	脂質代謝の役割と機構	
	5. アミノ酸・たんぱく質代謝	アミノ酸及びタンパクの役割と代謝	
	6. ヌクレオチド・核酸	ヌクレオチド、核酸の代謝、及び遺伝の概要	
	7. ビタミン	ビタミンの種類と役割	
	8. ホルモン	ホルモンの種類と作用機構	
	9. 水と無機質	水と無機質の性質と生命維持における役割	
10. 臓器の生化学	各臓器の働き		
11. 疾患の生化学	悪性腫瘍、免疫		
評価	講義終了後、テストを行い評価する		
教科書	よくわかる専門基礎講座 生化学 金原出版 第2版		
参考文献	ストライヤー生化学<第8版> L.ストライヤー著（監訳 入江達郎 他） 東京化学同人 カラー図鑑 臨床生化学 アラン・ゴー他著（訳 太田英彦、島 幸夫） 医学書院MYW 一目でわかる生化学分子医学の基礎知識 B.グリーンステイン著（訳 麻生芳郎） メディカル・サイエンス・インターナショナル		

疾病の成り立ちと回復の促進

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
栄 養 学	1 単 位 （ 3 0 時 間 ）	1 年 次 前 期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 栄養学を学び、栄養学的知識を深めることにより、病人に限らず、自分自身の健康を見つめる機会にしてほしいと考えます。 「看護」を仕事にしてゆく者にとって自分自身の健康はきわめて重要な問題です。 そして健康を維持・増進させてゆく為には何より食生活の充実が基本であり、栄養学的知識は不可欠のものです。学問としての栄養学にとどまらず、自分自身の食生活の向上と、健康度アップをめざした実践的な栄養学の講義内容としてゆきたいと考えています。			
授 業 計 画	1. 栄養学教育の変遷と看護栄養学について 2. QOLと食生活 3. ライフサイクルと栄養1 4. // 2 5. 食品の機能性と摂取量について 6. 消化・吸収・排泄と食品の関係について 7. 健康維持と食生活の関係について 8. 疾病と栄養1 9. // 2 10. // 3 11. // 4 12. 食を介した患者教育・健康教育について 13. } 調理実習（易消化性の食事及びたんぱく質コントロール食） 14. }		
評価	筆記テスト及び出席率にて評価		
教科書	看護栄養学 医歯薬出版 第4版 2018		
参考文献	食品成分表2013 女子栄養大学出版部 糖尿病食品交換表 日本糖尿病協会編 文光堂 第6版		

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
微 生 物 学		1 単 位（30 時間）	1 年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> <目的> ヒトに感染症をひきおこす病原微生物に関する基礎知識を学び、感染症の発症の機序を理解し、その予防法、治療法を習得する。 <概要> ・病原微生物の性質やその構造、増殖、感染機構について説明できる。 ・感染とそれに対する宿主の免疫の仕組みが説明できる。 ・滅菌、消毒について、その目的、用途が説明できる。 ・感染症の予防法、治療法が説明できる。 ・各種病原微生物によってひきおこされる感染症について説明できる。				
授 業 計 画	授業計画 の順位	履修主題	履修内容	
	1 回	微生物学総論	微生物の種類と特徴	
		細菌学総論	細菌の構造と増殖	
	2 回	ウイルス学総論	ウイルスの構造と増殖	
	3 回	感染と感染症	感染に関わる因子と感染症の成立	
	4 回	滅菌と消毒	滅菌	
	5 回	滅菌と消毒	消毒	
	6 回	感染症の治療	化学療法薬の作用機序	
	7 回	免疫学	自然免疫と獲得免疫	
	8 回	免疫学	液性免疫と細胞性免疫	
	9 回	免疫学	アレルギー、ワクチン	
	10 回	細菌学各論	球菌	
	11 回	細菌学各論	桿菌	
	12 回	細菌学各論	マイコプラズマ、リクター、クラミジア	
	13 回	ウイルス学各論	DNAウイルス	
	14 回	ウイルス学各論	RNAウイルス	
15 回	試験			
評価	試験成績にて評価する			
教科書	系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 〔4〕微生物学 医学書院 第13版			
参考文献	シンプル微生物学 改訂第6版 小熊恵二・堀田 博・若宮伸隆 編集 南江堂 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 医療情報科学研究所 編集 メディックメディア			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
薬 理 学	2 単位（45 時間）	1 年次 前・後期	非常勤講師
< 授業科目の履修目的・概要・指針など > 履修目的：疾患の治療に用いられる薬物の作用メカニズムを理解する。すなわち薬物がどうしてその疾患の治療薬として有効なのか、またその薬物を用いる際にどのような副作用や注意すべきことがあるかについて学ぶ。 概 要：今日臨床で用いられている薬物の作用と注意点について正しく理解する。 指 針：医療スタッフの一員としての看護師である自覚と自信が持てるよう、病気－薬物－看護師の役割を充分理解してもらう。当然、国家試験合格以上の知識を身につけてもらう。			
授 業 計 画	1. 末梢神経作用薬として、自律神経系と化学伝達物質、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬ならびに局所麻酔薬など 2. 心臓・血管系作用薬として、強心薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬、利尿薬、貧血治療薬など 3. 中枢神経作用薬として、全身麻酔薬、睡眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬など 4. 炎症とアレルギーに関する薬物として、ヒスタミン・非ステロイド性抗炎症薬、痛風治療薬、副腎皮質ステロイド、レニン－アンギオテンシン系に作用する薬、ビタミンなど 5. 物質代謝作用薬として、糖尿病とその治療薬、高脂血症治療薬 6. 気管支喘息とその治療薬 7. 消化性潰瘍とその治療薬 8. 化学療法薬として、化学療法薬総論、抗生物質、ニューキノロン系薬剤、サルファ剤、抗ウイルス薬、消毒薬など 9. 薬理学総論 臨床の場で薬物が用いられる作用機序と留意事項を十分理解する。		
評 価	前期・後期に分けて筆記試験を行う。60点未満は不合格とする。		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野〔3〕薬理学 医学書院 2018 第14版		
参 考 文 献	シンプル薬理学 改訂6版 野村隆英他 著 南江堂 2019		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
病理学総論	1単位（15時間）	1年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 病理学とは、病気の成り立ちを明らかにする学問であり、基本的には病的状態における変化を形態学的に裏付けていくものである。近年では分子生物学的手法を取り入れたいわゆる分子病理学として疾患にアプローチすることも盛んとなってきている。病理学は体系的には、人体病理学と実践病理学に大別され、前者はより臨床的・診断的なもの、後者は基礎的・研究的なものとの解釈もできるが、この境界は必ずしも明確なものではない。 この病理総論の授業では、病理学ひいては疾患全体を理解する上で必須な基礎的事項を学んでいく。病理学的用語の定義・内容の学習は無味乾燥にも思えるかもしれないが、今後の病理各論の授業や、より臨床的な疾患群をよく理解するためにも必要不可欠である。また、この病理総論で学んだことをもとに、実際に看護にあたる際にも、各疾患・各患者における病態を考察する習慣ができ、よりよい看護に結びつけられることが最終目標でもある。			
授 業 計 画	1. 病理学で学ぶこと、細胞・組織の障害と修復 病理学の役割、病因論、細胞の損傷と適応、創傷治癒 2. 循環障害 循環器系が傷害されたさまざまな病態（虚血、梗塞、血栓症など）を理解する 3. 炎症と免疫、移植と再生医療 炎症とは、炎症の各型、免疫に関与する細胞、アレルギー、移植と拒絶反応 4. 感染症 感染症と感染源、おもな感染症、感染症の治療と予防 5. 代謝障害、老化と死 動脈硬化症、糖尿病、痛風、黄疸、加齢に伴う諸臓器の変化、終末期医療 6. 先天異常と遺伝子異常、腫瘍1 先天異常の分類、遺伝子異常と疾患、遺伝子異常の診断、腫瘍の定義と分類 7. 腫瘍2 悪性腫瘍の広がり、腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療		
評 価	記述または選択形式の試験で評価を行う。		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野〔1〕病理学 医学書院 2015 第5版		
参 考 文 献			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
病理学各論Ⅰ （消化器・腎泌尿器）	1単位（30時間）	1年次 前・後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 生命維持のためのエネルギー確保の役割を持つ消化器の異常における病理、疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。 <消化器>各消化器疾患について解剖生理の基礎的知識の基に臨床像・病態・病理について理解を深め、対象の臨床像や病態について推察する基本的知識を習得する。また、診断・治療に関する知識を学習する。 <腎泌尿器>疾患における病理、疾患概念と診断、治療に関する知識を学習する。			
授 業 計 画	<消化器>（内科 14時間） 1. 消化器疾患の理解と内科的治療法の理解 （斉藤・河本・後藤14時間） 食道疾患、胃癌、胃潰瘍 大腸疾患（炎症性腸疾患、大腸がん）、肝・胆・膵疾患 2. 消化器疾患の手術療法についての理解（赤羽 6時間） 食道疾患、脳死患者からの臓器摘出、胃疾患、大腸疾患、ストーマ、肝・胆疾患、膵 <腎泌尿器疾患>（松ヶ瀬 10時間） 1. 泌尿器学解剖、検査、症状 2. カテーテル関係、尿路結石 3. 泌尿器系悪性腫瘍（前立腺肥大症を含む） 4. 慢性糸球体腎炎他、腎不全		
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野〔1〕病理学 医学書院 2015 第5版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器疾患 医学書院 2019 第15版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎・泌尿器疾患 医学書院 2019 第15版		
参考文献			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
病理学各論Ⅱ （呼吸器・循環器）	1 単位（30 時間）	1 年次 後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 生命維持の基本的機能である呼吸・循環における疾患の病理、疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。 <呼吸器>呼吸器の解剖・生理を十分に理解した上で、呼吸器内科・呼吸器外科疾患の症状、診断、治療、予後についても学習する。 <循環器>循環器疾患の病理 心臓・大血管の発生と異常（奇形）・冠動脈疾患などによる心筋梗塞などの病理 弁膜疾患、動脈、大動脈疾患の病理像を理解する。 <u>循環器疾患の病態と診断・治療</u> 心臓血管系疾患は1985年以後、日本人の死因の第2位となっている。食生活の欧米化に伴い、動脈硬化性疾患がますます増加しており、その予防治療は当面する最大の保健問題の1つとなっていることをふまえ、これら疾患の病態・概要を理解し、予防・治療にまでつなげて行くことを目的とする。また、循環器疾患の病理については、各疾患のなりたちやその経過などにつき、組織学レベルで生じている現象を含めて学び、疾患の病態に対する理解を深めることを目的とする。臨床的事項と平行して学び、より系統的な知識を会得することが望まれる。			
授 業 計 画	<呼吸器>（秋葉：10時間、大谷：4時間） 1. 解剖、生理：呼吸器の解剖・生理 2. 呼吸のメカニズム 3. 症状、炎症性疾患咳・痰について 4. 肺腫瘍 肺癌の組織型・病期と治療 5. その他胸膜・縦隔疾患について <循環器> 1. 循環器疾患の病理（佐藤：4時間） 心臓・大血管の発生と異常（奇形） 冠動脈疾患などによる心筋梗塞などの病理 弁膜疾患、動脈、大動脈疾患の病理像を理解する。 2. 循環器疾患の病態と診断・治療（加藤：12時間） 解剖、生理、症状 心不全、ショック 心筋梗塞 不整脈 リウマチ熱、心内膜炎、心膜炎、心筋症、弁膜症 先天性心疾患、血圧、動脈・静脈疾患		
評価	選択形式の試験		
教科書	系統看護学講座	専門基礎分野〔1〕病理学	医学書院 2015 第5版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学〔3〕循環器	医学書院 2019 第15版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器	医学書院 2019 第15版
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
病理学各論Ⅲ （内分泌・自己免疫・ 血液リンパ・口腔・代謝）		1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 臨床看護において、疾病を持つ人を看る上で、その疾病の特徴(病態、生理、症状、治療など)を知ることが必要不可欠である。そのために基本（礎）的となる病体を理解するために⁽¹⁾発生・⁽²⁾解剖・⁽³⁾病理組織学的な変化（病理病体像）を学ぶ。 さらに、分泌系疾患、自己免疫疾患、血液・リンパ系疾患、口腔外科疾患、代謝異常における疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。				
授 業 計 画	<内分泌疾患・自己免疫> 1. 内分泌の病理（4 時間） 内分泌臓器の発生、解剖、各種疾患 代謝・遺伝の病理、 各種遺伝性疾患、逆行遺伝学 2. 内分泌の主な疾患とその診療（4 時間） <自己免疫疾患>（2 時間） 1. 膠原病、アレルギー疾患の概念と治療 <血液リンパの疾患>（10 時間） 1. 血液・リンパ系疾患の病態：血液・リンパ系が関与する疾患の病態 2. 血液・リンパ系疾患の診断：血液・リンパ系疾患の診断 3. 血液・リンパ系疾患の治療：血液・リンパ系疾患の治療・看護 <歯科・口腔>（4 時間） 1. う蝕症と歯周疾患 2. 妊娠と口腔疾患 3. 歯性病巣感染 <代謝>（6 時間） 1. 代謝疾患の病理 2. 糖尿病、高脂血症、痛風			
評価	選択形式の試験			
教科書	系統看護学講座	専門基礎分野 [1]	病理学	医学書院 2015 第5版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 [4]	血液・造血器	医学書院 2019 第15版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 [6]	内分泌・代謝	医学書院 2019 第15版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 [11]	アレルギー	医学書院 2020 第15版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 [15]	歯・口腔	医学書院 2020 第14版
参考文献				

授 業 科 目		単位数（時間）	開講時期	担当講師名		
病理学各論Ⅳ （女性生殖器・乳腺・ 発生異常・運動器・麻酔）		1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	非常勤講師		
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞						
臨床看護において、疾病を持つ人を見る上で、その疾病の特徴(病態、生理、症状、治療など)を知ることが不可欠である。						
女性生殖器疾患、発生・発達異常に伴う疾患、運動器疾患における病理、疾患概念と診断、治療についての理解や手術療法について学ぶ。						
授 業 計 画	＜女性生殖器疾患＞（8 時間） 1. 婦人科疾患 （6 時間） 膣炎etc.、子宮筋腫・内膜症、子宮癌・卵巣癌、更年期障害etc. 2. 乳腺の疾患 （2 時間） 乳腺疾患、乳癌を中心に乳癌手術療法、化学療法 ＜発生・発達異常に伴う疾患＞ 1. 新生児・未熟児に特有の疾患、適応障害（4 時間） 呼吸、循環：呼吸窮迫症候群、その他 神経、発達：脳室内出血、その他 そ の 他： 2. 障害児医療について（2 時間） 特に重症心身障害児を中心に歴史・定義・病態を学ぶ。 必要な療育のあり方と福祉を考える。 特に重症心身障害児を中心に歴史・定義・病態を学ぶ。 必要な療育のあり方と福祉を考える。					
	＜運動器疾患＞（8 時間） 1. 基礎知識 機能と構造、治療法、診察法、病態生理 2. 形態の異常、運動の異常、麻痺、先天疾患、骨折と脱臼 3. RA、変形性関節炎(膝、股) 4. 腰椎疾患、頸椎疾患、骨粗鬆症 ＜麻酔＞（6 時間） 1. 手術療法－全身麻酔法、局所麻酔法や術中管理					
評 価	筆記試験					
教 科 書	系統看護学講座	専門基礎分野 [1]	病理学	医学書院	2015	第5版
	系統看護学講座	専門分野 小児看護学 [2]	小児臨床看護各論	医学書院	2020	第14版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 [9]	女性生殖器	医学書院	2019	第15版
	系統看護学講座	専門分野 成人看護学 [10]	運動器	医学書院	2019	第15版
	系統看護学講座	別巻 臨床外科看護総論		医学書院	2017	第10版
参 考 文 献	指定無し					

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
病理学各論Ⅴ （脳神経・眼・ 耳鼻咽喉・皮膚）	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 脳神経、感覚器疾患から派生する疾患の病理、疾患概念と診断、治療の理解を目的とする。 ＜脳神経系疾患＞ 脳・神経系の基本的解剖・生理をふまえて、脳・神経・筋疾患を理解し、これら疾患の治療・リハビリテーション・看護の知識を今世紀脳科学の世紀を迎えて、その展望を取り上げる。 ＜感覚器疾患＞ 眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科領域の疾患について上記目的に添って講義する。特に眼科領域については、局所解剖と病態生理に関する知識を習得し、眼科一般の検査方法、各疾患における症状、病態生理の習得したうえで、眼科看護の特殊性について考える。皮膚については発疹の種類、形態、表現方法などを修得し、その上で代表的な皮膚疾患につき、学習する。また、皮膚科特有の検査方法なども学習する。			
授 業 計	＜脳神経系疾患＞ 1. 脳神経系の病理（8 時間） 中枢神経系の解剖、神経症候学、神経内科領域の疾患の臨床・診断・治療 2. 脳神経外科疾患の臨床像・診断・治療（8 時間） ＜感覚器疾患＞ 1. 眼（4 時間） 眼の構造と機能 各種検査（視力検査、屈折検査、など） 各種疾患についての症状、病態生理、治療について（角膜、結膜、水晶体、ぶどう膜、網膜硝子体、視神経および視路、緑内障、眼球付属器、など） 2. 耳鼻咽喉（4 時間） 耳の機能、構造、耳の疾患、脳神経について、耳疾患各論 鼻の機能、構造、鼻・咽頭・喉頭の疾患、気管切開術 3. 皮膚疾患（4 時間） 発疹学、皮膚科的検査、湿疹、皮膚炎 感染性皮膚疾患、薬疹		
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 [1] 医学書院 2015 第5版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経医学書院 2019 第15版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 2020 第15版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 医学書院 2020 第14版 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉医学書院 2020 第14版		
参考文献	1) 脳神経疾患患者の看護 医学書院 2) 脳神経外科 金芳堂 3) 脳神経外科マニュアル 中外医学社 4) 頭脳学の見方 朝日新聞 5) 脳の探求 講談社 6) 塗って覚えて理解する！脳の神経・血管解剖 MCメディカ出版		

健康支援と社会保障制度

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
医 療 概 論	1 単 位（15 時間）	1 年 次 前 期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 医師や看護師不足などの医療に関する問題、救急医療や医療事故のニュースは、毎日のように報道されています。医療や介護の現場を舞台としたドラマも、テレビや映画などで盛んに放映されています。それなりの問題意識や社会性のあるものもみられます。 しかし、医学について全般的に考えられたり、また深く掘り下げるものではありません。医療に携わる者は、人間の生命と倫理についての理解が必要です。また、高い倫理性と社会使命の自覚を持つことも要請されています。医学概論は「医学・医療とはなにか」について、広い視野に立って考える科目です。問題意識を持ちながら、考えること、調べること、話し合うことをします。人間性、医療、看護の原点について基本的な素養を身につけることを目的とします。 話し合うためには前提となる知識が必要です。まず教科書を知識の基本とします。教科書は約300ページ、最後の情報活用の章を別として、4章に分かれています。話し合いたいテーマについては各章7項ほどで、合計30項余りもあります。コラムの多くは読み物としても興味深いものです。講義では、取り上げる時間は無いかもしれません。不明なことについては質問を受けますので、必ず読んでおきましょう。 考えるためには、読むことも必要です。図書室を活用して、読むこと、調べる習慣を作りましょう。			
授 業 計 画	1) 教科書の目次 医学用語解説 救急医療 災害医療 レポートについて 2) 患者主体の医療 医療と記録 患者の権利 ターミナルケア 3) 医学の歴史、発達 医学・科学の発達のもたらした課題	4) 健康とは 在宅ケア／介護保険 リハビリテーション ノーマライゼーション ターミナルケア 5) 先端医療 遺伝子医学 移植医療 生命倫理 6) 発表（医療・看護の問題について） 話し合い 7) 医療システム 日本の医療制度とその問題点	
評 価	レポート、出席、受講態度、話し合い、テストなどから総合的に評価する。		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [1] 医療概論 医学書院 2021 新刊		
参 考 文 献	基本的には図書室の全ての書籍です		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
公 衆 衛 生 学	2単位（30時間）	1 年 次 後 期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 公衆衛生学は、自然科学としての医学を人間社会へ適応する学問である社会医学の一分野であり、疾病の予防に取り組む学問領域である。扱う対象は、臨床医学が疾病をもつ個々の患者であるのに対して、公衆衛生では社会にあって様々な健康状態にありながら生活している一般の人々全てであり、個々の人々に対しても、さらに集団としても対応する。 公衆衛生に対する現代の社会的要請は、疾病の予防だけにとどまることなく、人の健康度の把握、健康の増進へと向かい、なおかつ医学・医療だけでなく、保健、福祉にわたる人の健康に関わる全てを対象とする包括的な対応へと向かっている。その活動内容は、その年代的対象ごとに、母子保健、学校保健、成人・老人保健、さらに生活する場により、環境保健、学校保健、地域保健、職域保健、国際保健、さらに健康範囲により精神保健などに分類される。それぞれに関連する法律があり、行政が関与している。 公衆衛生学では人の健康の維持増進にかかわる広い概念の医療（保健・狭義の医療・福祉）について、新しい概念に対応しつつ、国民の健康を扱う医療従事者としての素養を伸ばすことを念頭に置き授業を展開する。			
授 業 計 画	1. 公衆衛生の概念（2時間） 健康の概念、衛生の概念、健康をめぐる考え方の変遷を理解することを通して、社会医学としての公衆衛生学について学ぶ。 2. 保健統計・疫学（2時間） 公衆衛生を学ぶために必要な、健康指標、保健統計、人口動態・静態、疾病統計などの各種指標を学ぶ。また、集団を対象とした医学（社会医学）を実践するために必要な疫学の概念を学ぶ。 3. 社会保障制度と医療システム（2時間） 我が国の社会保障制度の内容（機能、4つの柱、費用、関係法規）と現状を学ぶ。 4. 生活環境と健康1（2時間） 私たちを取りまく環境因子とこれらの変化が健康に及ぼす環境を理解するとともに生活環境の維持・向上に必要な上下水道や廃棄物処理等の現状について学ぶ。 5. 生活環境と健康2（2時間） わが国における公害、地球環境およびシックハウス等の様々な環境問題の現状と対策について学ぶ。 6. 産業保健（2時間） 労働者の安全や健康を守るための体制や管理等について理解するとともに様々な有害因子の影響や対策について学ぶ。 7. 感染症対策（2時間） 感染の3大要因、感染源（病原性微生物）、感染経路（環境要因）、感受性（宿主抵抗性）について理解し、感染症予防対策について学ぶ。 8. 国民栄養と食品保健（2時間） 栄養所要量の概念を理解し、年代別の適正な栄養摂取の必要性を学ぶ。また、食品衛生（食中毒を含む）および食の安全についても学ぶ。 9. 各種保健活動1（2時間） 生活習慣病の動向とリスクファクターについて学ぶ。 10. 各種保健活動2（2時間） 母子にかかわる統計指標とその動向、および、母子保健の制度を学ぶ。 11. 各種保健活動3（2時間） 学校保健にかかわる統計指標とその動向、および、学校保健の制度を学ぶ。 12. 各種保健活動4（障害者保健・難病保健・国際保健）（伊藤 2時間） 保健活動のうち、精神保健、職域保健（疲労、作業様態による健康障害を含む）、国際保健の諸活動について理解を深める。 13. 各種保健活動5（2時間） 高齢者医療および介護保険制度について学ぶ。 14. テスト 15. 試験の解説と国家試験対策（2時間） 試験の解説を行い、国家試験に向けての勉強の仕方について学ぶ。		
評 価	筆記試験（国家試験形式の筆記試験によって）		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 医学書院 2019 第14版		
参 考 文 献	国民衛生の動向 2020年版 厚生統計協会		

授 業 科 目		単位数（時間）	開 講 時 期	担当講師名
社 会 福 祉 学Ⅰ		1 単 位（15時間）	1 年次 後期	非常勤講師
社 会 福 祉 学Ⅱ		1 単 位（15時間）	2 年次 前・後期	
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞				
現代社会における社会福祉の理念と意義について認識を深め、これからの社会福祉の課題について理解させる。				
ビデオや実践報告、各種報告資料等も参考にして、現代の福祉問題を把握させるとともに、看護と社会福祉の関連性、看護実践における福祉との協働の意義を修得させる。				
授 業 計 画	＜社会福祉学Ⅰ＞			
	1. 社会福祉の基本的性格 2. 社会保障制度と社会福祉 3. 社会福祉の法制度 4. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 5. 医療保障・所得保障 6. 介護保険制度創設の背景 7. 介護保険制度の概要 8. テスト			
画	＜社会福祉Ⅱ＞			
	1. 公的扶助 2. 高齢者福祉 3. 障害者福祉 4. 児童家庭福祉 5. 地域福祉 6. 社会福祉実践の共通基盤 7. これからの社会福祉－医療・看護との連携 8. テスト			
評 価	社会福祉学Ⅰ・社会福祉学Ⅱ 各々、講義終了時のテストにより評価する。			
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉 ＜第22版＞			
参 考 文 献	これからの社会福祉「社会福祉概論」、有斐閣 国民衛生の動向 2019年版 厚生統計協会 厚生労働白書、厚生労働省 その他、授業中に適宜紹介する。			

授 業 科 目	単位数（時間）	開講時期	担 当 講 師
関係法規	1単位（15時間）	3年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護職は国家資格の専門職である。そして、看護は法的根拠に基づき行われる。専門職に就くものとして、まず、法律の意味、人間の生活と法律の関係を理解することが必要である。その上で、我が国の保健医療福祉に関する法令・制度を理解し、看護職の果たす役割と責任を踏まえた看護実践がおこなえる基盤を持つことが必要であろう。 この科目では、看護専門職として必要な法に関する知識を学習し、その学びを通して看護師として担う責任に対する自覚を高めて欲しい。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 法 の 概 念	1～2	1) 人間の生活と法律 2) 法律の基礎知識 3) 健康支援のための法律とその分類	講義
2. 医療の提供に関連する法律	3	1) 看護職員に関連する法律 ①保健師助産師看護師法 ②看護師等の人材確保の促進に係る法律	講義
	4	2) 医療の提供に関連する法律 ① 医療法 ② 医師法 ③ 薬剤師法 ④ 薬事法 ⑤ 臓器移植に関する法律など	講義
3. 労働に関する法律	5	1) 就労に関する法律 ① 労働基準法 ② 労働安全衛生法 ③ 育児休業、介護休業法など	講義
4. 医療安全と法律	6～7	1) 医療過誤と法的責任 2) 医療過誤の事例からの学び	講義 GW
	8	筆記試験	

評価	筆記試験に授業中の課題への取り組みなどを加味して評価します。
教科書	関係法規 メヂカルフレンド社 2017 第14版
参考文献	

專 門 分 野 I

基礎看護学

専門分野Ⅰ

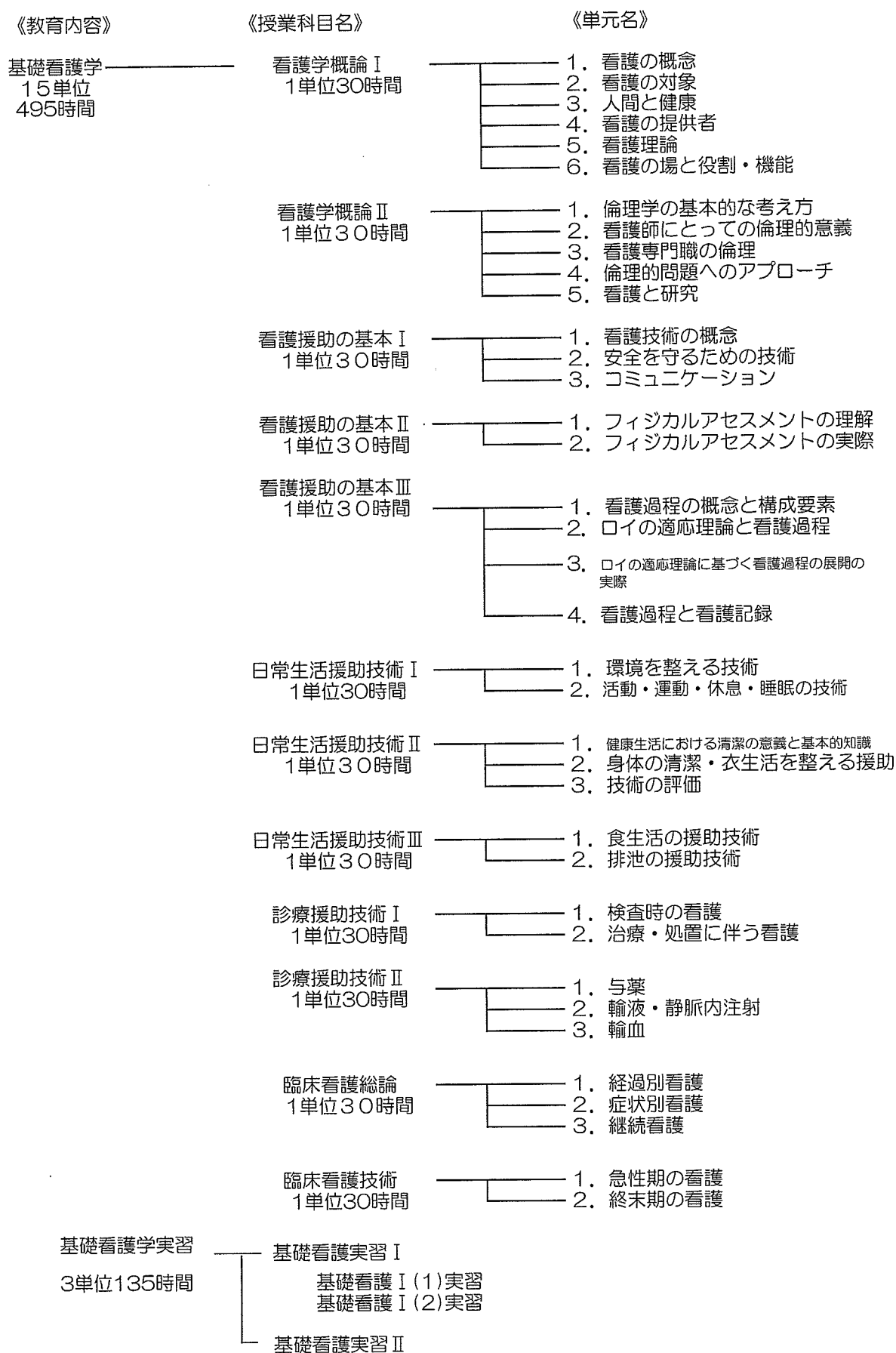
1. 基礎看護学の考え方・ねらい

専門分野Ⅰは、看護学の土台となる基礎看護学、つまり看護学概論、看護技術、臨床看護総論を学ぶ分野である。この分野の学習によって、看護学の基礎を理解し学ぶ姿勢を持ち、専門分野Ⅱおよび統合分野の学習に発展させることができる看護学生としての基盤を持つことを目指している。

看護学概論では、看護の概念・本質を捉え、看護の位置づけと役割の重要性を学び、看護技術では対象理解と看護実践の基礎となる援助技術を学ぶ。さらに臨床看護総論では、健康障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護について学び、看護実践のための知識・技術・態度を身につける。

授業科目	内容
看護学概論Ⅰ	看護の概念
看護学概論Ⅱ	看護倫理、看護と研究
看護援助の基本Ⅰ	看護技術の概念、安全、コミュニケーション
看護援助に基本Ⅱ	フィジカルアセスメント
看護援助の基本Ⅲ	看護過程
日常生活援助技術Ⅰ	環境、活動・休息
日常生活援助技術Ⅱ	身体の清潔・衣生活
日常生活援助技術Ⅲ	食生活、排泄
診療援助技術Ⅰ	検査時の看護、治療・処置に伴う看護
診療援助技術Ⅱ	与薬、輸液・静脈内注射、輸血
臨床看護総論	経過別看護、継続看護、症状別看護
臨床看護技術演習	事例への看護技術の適応（急性期・終末期の看護）

2. 基礎看護学の構成



授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
看護学概論Ⅰ	1単位(30時間)	1年次 前期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護学概論Ⅰは看護の概論で、introduction of nursing に相当する科目である。看護学の基礎として看護の概念、看護の対象である人間、ライフステージにおける健康、看護の役割・機能、について学び、看護の大まかなイメージをもつことができる。この科目を通して、今後の学習の方向性を見出し、看護の役割と重要性について考える事ができるようにしたい。

<単元目標>

1. 歴史的推移の中で看護概念がどのように変化してきたかを学ぶことにより、現代における看護の概念、本質を理解する。
2. 看護の対象となる人間の捉え方・考え方を学び、人間を総合的に理解する基盤を持つ。
3. 健康の概念を明らかにし、人間と健康、健康レベルと看護の関係について理解する。
4. 看護職を巡る背景を学び、看護の本質を踏まえた看護職のあり方について考える。
5. 看護理論と実践の関係を理解し、理論的根拠を持って看護に取り組む基盤を持つ。
6. 看護の目的・機能・役割を理解し、保健医療福祉システムにおける看護活動の概要を理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 看護の概念 (8時間)	1～2	1) 看護概念の変遷 (1) 看護の原点 (2) 近代看護への歩み (3) ナイチンゲールと看護 (4) 専門職への歩み	講 義
	3	2) 現代の看護 (1) 看護の定義 法的規定、職能団体による定義、 看護理論家による定義	講 義
	4	(2) 看護独自の機能 ケアの概念、看護実践と質保障の条件(art、個別性、自立、セルフケア、依存、クリティカルシンキング、EBN、看護過程、看護研究)	講 義
2. 看護の対象 (6時間)	5～6	1) 人間の理解 (1) 全人的理解 統合体、オープンシステム (2) 適応 (3) 人間の欲求と行動～ニード (4) 成長・発達、変化する人間 発達段階と発達課題	講 義

3. 人間と健康 (4時間)	7	2) 家族の理解 (1) 家族の定義 (2) 家族の機能 (3) 家族を対象とした看護 3) 生活者としての人間の理解	講 義
	8~9	1) 健康概念 WHO の定義、健康観の変化、障害の概念、現代の健康観、健康指標 2) 健康と人間の心と行動 3) 健康レベルに応じた看護の目的・役割	講 義
	10	1) 法的規定(保健師助産師看護師法、養成制度) 2) 看護職の必要条件 科学的態度、倫理性	講 義
	11~ 12	1) 看護理論とは 2) 看護理論と実践 3) 看護理論の分類 4) 看護理論の活用	講 義
	13~ 14	1) 保健医療の変遷と看護の役割の拡大 医療チームとしての機能 総合保健医療福祉、保健医療福祉の専門職 2) 看護サービスの場と機能 医療施設に於ける看護 地域に於ける看護 3) 継続看護	講 義 GW
	15 評価	筆記試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 2020 第17版		
参考文献	F. ナイチンゲール：看護覚え書き 現代社 2016 第7版 V. ハンダーソン：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016 再新装版 城ヶ端初子：実践に生かす看護理論 19 サイオ出版 2018 第2版 看護六法 ほか		
評価	筆記試験に授業中の課題への取り組みなどを加味して評価します。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
看護学概論Ⅱ	1単位（30時間）	1年次 前・後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 人間を対象とし、生と死に向き合う職業をもつ看護師は、専門職者として、倫理的態度をもって看護を行うことが大切であり、それを学生時代から養っていくことが必要である。そこで、この科目では、職業倫理としての看護倫理、そして看護の倫理原則に基づいた考え方を学ぶことを目的とする。 又、専門職者として、研究を行う基盤を持つことは重要なことである。看護職者は看護実践と研究の関係、看護研究の意義を理解し、自ら研究に取り組めるための基本的知識を身につける必要がある。そのために、まず、基本的な論文・レポートの書き方を学習し、思考の整理、深まりにつながるよう研究の基本的方法を学ぶことを目的とする。 <単元目標> 1. 人間の価値を学び、患者一人一人の人権の尊重が考えられる。 2. 看護倫理についての基本的な知識を理解する。 3. 看護倫理を学び、看護師としての責務と責任を考えることができる。 4. 看護における研究の意義、概要を理解し、看護研究の方法を学ぶ。 5. 看護研究の必要性を認識し、看護研究の実践者としての基本的な姿勢を学ぶ。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 倫理学の基本的な考え方 (4時間)	1・2	1) 倫理の基礎 (1) 倫理とは (2) 倫理理論とは (3) 倫理的原則とは 2) 生命倫理とはなにか 3) 生命倫理の原則・規則 (1) 生命倫理の4原則	講 義
2. 看護師にとっての倫理的意義 (2時間)	3	1) 看護倫理とは (1) 看護倫理を学ぶ意義 (2) 看護倫理の歴史 (3) 看護の倫理原則 2) 看護実践上の倫理的概念 (1) アドボカシー (2) 責務 (3) ケアリング (4) プライバシーの保護 (5) 自己決定権・自律 (6) インフォームドコンセント	講 義
3. 看護専門職の倫理 (2時間)	4	1) 看護職者としての倫理の必要性 (1) 社会からみた看護 (2) 専門職に求められる倫理 2) 専門職の倫理綱領 (1) 日本看護協会の看護者の倫理綱領 (2) ICN看護師の倫理綱領 (3) 保健師助産師看護師法と倫理	講 義

4. 倫理的問題へのアプローチ (8時間)	5	1) 看護実践における倫理的問題の特徴 2) 倫理的問題へのアプローチ (1) サラ・フライの看護実践における倫理的分析和意思決定のためのモデル	講義
	6～8	3) 看護実践を行う上での倫理的課題と分析の実際 (1) 日常ケアの中の倫理的課題 (2) 先端医療技術における倫理的課題 * (1) (2) に関する事例から1つ選択しグループで問題の所在とモデル行動について検討 →クラス全体で発表・討議(3～4人/グループ) 〈事例〉 ・人間の尊厳に関する事例 ・平等な看護の提供に関する事例 ・信頼関係に基づく看護の提供に関する事例 ・知る権利、自己決定に関する事例 ・個人情報保護、守秘義務に関する事例 ・抑制と安全に関する事例	演習
5. 看護と研究 (12時間)	9	1) レポートを書くための基礎知識 (1) 論文・レポートとは (2) 論文の重要性 (3) 論理的思考とは 2) レポート作成の実際 (1) 論文、レポートの基本構造とは (2) テーマの設定の仕方・レポート課題の理解 (3) 序論・はじめにとは (4) 本論とは (5) 論文・レポートにおける考察とは (6) 結論とは (7) おわりにとは (8) 文献の活用について (9) レポート・論文作成上の留意点	講義
	10	3) 研究の概要 (1) 研究の目的 (2) 専門職者としての問題意識	講義
	11	4) 看護研究の概要 (1) 目的・定義・意義・モラル (2) 研究分野と方法	講義
	12	5) 看護研究の進め方 (1) 研究過程 (2) 文献活用の実際 (3) 論文の書き方 (4) 論文評価	講義

	13～ 14	6) 論文評価の実際（グループワーク） 論文評価の視点をを用い、原著論文を評価する。 評価結果を発表し、クラス全体で討議する。	演 習
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験（90%） 演習課題への取り組み状況（10%）		
教科書	〔单元1～4〕 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 2018 第2版 〔单元5〕 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 2020 第17版 河野哲也著：レポート・論文の書き方入門 第4版 慶應義塾大学出版会 2018 看護学生のためのケーススタディ メジカルフレンド社 2011 第4版		
参考文献	石井トク 他著：看護倫理学入門 医歯薬出版株式会社 2012 サラT. フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン 著：看護実践の倫理 日本看護協会出版会 2010 宮脇美保子 ：身近な事例で学ぶ看護倫理 中央法規 2013 杉谷藤子 他著 ：ベットのサイドの看護倫理事例 30 日本看護協会出版会 2011 吉川洋子他著 ：看護学生のための患者さんの声に学ぶ看護倫理 日本看護協会出版会 2010		

授 業 科 目	単位数	開 講 時 期	担 当 講 師
看護援助の基本Ⅰ	1単位（30時間）	1年次 前期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護者は、対象者の尊厳を守りながら生活の自立を目指して看護の技術を駆使する。そのためには、患者の安全性を保障し、コミュニケーションを図っての対象理解が不可欠である。 ここでは、他の看護技術に先立ち、対象者の理解と看護実践の基盤になる看護技術の概念を学び、その上でコミュニケーション、安全など看護行為に共通する技術を学ぶ。 単元1：看護技術の概念 看護技術は、対象の安全・安楽、自立を目指した目的意識的な直接行為であり、看護の専門的知識に基づいて行われるものと定義される。看護技術の概念を学ぶことから、看護を学ぶ者としての心構えと今後の各技術修得のための土台となる知識を身につける。 <単元目標> 1. 看護技術の概念が理解できる。 2. 看護技術の特徴と基本原則が理解できる。 3. 看護技術の構成が理解できる。 単元2：安全を守るための技術 看護は個々の身体の状態や環境を総合的に判断し、個人の安全が守れるような援助を行う。患者の状態に合わせた安全の確保を行うということは、身体的・精神的な安楽や安心を得ることと、事故による身体・精神への負担を負うことなく回復を促進することや、医療の信頼を得ること、ケアの質を保証することにことにもつながる。さらに安全はケアの対象者だけではなく看護者自身の安全も含まれている。 ここでは看護職として必要な安全の基礎的知識・技術・態度を身につける。 <単元目標> 1. 看護における安全の意義と安全を脅かす諸因子について理解できる。 2. 事故防止の方法が理解できる。 3. 感染予防を理解し、清潔・不潔が判断できる。 4. 感染予防の基本的技術が実践できる。 5. 院内感染の原因と対策について理解できる。 単元3：コミュニケーション 看護はあらゆる発達段階、健康レベルにある人間を対象としており、看護実践は看護者と対象者の相互作用を通して、人間関係を形成しながら行われる。コミュニケーションの本質は他者との意味の共有であり、看護者が対象と意思疎通を図ることは援助的人間関係の確立のために大変重要である。また、単に看護者と患者の意思疎通技術ではなく、援助過程の構成要素に深く関わり、効果的かつ質の高い看護行為を実施する上で看護活動の質を決定づける。全ての看護実践の基盤となるのがコミュ			

ニケーションである。看護における効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を修得するための基本原則を学ぶ。

＜单元目標＞

1. コミュニケーションについての基礎的知識を理解できる。
2. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解できる。
3. 看護に必要なコミュニケーション能力を身につけるために、自己洞察の必要性が理解できる。

＜授業計画＞

单元	回数	内容	授業形態
1. 看護技術の概念 (4時間)	1	1) 看護技術とは 2) 看護技術の概要 (1) アートとしての側面 (2) サイエンスとしての側面 (3) アートとサイエンスの融合 3) 看護技術の基本原則 (1) 安全・安楽 (2) 自立 (3) 効率性 (4) 個別性	講義
	2	4) 看護技術の構成 (1) 対人関係技術 (2) 看護過程展開の技術 (3) 生活援助技術 (4) 診療に伴う援助技術	講義
2. 安全を守るための 技術 (2時間)	3	1) 安全を守る技術 (1) 安全の意義と目的 (2) 安全を阻害する危険因子 (3) 事故防止の技術 ①ベッド上の安全(安全ベルト、ベット柵、離 床センサーなど) ②移送や移動時の安全	講義
(6時間)	4	2) 感染予防の技術 (1) 感染予防の意義と看護者の役割 (2) 感染予防の原理	講義

(8時間)	5	(3) 感染予防の技術 ①標準感染予防策（スタンダードプリコーション） ②感染経路別予防策（空気・飛沫・接触感染の予防策） ③感染性廃棄物の取り扱い	演 習
	6	3) 院内感染の原因と対策 (1) 院内感染とは (2) 院内感染の原因 (3) 院内感染の対策	講 義
	7～8	4) 感染予防技術の実際 (1) 微生物伝播の予防 ①手洗い法 ②手袋の装着 ③ガウンテクニック（マスク・ゴーグル・キャップを含む） (2) 滅菌物の取り扱い（無菌操作） ①滅菌包みの開け方 ②鑷子・鉗子 ③薬液の注ぎ方 ④カスト缶 ⑤滅菌バッグ (3) 感染性廃棄物の取り扱い	講 義
	9～10	5) 無菌操作の実際と清潔区域へのガウンテクニック清潔野の作成・滅菌物の取扱・薬液の口切り・無菌操作・ガウンテクニックについて、4人1グループで実施。それぞれ実施者・介助者を経験する。	演 習
	11	1) コミュニケーションの概念 (1) コミュニケーションの基本原理と成立させる要素 (2) コミュニケーションの方法（聴く・話す・理解する） (3) コミュニケーションの種類とその概要 ①言語的コミュニケーション ②非言語的コミュニケーション	講 義
3. コミュニケーション (8時間)			

	1 2	2) 看護におけるコミュニケーション (1) 対人関係プロセスとしての看護 ①共に成長していく関係 ②対等な関係 ③自分を理解する ④他者を理解する (2) 患者—看護師の信頼関係 ①看護における信頼関係とは ②信頼関係成立の原則（ウィーデンバック） (3) 連絡・報告・相談	講 義
	1 3～ 1 4	3) コミュニケーションの実際 (1) 患者の心理と看護学生の面接技法について ＜事例＞40歳 男性 治療しているが症状が悪化してきている。学生が訪室すると暗い表情で外を見ている ※6～7人グループで、患者役・学生役各1名 その他は監察役になり、ロールプレイを行う。 その後グループで患者の心理やコミュニケーションの取り方についてグループワーク、発表 →教員のまとめ	演 習 GW
	1 5 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2021 第18版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021 第18版		
参考文献	A. ウィーデンバック：コミュニケーション，日本看護協会出版会 2007 F. ナイチンゲール：看護覚え書き，現代社 2016 第7版 ペプロウ ペプロウ看護論 看護実践における対人関係論 医学書院 1989 宮本真巳 感性を磨く技法 看護場面の再構成 日本看護協会出版会 1995		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
看護援助の基本Ⅱ	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

看護者は患者の発達段階や健康障害を総合的に捉え、健康問題を解決するための看護を実践する必要がある。そのためには観察、測定、面接などの技術を正しく、正確に用いて主観的・客観的情報を収集する必要がある。また、得た情報は専門的な知識を活用して的確に判断してはじめて有用な情報になる。そのため、看護者は観察・測定・フィジカルイグザミネーションから得られた情報を科学的根拠に基づきアセスメントし、日常生活の行動面を評価し看護援助へと結びつけていく必要がある。

ここでは、看護を実践するために必要なフィジカルアセスメントの基本的な知識・技術・態度を身につける。

単元1：フィジカルアセスメントの理解

フィジカルアセスメントとは、頭部から足先までの全身の状態を的確に系統的に把握するために、問診（健康歴など）、視診、触診、打診、聴診などの技術を用いて身体診査することである。看護のためのフィジカルアセスメントは、看護を実施するために、身体を根拠に基づいて的確に系統的に把握するために行う。フィジカルアセスメントは、看護者にとって重要な技術の1つである。そのため、科学的な思考を基盤とした熟練した正確な技術はもちろんのこと、的確な身体の査定であり、看護上の問題を見いだすためのフィジカルアセスメントでなければならない。

ここでは、フィジカルアセスメントの意義や重要性について学ぶ。

＜単元目標＞

1. ヘルスアセスメントの意義、機能が理解できる。
2. フィジカルアセスメントの意義、重要性が理解できる。

単元2：フィジカルアセスメントの実際

フィジカルアセスメントを行うためには、身体診査のための正確な情報を得ることが重要である。そのためには観察の技術やバイタルサインを正確に測定する技術や得られた情報の正常、異常を判断し援助に繋げるためのアセスメントが必要である。

ここでは、看護の基本となる観察についての意義・目的・原則を学び、バイタルサインの測定やフィジカルイグザミネーションの基本的知識・技術・態度を習得する。

＜単元目標＞

1. 看護実践における、観察の意義と目的を説明できる。
2. 生命徴候としてのバイタルサインの意義を理解し、正しい測定ができる。
3. 基本的なフィジカルイグザミネーションが実施できる。
4. 得られた情報の正常・異常の判断ができる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. フィジカルアセスメントの理解 (4 時間)	1~2	1) ヘルスアセスメントとは (1) ヘルスアセスメントの意義、機能 (2) ヘルスアセスメントの視点 (3) 倫理的配慮 2) フィジカルアセスメント (身体診査) とは (1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と重要性 (2) 看護者におけるフィジカルアセスメントの特徴 (3) フィジカルアセスメントの構成 (4) フィジカルアセスメントの基礎技術 ①問診 ②視診 ③聴診 ④打診 ⑤触診 (5) 観察 ①看護観察の概念 ②看護における観察 i 観察の視点と内容 ii 看護観察における思考の過程	講 義
2. フィジカルアセスメントの実際 (26時間) (14 時間)	3	1) フィジカルアセスメント (身体診査) の進め方 (1) 健康歴の聴取 (2) 系統的レビュー (3) 身体各部の診査 (4) 測定後の記録 (健康歴・データベース表、温度表) (5) フィジカルアセスメントに必要な器具・材料 2) 各器官、系統のフィジカルアセスメント (1) 頭頸部のフィジカルアセスメント ①頭頸部の解剖生理 ②頭頸部の機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③頭頸部のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断	講 義
	4~5	(2) 呼吸器のフィジカルアセスメント ①呼吸器の解剖生理 ②呼吸器機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③呼吸器のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断 (3) 循環器のフィジカルアセスメント ①循環器の解剖生理 ②循環器機能の変化によって起こる人間の身	講 義

(14時間)		体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③体温調節のメカニズム ④循環器のフィジカルアセスメントの実際 ⑤得られた情報の正常、異常の判断	
	6~7	3) バイタルサイン (1) バイタルサインの重要性 ①バイタルサインとは ②バイタルサイン測定の意義	講 義
	8~9	(2) バイタルサインの観察 (3) バイタルサイン測定の実際	演 習
	10~11	2) 各器官、系統のフィジカルアセスメント～続き (4) 腹部のフィジカルアセスメント ①腹部の解剖生理 ②腹部機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③腹部のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断 (5) 筋骨格系のフィジカルアセスメント ①筋骨格系の解剖生理 ②筋骨格系機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③筋骨格系のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断 (6) 神経系のフィジカルアセスメント ①神経系の解剖生理 ②神経系機能の変化によって起こる人間の身体的・心理的・社会的変化および生活への影響 ③神経系のフィジカルアセスメントの実際 ④得られた情報の正常、異常の判断	講 義
	12~13	(7) 頭頸部、呼吸器、循環器のフィジカルイグザミネーション技術（呼吸・脈拍・血圧・体温測定を含む）測定の実際（記録、報告を含む） ※デモンストレーション 4人1組になり頭頸部、呼吸器、循環器の順で演習。測定結果について報告し、記録として提出	演 習
	14	(8) 腹部、筋・骨格、神経系のフィジカルイグザミネーション技術の実際、身体計測の実際（記録、報告を含む） ※デモンストレーション 4人1組になり（8）の点で演習。測定結果	演 習

		15 評価	について報告し、記録として提出 筆記試験	
評価	筆記試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 2020 第17版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2021第18版			
参考文献	岡庭 豊：フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 平成27年 第1版 川村佐和子 他編：ナースングラフィカ⑦基礎看護学―ヘルスアセスメント メディカ出版 2014 第4版 第1刷 日野原重明編：ナースに必要な診断の知識と技術フィジカルアセスメント 医学書院 2014 第4版 第6刷 藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド第3版 学研メディカル秀潤社 2017 第3版 第1刷 守田美奈子：看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス インターメディカ 2016 初版 第1刷			

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
看護援助の基本Ⅲ	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

看護は対象の看護上の問題と対象のニーズを明確にし、問題解決していくためにおこなう系統的、組織的な活動である。看護過程は、雑多な現象を整理し、ひとつずつ解決する方向で物事に対処して行くという問題解決的アプローチである。

この活動は、①必要な情報を収集し、②対象の健康状態を査定（アセスメント）し、③その集積から対象の看護上の問題を明確（看護診断）にし、優先順位にそって④目標設定のもと、問題解決のための介入計画を立てる。そして⑤看護ケアを実施し、⑥その後事後評価をする。さらにその評価を次の実践へとつないでいく螺旋階段のような営みである。

ここでは、看護における問題解決思考プロセスを理解し、対象に応じた看護過程を展開できる基礎的能力を養う。また、看護記録の概念を理解し、記録に対する責任の自覚を持ち、記録を活用していくための基礎的能力を養う。

この科目での学習を通して、問題意識をもち、科学的・批判的に思考する態度を養う機会とする。

＜単元目標＞

1. 看護過程の展開方法について理解する。
2. 対象の個性をふまえた看護展開の実際を理解する。
3. 看護記録の概念とその実際を学び、看護実践に活用できる。
4. 科学的に思考する態度を養う。

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 看護過程の概念と構成要素 (6時間)	1～3	1) 看護過程の概念 2) 看護過程の段階 (1) 情報収集 (2) アセスメント アセスメントカテゴリー ①ハンダーソン（基本的ニーズ） ②ゴードン〈機能的健康パターン〉 ③ロイ（4つの機能様式） ④オレム（セルフケア要件） ⑤NANDA（看護診断分類法Ⅰ・Ⅱ）など (3) 看護問題の明確化（看護診断） (4) 看護計画立案 ①優先順位 ②看護目標の設定、達成期日 ③ケア計画 (5) 実施・評価	講義
2. ロイの適応理論と看護過程 (8時間)	4～7	1) ロイの適応理論 2) ロイの適応理論に基づく看護過程 (1) 行動のアセスメント (2) 刺激のアセスメント (3) 看護診断	講義

3. ロイの適応理論に基づく看護過程展開の実際 (10時間)	8~12	(4) 目標設定 (5) 介入 (6) 評価 1) 看護過程展開の実際 (1) ペーパーペイシエントによる看護過程の展開を行う(個人ワーク)。 (2) フェイスシート~介入計画作成まで行う。	講義・演習
4. 看護過程と看護記録 (4時間)	13~14	1) 看護記録とは (1) 医療における記録と内容 (2) 看護における記録の目的と重要性 (3) 看護記録の法的位置づけ 2) 看護過程と看護記録 3) 看護記録の記載方法 (1) 看護記録の構成要素 (2) 記録記載の原則と注意事項 4) 報告とは (1) 報告の重要性 (2) 報告の目的と方法	講義
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験(50%) 看護過程の個人ワークの提出課題(50%) 授業中の課題への取り組み、提出物なども加味して評価します。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2021 第18版		
参考文献	松木光子監訳：ザ・ロイ適応看護モデル 第2版 医学書院 小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践 第2版 医学書院		

授 業 科 目	単位数	開 講 時 期	担 当 講 師
日常生活援助技術Ⅰ	1 単位（30 時間）	1 年次 前期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

対象が適応にむかえるための重要な看護行為として、日常生活を整えることがあげられる。

ここでは、環境調整と活動・休息に対する看護技術を原理原則に基づいて実践できる能力を習得する。そのためには、それぞれの意義と健康、対象の生活との関係性を理解することが必要である。また、看護行為の基盤となる科目として安全・安楽に配慮する必要性を理解し、基本的知識と態度、技術を身につける。

単元1：環境を整える技術

環境は人間の健康に影響を及ぼし、生命の維持、疾病の予防、回復、健康の保持増進には環境を整える必要がある。ここでは、疾病や機能障害をもち療養生活を送る対象の安全・安楽な環境を保つための知識と態度、基本的な技術を身につける。

＜単元目標＞

1. 環境の調整の意義を理解する。
2. 環境調整への援助の原理原則を理解する。
3. 室内環境の調整、病床を整える技術が原則に基づいて実施できる。
4. 療養生活を送る患者の気持ち、生活習慣を尊重した配慮ができる。

単元2：活動・休息の技術

活動と休息の意義を理解し、健康の促進、回復の促進ができることが看護師の役割である。

ここでは、対象の生活、疾病や機能障害に合わせた活動、休息の援助が安全・安楽に行えるための知識と態度、基本的な技術を身につける。

＜単元目標＞

1. 活動と休息の意義を理解する。
2. 活動・休息への援助の原理原則を理解する。
3. ボディメカニクスを活用して、安全・安楽に体位変換、移動・移送が実施できる。

＜授業計画＞

単元	回数	内容	授業形態
1. 環境を整える技術 (16 時間)	1	1) 人間の環境と健康 (1) 環境とは (2) 環境因子 (3) 健康生活と環境 2) 病人の生活環境 (1) 病室内環境の構成因子	講 義

2. 活動・休息の技術 (12時間)		(2) 病棟の構成と病床の種類	
	2	3) 望ましい療養環境と必要な援助 (1) 療養調整の意義 (2) 毎日の環境整備	講 義
	3	(3) ベッドメイキング (4) シーツ交換	講 義
	4~5	4) 環境調整の実際 (1) オープン・クローズドベッド ①リネン類の取り扱い ②オープンベッド ③クローズドベッド	演 習
	6	(2) 病室の環境整備	演 習
	7	(3) 臥床患者のシーツ交換 ①臥床患者のシーツ交換のデモンストレーション ②45歳女性、心疾患でベッド上安静の指示。 病棟のスケジュールによりシーツ交換を行う。 ③グループ内で患者役を決め、患者体験する。 (4) 環境調整の演習まとめ	演 習
	8	5) 技術試験(実施要領別紙)	
	9	1) 活動と休息の意義 2) 健康生活と活動・休息 (1) サーカディアンリズム (2) 活動・休息が健康に与える影響 (3) 活動・休息を阻害する要因	講 義
	10	3) 体位変換 (1) ボディメカニクス (2) 体位と体位変換	講 義 VTR
	11	4) 体位変換の実際 (1) 様々な体位の体験と安楽性を考える。 (2) 体位変換のデモンストレーションと演習 基本的体位変換の演習	演 習

		①仰臥位から側臥位 ②仰臥位から長坐位・端座位 ③端座位から立位	
	12	5) 活動への援助 (車椅子、ストレッチャー、歩行) (1) 移乗 (2) 移送	講義
	13	6) 移乗・移送の実際 (1) 車椅子への移乗・移送 (2) ストレッチャーへの移乗・移送 (3) 歩行介助 演習：デモンストレーションを見学した後、 グループに分かれ、(1) から (3) を患者役と看護師役を決めてお互い に経験する。 (4) 移乗・移送の演習のまとめ	演習
	14	7) 休息への援助 (1) 睡眠と覚醒のメカニズム (2) 睡眠障害の種類 (3) 患者の理解と休息・睡眠を高める援助 事例：40歳女性、原因不明の発熱で精密 検査のため入院。不眠を訴える。 グループワークの視点 ①患者の状況の分析 ②観察や状況分析から予測・判断できること ③休息・睡眠を高める援助とは ④まとめ	講義 GW
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験 (50%) 技術試験 (50%)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021 第18版		

参考文献	F. ナイチンゲール：看護覚え書き，現代社 2016 第7版 金井一薫：ナイチンゲール看護論入門，現代社 V. ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 2016 再新装版 氏家幸子：基本看護技術，医学書院 小玉香津子 他編：基礎看護技術マニュアルⅠ，学習研究社 佐藤和良：看護学生のための物理学，医学書院 ほか
------	---

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
日常生活援助技術Ⅱ	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 対象が適応にむかえるための重要な看護行為として、日常生活を整えることがあげられる。この技術を学習するためには、生活の一つ一つについて、その意義と健康との関係性を理解することが必要である。その上で、清潔、衣生活などに対する看護技術を、原理原則の理解に基づき実践できるよう習得する。 また、看護技術の学習において初期の段階に当たるため、看護行為の基盤となる身のこなし、安全への注意力、安楽への配慮、物品の扱い、対象への態度などを自らの日常を振り返りながら考え、学ぶ方法を身につける必要がある。 身体の清潔への欲求は生理的欲求であり、そのニーズは多くの影響要因に左右される。その個人の清潔のニーズが満たされ、健康の保持・増進につながる看護に必要な基礎知識を身につけ、対象に応じた方法で清潔の援助が実施出来る事を目的とする。 <単元目標> 1. 人間の健康生活と清潔行動の関係、看護における清潔への援助の意義を理解する。 2. 清潔ケアにおける原理原則を理解し、実施できる基本的技術を修得する。 3. 対象の状況に応じた清潔ケアの選択が出来る。 4. 対象のプライバシーを配慮し、対象尊重の姿勢で援助できる態度を身につける。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 健康生活における 清潔の意義と基本的知識 (4時間)	1	1) 清潔援助の基礎的知識 (1) 皮膚の解剖 (2) 皮膚の働き (3) 粘膜の生理作用 2) 健康生活における清潔の意義	講 義
	2	3) 健康障害時の清潔について (1) 援助の必要性 (2) 疾病時における清潔の意義 (3) 疾病時における清潔のニーズと生活習慣 ①朝・夕のケア ②全身の清潔の方法とニーズ (4) 看護の目的	講 義
2. 身体の清潔・衣生活を整える援助 (20時間)	3	1) 口腔の清潔 (1) 口腔ケアの意義・目的 (2) 口腔の解剖・生理 (3) 口腔状態のアセスメント (4) 口腔ケアの実際 2) 部分浴の清潔 (1) 手浴、足浴の意義・目的 (2) 手浴、足浴の方法と留意点	講 義

	4	4) 手浴・足浴の実際 ①足浴のデモンストレーション、その後演習 ②事例：76歳女性 長期臥床で入浴が出来ない状態であったが、車椅子での座位は可能になった。入浴した気持ちになってもらうため座位にて足浴を行う。 ③車椅子に座っての足浴の演習 ④グループに分かれ演習を行う。 ⑤グループ内で患者役を決め、実施する。	演 習
	5・6	5) 頭皮・頭髪の清潔 (1) 洗髪の意義・目的 (2) 頭髪の解剖・生理 (3) 頭皮・頭髪状態のアセスメント (4) 洗髪の禁忌 (5) 洗髪の方法 (6) 臥床患者の洗髪の実際 ①ケリーパッド・洗髪車の使用方法と取り扱い ②ケリーパッドのデモンストレーション、その後演習 ③事例：50歳女性 ベッド上の安静が必要であり、頭部の掻痒感がある。 ④グループに分かれ演習を行う。 ⑤グループ内で患者役を決め、実施する。 ⑥事前に洗髪方法についての情報収集をする。 (7) 洗面台での洗髪の実際 ①事例：70歳女性、肺炎で回復しているが入浴には自信がなく洗髪を希望する。 ②グループに分かれ演習を行う。 ③グループ内で患者役を決め、実施する。	講 義
	7	6) 陰部の清潔の実際 (1) 陰部の清潔の意義 (2) 陰部の構造の特徴 (3) 陰部ケアの方法 (4) 陰部ケアの演習、基本的方法の演習 ①陰部ケアのデモンストレーション・演習 ②女性・男性の場合の説明をデモンストレーションで実施 ③女性陰部ケアの演習 ④グループに分かれ実施。患者役は陰部モデルを使用。	演 習
	8	7) 全身の清潔の保持 (1) 全身の清潔を保つ意義・目的 (2) 全身の清潔の保持状態のアセスメント (3) 清潔方法の特徴と選択 (4) 清潔の援助実施時の原則	講 義

3. 技術の評価 (5時間)	9~12 13~15	8) 入浴・シャワー浴 (1) 入浴・シャワー浴の目的、方法 (2) 入浴・シャワー浴時の留意点・観察点 9) 衣類の清潔・選択について (1) 病衣の意義・条件 (2) 病衣交換の目的 (3) 病衣交換時の方法・留意点 10) 全身清拭の実際 (1) 全身清拭の意義・目的 (2) 全身清拭の方法と根拠 (3) 全身清拭の留意点・観察点 (4) 全身清拭の演習 ①全身清拭のデモンストレーション、その後演習 ②事例：45歳女性、心疾患のため活動制限がありベッド上安静の状態 ③グループに分かれ演習を行う。患者役を決め実施する。 ④実施は2人で協力して行う。 11) 清潔の演習のまとめ 12) 技術試験（実施要領は別紙） (1) 試験についてのオリエンテーション (2) 技術試験 (3) 全体のまとめ	演 習
評 価	筆記試験（50％） 技術試験（50％）（実施要領は別紙）		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021 第18版		
参考文献	薄井担子他編：F. ナイチンゲール 看護覚え書き 現代社 2020 第7版12刷 湯槇ます他編：V. ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 2016 再新装版1刷		

日常生活援助技術Ⅱ 技術試験実施要綱

I. 目的

患者の清潔における援助（全身清拭、寝衣交換）について、安全・安楽・効率性に基づいた確実な知識・技術を身につける。

II. 目標

1. 看護ケアを行う心構えができている。
2. 全身清拭が可能な状態か、観察・判断できる。
3. 全身清拭の準備ができる。
4. 体力の消耗を最小限にし、爽快感をもたらす全身清拭ができる。
5. 清潔な寝衣に交換できる。
6. 清拭中、清拭後の観察ができる。
7. 援助を素早く丁寧に短時間で行える。

III. 技術試験時期

1 年次後期：A組・B組に分かれて実施。

IV. オリエンテーション：A・B組合同で日常生活援助技術Ⅱ講義中に実施。

V. 事前レポート

実施要領参照。

VI. 試験内容

事例に関しては、オリエンテーションで説明する。

VII. 実施方法

実施要領参照。

VIII. 評価方法

目標ごとに水準に達しているか判定し、評価する。

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
日常生活援助技術Ⅲ	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

対象が適応にむかえるためには、日常生活上の看護問題を把握し日常生活を整えることが重要である。そのためには、日常生活の一つ一つについてその意義と健康との関係性を理解することが必要となる。食事・排泄は人間の健康にとって欠くことが出来ない重要な生活行動であり、心理的にも社会的にもその意義は大きい。それらの意義をふまえた上で、食生活や排泄に対する看護技術を原理・原則をふまえて安全・安楽に実践出来るよう習得する。

単元1：食生活の援助技術

食べることは人間の基本的ニーズの一つであり、人は食事によって体内に栄養を取り入れ生命・健康を維持している。また食生活は心理的意義、社会的意義も大きいものである。

ここでは看護における食生活への援助の意義を理解した上で、健康レベルや食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足する援助を実施するための基本的知識・技術・態度を身につける。

＜単元目標＞

1. 人間の生活と健康における食事の意義を述べることができる。
2. 対象に応じた食事の援助のためのアセスメントの視点を述べることができる。
3. 対象に応じた食行動や食事環境を整えるための援助ができる。
4. 経管栄養法の適応・原理・原則について述べることができる。
5. 施行上の原則に従って経管栄養を実施できる。

単元2：排泄の援助技術

人間は生命を維持するために、身体にとって必要な物質を摂取し、代謝の結果不要になった有害物質を排出する。排泄機能・排泄行動は人間が生命を維持するために欠かせない生理的欲求であり、また他人には見られたくないきわめて個人的な生活行動である。

ここでは、人間にとっての排泄の意義や排泄援助が対象に与える心理的な影響を理解した上で、対象に応じた安全・安楽な排泄援助を実施するための基本的知識・技術・態度を身につける。

＜単元目標＞

1. 人間の生活と健康における排泄の意義を述べることができる。
2. 自然な排泄を促すための援助方法について理解し実施できる。
3. 排泄の援助によって対象が受ける心身への影響について理解し、対象に応じた排泄の援助方法を選択・実施できる。
4. 浣腸・導尿の適応・原理・原則について述べる事が出来る。
5. 施行上の原則に従って安全に浣腸・導尿を実施できる

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 食生活の援助技術 （4時間）	1・2	1) 食事・栄養の意義 （1）生理的な意味 （2）心理的な意味	講 義 VTR

2. 排泄の援助技術 (6時間)	(4 時間)	3	(3) 社会的な意味 2) 栄養・食行動に関するアセスメントの視点 (1) 栄養状態のアセスメントの視点 (2) 摂食能力・行動のアセスメントの視点 3) 食事の援助技術 (1) 食事援助における看護者の役割 (2) 食事援助を受ける患者の心理 4) 経管栄養時の看護 (1) 経管栄養法とは (2) 経管栄養法の適応 (3) 経管栄養法の種類 (4) 経管栄養法実施にあたっての原則	デモンストラ ション 演 習
		4	5) 食事援助の実際 (1) 食事介助のデモンストラクション後に演習 (2) 1グループ4人～5人 (3) 以下の患者設定で実施 ①80歳自力で摂取できない安静臥床の患者。仰臥位にて全面介助。 ②75歳右片麻痺で左手食事可能な仰臥位の患者。ファロー位で部分介助。 (4) 食事介助についてのまとめ	
		5	6) 経管栄養法の実際 (1) チューブ挿入のデモンストラクション後に演習 ①モデル人形を使用する ・チューブの挿入・固定・抜去 ・栄養剤注入の手順 ②1グループ4～5人 ③経管栄養法についてのまとめ	
		6	1) 排泄の援助に必要な基礎知識 (1) 排尿・排便の意義と重要性 (2) 排尿・排便のメカニズム 2) 排泄に関するアセスメント (1) 尿と排尿状態の観察 (2) 便と排便状態の観察 (3) 排泄に影響を及ぼす因子	
	(6時間)	7	3) 排泄の援助 (1) 排泄援助の基本姿勢と原則 (2) 自然排尿・排便を促す援助 (3) 排尿障害・排便障害に対する援助 (4) 排泄用具を用いた排泄行動の援助	講 義 VTR
		8	4) 排泄用具を用いた援助の実際 (1) 床上での排尿・排便の援助 ①洋式便器、和式便器 ②上記3つのデモンストラクションを行う ③洋式便器の挿入・排泄後の後片付けの演習	
				デモンストラ ション 演 習

(14時間)		④事例：40歳代女性 検査後 安静制限がありベット上での排泄を行う。 ⑤4～5人1グループで演習 (2) ポータブルトイレ使用時の援助 ①ポータブルトイレ使用時のデモンストレーション (3) 排泄介助についてのまとめ	
	8	5) 浣腸法 (1) 浣腸とは (2) 浣腸の目的 (3) 浣腸の種類	講義 VTR
	9	6) 浣腸法を受ける患者への援助 (1) 浣腸法の適応・種類 (2) 浣腸法実施にあたっての原則	
	10	7) 浣腸法の実際 (1) グリセリン浣腸のデモンストレーション (2) グリセリン浣腸の実際 ①事例：20歳代女性 5日間便秘が続いている。温罨法、マッサージの効果なく、医師の指示でグリセリン浣腸施行。 ②4～5人1グループで演習 ③患者役体験をする。陰部モデルを着用。 (3) 浣腸の演習のまとめ	デモンストレーション 演習
	11	8) 導尿法 (1) 導尿とは (2) 導尿の目的 (3) 導尿の適応・種類	講義
	12	9) 導尿法を受ける患者への援助 (1) 導尿法実施にあたっての原則 (2) 一時的導尿法を受ける患者への援助 (3) 持続的導尿法を受ける患者への援助	講義 VTR
	13・14	10) 導尿法の実際 (1) 持続的導尿法の実際 ①事例：80歳女性：肺炎のため入院 発熱が続き、体動も困難なため、立位保持できるまで留置カテーテル挿入の指示がでた。 ②グループに分かれ演習を行う。 (2) 導尿・留置カテーテル挿入の演習のまとめ	演習
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021 第18版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021 第18版
参考文献	随時紹介

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
診療援助技術Ⅰ	1 単位 (30 時間)	1 年次 前・後期	非常勤講師・専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護の役割の一つに健康回復促進への援助、つまり生体機能を整えるための援助がある。その実施には、人間の生理機能を理解した上で、解剖学・生化学・薬理学・栄養学などの専門基礎分野で学んだ知識を活用し、生体機能を整えるための援助技術の原理原則を理解することが必要である。また、その行為に於ける安全性を確保し、看護の責任を認識した援助行為が行える必要がある。 単元1：検査時の看護 検査は個人の健康状態を測定・評価するための情報として、広く健康診断や疾病診断のために重要な役割を果たしている。看護においては、患者の状態を病態生理学的に把握し、患者の訴えや生理機能の変化を査定するうえで重要な看護情報が得られる。患者の安全・安楽を守り、確実に検査が終了できるように援助することが必要である。 <単元目標> 1. 検査の意義と種類が理解できる。 2. 検査の科学的性質を知って注意深く取り扱うことができる。 3. 検査時に必要な看護が理解できる。 単元2：治療・処置に伴う看護（吸引、吸入、酸素吸入、包帯、創傷処置、電法） 看護の重要な役割の一つに、診療の補助技術がある。この技術は人間の生理に関する基本的知識の活用と同時に、行われる診療行為の目的・意義・生体への影響を理解した上で、その援助技術の原理・原則を理解することが必要である。この科目では、呼吸機能を正常に維持し、あるいは病的状態による機能を回復させる目的で行われる援助について学習する。さらに、対象者の安楽を図るための技法についても学習する。 <単元目標> 吸引、吸入、酸素吸入 1. 吸引、吸入、酸素吸入の目的、原理、原則が理解できる。 2. 酸素の危険性と安全管理の必要性が理解できる。 3. 患者の安全・安楽を確保し、効果的な吸引、吸入、酸素吸入の技術が習得できる。 包帯、創傷処置 1. 包帯法の目的、包帯材料の必要条件と種類が理解できる。 2. 包帯法の原則を理解し、部位に適した基本的な巻き方が習得できる。 3. 創傷が起こるメカニズムと生体への影響が理解できる。 4. 創傷による基本的な治療の目的、生体への影響が理解できる。 5. 創傷によるその人への影響を理解し、苦痛緩和・健康回復への看護援助について計画することができる。 電法 1. 電法の目的と種類、効果を説明できる。 2. 電法の方法、一般原則と注意事項を理解し、安全で効果的な患者に合わせた温、冷電法技術が習得できる。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 検査時の看護 (6時間)	1	1) 検査の意義 2) 検査の種類と方法、実施時の注意点 (1) 生体検査 (心電図検査、脳波、X線検査、超音波検査 呼吸機能検査、視力検査、聴力検査) (2) 検体検査 (尿検査、便検査、喀痰検査、血液検査 血糖検査、消化液検査)	講 義
	2・3	3) 身体侵襲を伴う検査の生体に及ぼす影響の理解 (1) 内視鏡検査 (2) 造影剤を用いた検査 (CT、MRI、PET) (3) 核医学検査 4) 検査における看護者の役割 (1) 患者の準備 (2) 検査の介助 (3) 検査前、中、後の観察 (4) 検査後の安静	講 義
2. 治療・処置に伴う 看護 (22 時間) (8時間)	4・5	1) 吸入・酸素吸入 (1) 吸入の原理・目的 (2) 吸入における生体への影響、必要な観察 (3) 吸入の種類と方法、注意事項 (酸素の危険性、安全管理の必要性) (4) 吸入、酸素吸入 (酸素ボンベの操作含む) の実 際	講 義
	6	デモンストレーション 使用器具 (ポータブル式吸入器・酸素流量計、酸素ボン ベ、酸素濃度計、カニュラ、マスクなど必要 物品)、中央配管システムの説明→患者への説 明、吸入 (酸素吸入と薬液吸入) の実施、援助 効果を求める技術、安全確保と危険予測と対処 (患者役：学生) ↓ 実施 4人一組で①②③を経験する。 ①酸素流量計の中央配管への取り付け ②酸素ボンベの取扱い ③ポータブル式の吸入器を用いての薬液吸入の 実施	演 習
	7	2) 吸引 (口腔、鼻腔、気管内) (1) 吸引の原理・目的 (2) 吸引における原則的な注意事項 (観察を含む) (3) 吸引の実際	講 義

(6時間)	8	使用器具の取扱い、必要物品、中央配管システム・ポータブル式の説明→患者への説明、吸引の実施、安全確保と危険予測と対処（モデル使用）実施 4人一組で①②③を経験する。 ①中央配管への取り付け、圧の確認 ②ポータブル式の吸引器の取扱い ③モデルを使用しての吸引の実際	演 習
	9	3) 包帯 (1) 包帯法の内容 (2) 包帯法の原則 (3) 包帯法の実際 腹帯、胸帯、三角巾、包帯、ネット それぞれの使用方法と患者の観察	講 義
	10	4) 電法 (1) 電法の目的・種類 (2) 電法の方法と原則 (3) 電法における注意事項	講 義
	11	(4) 温電法・冷電法の実際 ～発熱患者の悪寒時の看護と発熱時の看護の実際 患者役・看護師・評価者に分かれ、観察、患者への説明、電法を実施する。	演 習
	12	5) 創傷処置 (1) 皮膚の解剖・生理 (2) 皮膚障害の種類 (3) 褥瘡発生のアセスメント	講 義
	13	(4) 創傷治癒の基本過程と形式 (5) 創傷保護の方法	講 義
	14	(6) 創傷のある患者の看護 (観察、予防ケア計画、ケアの実施、代表的消毒薬の特徴)	講義・演習 VTR 実物提示
(6時間)	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2016 第18版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論 医学書院 2016 第6版		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
診療援助技術Ⅱ	1 単位（30 時間）	2 年次 前期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

今日の医療現場で薬物を取り扱う職種は、医師、薬剤師、看護師である。看護師は診療の補助という立場で医師の指示を受けて、直接その患者にとって安全かつ安楽な方法で、指示どおりに正しく与薬する重大な責務を負っている。

ここでは、生命に直結することが多い看護技術を中心に、必要な基本的知識・技術・態度を習得し、安全で効果的な技術が提供できるために必要な看護を学習する。

単元1：与薬（採血含む）

看護師は診療の補助という立場で医師の指示を受けて、直接その患者にとって安全かつ安楽な方法で、指示どおりに正しく与薬するという重大な責務を負っている。与薬は、生命に直結することが多いこともあり、対象に応じ安全で効果的な与薬を実施できるために、必要な基本的知識・技術・態度を習得することを目的とする。さらに、患者の与薬治療が開始される前の治療方針決定の段階で、採血を行うことも多く、患者の苦痛を最小限にして確実に技術を習得することも必要である。

<単元目標>

1. 与薬の基本を理解する。（看護者の役割、医療事故防止）
2. 薬物の作用や期待される効果について理解できる。
3. 与薬方法について理解する。（対象の状態把握、正確な与薬のための原則）
4. 与薬の目的、適応、注意事項、管理方法を理解した上で安全・安楽に与薬できる。
5. 様々な注射法の作用機序の相違を理解できる。
6. 正しい注射方法を習得できる。
7. 採血の目的、方法、注意事項を理解できる。
8. 患者の心身の苦痛を最小限にして、安全・安楽に採血ができる。

単元2：輸液・静脈内注射

輸液は、大量の薬液を静脈内に投与するために速やかな効果がある反面、循環動態に影響を及ぼしやすい治療法である。薬液を直接に体内へ注入するため、患者の生命に直結する。したがって、輸液は看護者にとってより重要な看護の一つである。看護者は、患者に施行される輸液の目的を理解し、適切な管理・患者のケアができることが必要である。

<単元目標>

1. 輸液・静脈内注射法について、看護に必要な基礎知識が理解できる。
2. 輸液・静脈内注射法について、目的・意義・適応が理解できる。
3. 輸液・静脈内注射法について、援助の基本と正しい技術を習得できる。

単元3：輸血

輸血は一般に健康な他者の血液を経静脈内に体内に注入する治療法であり、臓器移植の一つでもある。治療効果がある反面、生体に及ぼす影響は大きく、患者の不安は強い。看護者は正確な知識に基づき実施とともに、患者の不安や苦痛を軽減する援助が必要である。

<単元目標>

1. 輸血療法について、看護に必要な基礎知識が理解できる。
2. 輸血療法について、目的・意義・適応が理解できる。
3. 輸血療法について、援助の基本が習得できる。

<授業計画>

単元	回数	内容	授業形態
1. 与薬 (採血含む) (20時間)	1	1) 薬物療法の意義・目的と看護師の役割 2) 薬物療法の種類、影響因子、副作用 薬剤の管理方法 3) 与薬の原則と注意事項、医療事故防止対策 誤薬防止のための与薬	講義
	2	4) 与薬の実際(与薬の種類別方法) (経口与薬、吸入薬、口腔内与薬法、外用薬 直腸・膣・尿道内与薬、皮下・皮内・筋肉内注射法) (1) 各方法の目的、方法 (2) 観察項目と留意点 (3) 必要物品(実物提示)	講義
	3	5) 与薬の実際 (1) 内用薬(経口、口腔内与薬法)、外用薬(直腸 内与薬、点眼) デモンストレーション 学生が患者役となり、各与薬方法の実際を行う。 座薬については、モデル使用 ↓ 与薬の実施 4人1組となり、看護師、患者、評価者に分か れ、実践。	演習
	4	(2) 注射法 ①注射法の基礎知識	講義
	5	②注射器の取扱い、薬剤の準備の実際 デモンストレーション 誤薬防止、針刺し防止、感染予防方法を踏ま えての実施 ↓ 注射器を用いて、指示確認から注射の準備まで を実施	演習
	6・7	③皮下注射、筋肉内注射、皮内注射の実際 デモンストレーション 指示確認、薬剤の準備、患者説明、注射法の 実施、観察、後かたづけの一連の実施 (注射モデルを使用) ↓ 筋肉内注射、皮下・皮内注射の実施 (注射モデルを使用)	演習
	8	6) 採血 (1) 採血の意義・目的、血液検体の取り扱い方 (2) 観察点と注意点	講義

2. 輸液・静脈内注射 (6時間)	9・10	(3) 援助の方法 (4) 採血の実際(真空管採血法) 使用器具の取扱いと駆血方法の提示の後、 採血の一連(患者への説明から後かたづけ まで)を実施	演 習
	11	1) 静脈内注射 (1) 意義、目的、種類 (2) 観察点と注意点 (3) 援助の方法 2) 輸液 (1) 意義、目的、種類 (2) 観察点と注意点 (3) 援助の方法 (4) 輸液管理 (5) 点滴静脈内注射法 (6) 中心静脈栄養法	講 義
	12・ 13	3) 点滴・静脈内注射法の実際 (1) 静脈内注射法、点滴静脈内注射法 (2) 輸液管理(輸液施行中の観察、看護) (3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの操作 デモンストレーション (1)(2): 指示確認から準備、患者への説明、 実施、観察、援助、後かたづけの一 連を実施 (3): 実物提示、操作方法、使用中の患者への 説明など。 ↓ (3)の実施: 4～5人のグループで、取扱いについ ての確認を行う。 (1)(2)の実施 2人一組になり、患者役(モデル装着)と看護師に なり交互に実施。	演 習
	14	1) 輸血療法 (1) 意義、目的、種類 (2) 副作用 (3) 患者の観察事項と注意点 (4) 援助の方法 (5) 輸血療法の実際 実物提示、VTR(準備方法・施行中の患者の看護)	講 義
3. 輸血(2時間)	15 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021 第18版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 2016 第6版
参考文献	随時紹介

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
臨床看護総論	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護は、人間の健康生活を保持・増進させ、疾病を予防し、疾病からの回復を図り、リハビリテーションを助けるという保健医療の目的に沿った実践活動である。健康障害が起こった場合には、それぞれの対象がもっとも必要としている援助を提供することが求められる。ここでは、看護に求められる実践上どの領域でも共通する要素を学び、成人・在宅・老年・母性・小児・精神の各領域に発展させるための基礎的能力を身につける。

単元1：経過別看護

疾患は時間の経過と共にその病態が変化し、一般的には急性期・慢性期・回復期・リハビリ期・終末期の各期に分けられる。各経過によって、患者は身体的・心理的・社会的・霊的に変化する。看護は各期の患者と家族の変化を捉え、その特徴にあった援助をしなければならない。ここでは、各期の特徴を捉え、対象に必要な看護を展開できる基礎的知識を身につける。

<単元目標>

1. 各経過における患者の身体・心理・社会的特徴と家族の心理過程を理解する。
2. 各経過における看護の目的・役割を理解する。

単元2：症状別看護

多くの患者は疾患による何らかの症状が出現し、それらが患者の心身に影響を与える。看護は、患者の症状の軽減を図り、生体への影響を最小限にし、回復を助けることを目標とする。ここでは代表的な症状の緩和に向けて援助を行うための基本的知識を身につける。

<単元目標>

1. 症状のメカニズムと生体への影響を理解する。
2. 症状に対する基本的な治療・処置を理解する。
3. 症状緩和・健康回復のための看護の要点を理解する。

単元3：継続看護

健康レベルの変化にともない看護を必要とする場は変わる。施設内外において対象が医療や看護を要するとき、それを引き受け、対象の健康の回復に向けて時・場所を問わずに質の高い看護を提供することが重要である。そのためには、対象の療養と家族ケアを重視して治療・看護の継続を考えなければならない。ここでは、継続看護の基礎的知識を身につける。

<単元目標>

1. 継続看護の意義および目的について理解する。
2. 継続看護の行われている場について学習し、看護の働きかけの方法を理解する。
3. 継続看護における看護の役割について理解する。

<授業計画>

単元	回数	内容	授業形態
1. 経過別看護 (2 時間)	1	1) 経過別看護とは 2) 急性期の看護 (1) 急性期患者・家族の特徴 (2) 急性期にある患者の治療・処置の特徴 (3) 急性期にある患者・家族の看護	講 義
(4 時間)	2・3	3) 慢性期の看護 (1) 慢性期患者・家族の特徴 (2) 慢性期にある患者の治療・処置の特徴 (3) 慢性期にある患者・家族の看護	講 義

2. 症状別看護 (6時間)	(4時間)	4	4) 回復・リハビリ期 (1) 回復・リハビリ期患者・家族の特徴 (2) リハビリ回復期にある患者の治療・処置の特徴 (3) リハビリ回復期にある患者・家族の看護	講 義
		5	5) 終末期の看護 (1) 終末期患者・家族の特徴 (2) 終末期にある患者の治療・処置の特徴 (3) 終末期にある患者・家族の看護	講 義
		6	1) 発熱時の看護 (1) 発熱のメカニズム (2) 発熱が及ぼす心身への影響 (3) 発熱時の治療・処置 (4) 発熱に対する看護	講 義
		7・8	2) 呼吸困難時の看護 (1) 呼吸困難のメカニズム (2) 呼吸困難が及ぼす心身への影響 (3) 呼吸困難時の治療・処置 (4) 呼吸困難に対する看護	講 義
	(8時間)	9・10	3) 浮腫・脱水時の看護 (1) 浮腫・脱水のメカニズム (2) 浮腫・脱水が及ぼす身体への影響 (3) 浮腫・脱水時の治療・処置 (4) 浮腫・脱水に対する看護	講 義
		11	4) ショック時の看護 (1) ショックのメカニズム (2) ショックが及ぼす心身への影響 (3) ショック時の治療・処置 (4) ショックに対する看護	講 義
		12	5) 痛みのある患者の看護 (1) 痛みのメカニズム (2) 痛みが及ぼす心身への影響 (3) 痛みがある時の治療・処置 (4) 痛みのある患者の看護	講 義
	3. 継続看護 (4時間)	13・14	1) 継続看護とは (1) 継続看護の意義・目的 2) 継続看護の実際 (1) 施設内における継続看護 (2) 施設間の継続看護 (3) 施設と在宅間の継続看護	講 義
		15 評価	筆記試験	
	評 価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [4] 臨床看護学総論 医学書院 2016 第6版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 2021 第18版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 2019 第15版			
参考文献	随時紹介			

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
臨床看護技術演習	1単位(30時間)	2年次 前・後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 看護は人々の健康に対する働きかけである。多様な健康問題を持った対象を理解し、生活の回復に向けて、患者・家族とともに問題を解決していく。ここでは、既習の知識・技術を活用し、急性期・終末期の事例に対する看護の一連を展開することにより、看護過程に則って援助を実践する基礎的能力を身につける。 単元1：急性期の看護 急性期は、何らかの刺激により恒常性が急激に保たれなくなった状態で、病気の徴候や症状が急激に出現し、身体的・心理的・社会的・霊的に大きな影響を受ける。また、疾患の治療法の一つとして外科的療法を受けた患者も一般的には急性期の経過をたどる。ここでは手術を受ける患者の手術前・手術後の経過や患者の心理状態を踏まえ、患者の状態にあった援助を考え実践し、術前・術後の看護の実際について学ぶ。 <単元目標> 1. 看護計画に基づき、患者の状態に沿った経過記録・行動計画を立案することができる。 2. 患者の苦痛を理解して思いに寄り添いながら、原理原則に基づいた術前・術後の看護援助を実践することができる。 3. 実践した援助に対する患者の反応から効果や影響を考え、目標達成度を評価することができる。 単元2：終末期の看護 終末期は、あらゆる手段を尽くして治療しても回復が望めない状態をいい、ごく近い将来に死が予測される時期である。終末期の患者は、身体的な痛みや死への不安や恐怖、家族や職業に対する思いなど、身体・心理・社会・霊的な苦痛を持っていることが多い。そのような特徴を理解し、患者に寄り添い、苦しみを和らげ家族を支える援助が必要である。終末期患者の事例に基づき、看護の実際について学ぶ。さらに危篤・死亡時の看護について学習する。 <単元目標> 1. 看護計画に基づき、患者の状態に沿った経過記録・行動計画を立案することができる。 2. 終末期の患者の状況に適した看護を原理原則に則り実践することができる。 3. 実践した援助に対する患者の反応から影響や効果を考え、目標達成度を評価することができる。 危篤・死亡時の看護について理解できる。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授 業 形 態
1. 急性期の看護 (14時間)	1・2	1) 導入(全体の導入) (1) 科目の目的、目標 (2) 授業の展開方法 ①看護計画を元に経過記録・行動計画を立案 ②立案した行動計画から看護援助の実践 ③実践した看護を経過記録に評価 2) 事例紹介 周術期にある胃がん患者 3) 看護技術の確認 手術前・手術後の看護技術について	講 義 GW

2. 終末期の看護 (14時間)		4) 関連図作成・看護計画・経過記録・行動計画立案 (1) 1次アセスメント・関連図の作成 (個人ワーク) (2) 看護計画の立案(個人・グループワーク) (3) 看護計画に基づき経過記録・行動計画の立案 (個人・グループワーク)	GW
	3	5) 看護援助の実際 グループワーク:各自が個人ワークで立案した看護計画・行動計画を元にグループで行動計画を立案する。	GW 講義
	4	↓ 技術演習:グループワークで立案した行動計画に沿って術前の看護を実践する。	演習
	5	↓ グループワーク:計画した看護実践を振り返り、経過記録上で評価し、術後の行動計画をグループで行動計画を立案する。	GW 講義
	6・7	↓ 技術演習:グループワークで立案した行動計画に沿って術後の看護を実践する。またその振り返りと評価を行う。	演習
		↓ 振り返り:看護過程に則った看護実践を振り返り、目標の達成状況やグループとしての看護実践の課題について話し合い、発表する。	GW 講義
	8	1) 事例紹介 終末期にある胃がん患者	講義 演習
	9	2) 終末期患者の看護の確認 3) 看護計画・経過記録・行動計画立案 個人ワーク・グループワーク (1) 看護計画の立案 (2) 看護計画に基づき経過記録・行動計画の立案	演習
	10	4) 看護技術の実際 グループワーク 各自が個人ワークで立案した看護計画・行動計画をグループで評価し、修正。	演習
	11・12	↓ 技術演習:グループで立案した行動計画に沿って実際に看護を実践する。	演習
	13	↓ グループワーク:計画した看護実践を経過記録に評価する。	演習
		↓ クラス発表 →グループ毎に目標の達成度や看護実践の課題について発表。	

	14	5) 危篤時・死亡時の看護 (1) 危篤とは (2) 危篤時の看護 (3) 死亡時の判定 (4) 患者・家族の死に対する態度 (5) 死亡時の看護 (死後の処置)	講義
	15 評価	技術試験 (実施要綱別紙)	
評価	技術試験 (50%) とレポート (50%)		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 2021 第18版 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 2021 第18版 系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 医学書院 2016 第6版 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2017 第11版		
参考文献	随時紹介		

臨床看護技術演習 試験実施要綱

I. 目的

既習の知識・技術を活用し、急性期・終末期の事例に対する看護の一連を展開することにより、看護過程に則って援助を実践する基本的能力を身につける。

II. 目標

- 1) 看護計画に基づき、患者の状態に沿った計画を立案することができる。
- 2) 患者の苦痛を理解し思いに寄り添いながら、原理原則に基づいた看護援助を実践することができる。
- 3) 実践した援助に対する患者の反応から影響や効果を考え目標の達成度を評価することができる。

III. 技術試験時期

2 年次後期 1 月中旬 A・Bクラス別に実施する。

IV. 実施方法

授業計画・技術試験実施要領参照

V. 事例

急性期：授業で使用した事例を基にして実施する。

終末期：授業で使用した事例を基にして実施する。

VI. 評価方法

評価表に沿って、目標ごとに水準に達しているか判定し、評価する。

專 門 分 野 II

成人看護学

成人看護学

1. 成人看護学の考え方・ねらい

成人看護学では、基礎看護学を基盤にし、成人期にある対象に焦点を当て、その対象を総合的・全人的に捉えた看護を実践することに意義がある。

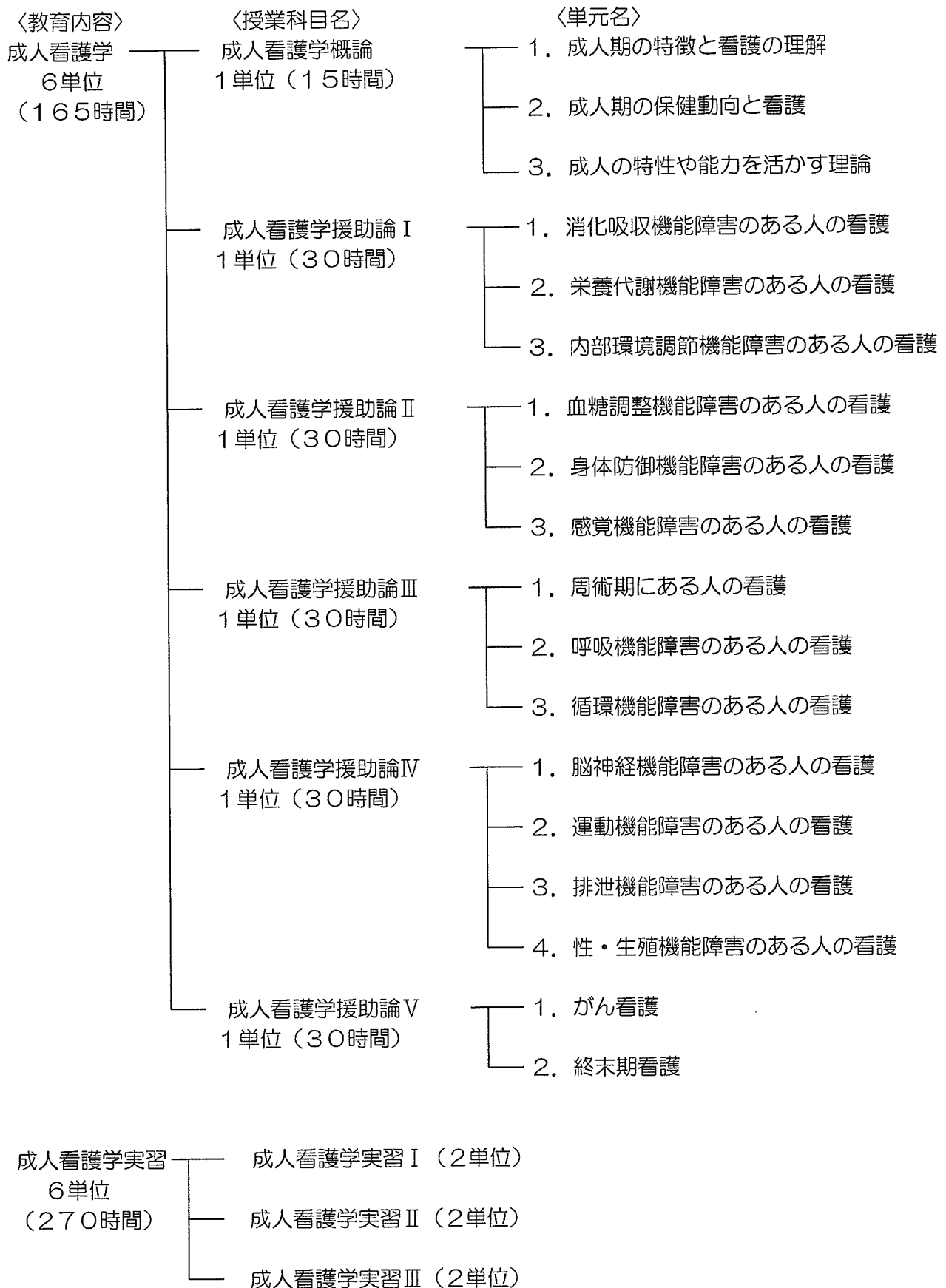
成人期とは、青年期・壮年期・向老期からなり人生の大半を占めている。また、その対象は家庭、学校・職場、地域社会という社会環境のなかで生活しているため、社会的役割や責任は重く、ストレスフルな状況にあるが充実した時期であると言える。

成人期にある人々は、身体的には加齢と共に成長・発達、成熟、衰退という変化の過程をたどるが、精神的・心理的・社会的には統合された存在であり、内部・外部環境の変化に適応しながら発達課題を達成している。そのなかで、多様な健康状況・生活スタイル・価値観を有し、それぞれのQOLを追求している。また、理性と豊かな感受性を持ち自立・自律した存在であり、セルフケア、セルフマネジメントできる、自己の最適な健康を維持することに責任を持ち、主体的に取り組める存在である。

成人期にある人の健康には、生活習慣やストレスが影響し、急性期や慢性期などの健康レベルや、疾病による機能障害を抱えながら生活している人も多い。したがって、看護者はあらゆる健康レベルに対して健康を整え、生活の営みを可能な限り豊かにし、健やかな老年期を迎えられるよう支援することが求められる。

ここでは、成人期にある人の看護に必要な基本的な看護実践能力を身につける。

2. 成人看護学の構成



3. 授業科目の概要

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
成人看護学概論	1 単位（15 時間）	1 年次 前期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

成人期はライフサイクルにおいて長い期間を有する。成人期にある人々は、心身機能が成熟し、徐々にあらわれる老化現象に適応しながらも、生産活動に従事し、子どもと老いた両親を扶養する社会的役割を担う発達段階にあり、自立・自律した存在である。

成人期の生活スタイルは多様化し、様々な価値観を抱きそれぞれの QOL を追求している。また、社会生活でのストレスや、生活習慣が健康に様々な影響を及ぼしている。看護の役割も社会からのニーズや時代と共に変化している。看護を実践するためには、対象とその健康問題の理解だけでなく、関連する看護概念や関連概念についての理解も必要となる。

ここでは、現代の成人に生じやすい健康上の問題の予防と回復に向けて、要求される看護援助の基礎を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 成人各期にある人の成長、発達過程を理解し、成人看護の意義と役割を明確にする。
2. 成人保健の動向を理解し、健康な生活を保持・増進するために必要な看護、及び健康回復のための看護を学ぶ。
3. 成人期に特有な健康問題を理解し、成人の特性や能力を活かす理論を学ぶ。

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 成人期の特徴と看護の理解 (4時間)	1・2	1) 大人であること 2) 生涯発達の特徴 3) 身体機能の特徴 4) 成人の生活の理解 5) 健康観の多様性 6) 成人看護の役割	講義
2. 成人期の保健動向と看護 (6時間)	3・4	1) 成人保健の動向と健康問題の特徴 (1) 成人保健の動向 (2) 生活習慣に関連する健康障害の特徴 (3) 青年期、壮年期の自殺者の増加 (4) 感染症（HIV）と難病対策 (5) 職業に関連する健康障害	講義
	5	2) 健康の保持増進、疾病の予防における看護 (1) 1次、2次、3次予防の現状と対応 (2) 健康教育の基礎的知識 (3) 成人期の特徴を踏まえた健康教育 (アンドラゴジー)	講義
3. 成人の特性や能力を活かす理論 (4時間)	6・7	1) 成人看護に有用な理論 (1) セルフケア ①セルフケアとは	講義

		②セルフケアとオレムの看護理論 (2) ストレス ①生活ストレスと健康障害 ②成人の生活ストレス ③ストレス関連疾患の予防と対応 (3) 危機 ①危機とは ②危機介入 (4) 自己効力	
	8 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院 2018 第15版 ドロセア E. オレム著 小野寺杜紀 訳：オレム看護論 看護実践における基本概念 医学書院 2005 第4版		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
成人看護学援助論Ⅰ	1 単位（30 時間）	1 年次 後期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護の対象は、疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な健康の危機あるいは、生活上の障害を合わせ持っている人とその家族である。看護者は、機能障害をもちながら生涯にわたり自己コントロールを続け、健康生活の実現と生活の質を守るために支援する必要がある。

ここでは、消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害、内部環境調節機能障害のある人の看護の基礎を学ぶ。

単元 1. 消化・吸収機能障害のある人の看護

消化・吸収機能とは、口腔から食物を摂取し、消化された物質を栄養素として体内に吸収する機能である。また、身体の構成成分やエネルギー源を作り、栄養として蓄える栄養代謝機能は、消化・吸収機能が正常に作用することで、その役割を果たすことができる。消化・吸収機能障害は、成人期にある対象の生活習慣や身体機能の変化が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、消化・吸収機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 消化・吸収機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 消化・吸収が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元 2. 栄養代謝機能障害のある人の看護

栄養代謝とは、消化機能により吸収された栄養素や体内に貯蔵された栄養素を、エネルギーや生命の維持に必要な物質につくり変え、不要な物質を排泄することをいう。栄養代謝機能は①利用物質と排泄物質②エネルギー源貯蔵機能③エネルギー供給機能からなる。身体の栄養保持のため、これらの機能は密接に関係している。栄養・代謝機能障害は成人期にある対象のライフスタイルや日常生活行動が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、栄養代謝機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 栄養代謝機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 栄養代謝が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元 3. 内部環境調節機能障害のある人の看護

人は生命や日常活動を維持していくために、酸素や栄養素を外部から取り入れている。酸素や栄養素は細胞の一つ一つの代謝というプロセスには欠かせない物質である。それらの物質を体内に取り入れ、気温や食物などの外部環境や精神的な刺激によって身体に影響を受けたとしても、生命維持のための体内の活動が、常に同じように行われなければならない。そして生み出されたエネルギーが、身体のあらゆる細胞にくまなく行き渡るようにする機能が内部環境調節機能である。この内部環境調節機能が障害されると、日常生活を営むことが困難となることはもちろん、生命が危機的状態に陥ることになる。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、内部環境調節機能障害（体温調節機能障害・pH調節機能障害）のある人の看護の基本を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 内部環境調節機能障害（体温調節機能障害・pH調節機能障害）が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 内部環境調節（体温調節機能障害・pH調節機能障害）が障害された対象のアセスメントができる必要な看護を考えることができる。

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 消化・吸収機能障害のある人の看護 (10時間)	1～3	1) 消化・吸収機能障害のある人の特徴 2) 消化・吸収機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 嘔吐 (2) イレウス (3) 吐血・下血 (4) 腹痛 (5) 腹部膨満	講義
	4	3) 消化・吸収機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 上部消化管の検査 ①内視鏡検査 ②X線造影検査 (2) 治療 ①中心静脈栄養 ②胃切除後の食事開始時	講義
	5	4) 消化・吸収機能障害のある人の看護 (1) 膵炎のある人の看護（急性期～慢性期の経過に応じた看護 生活指導中心に） (2) 胃・十二指腸潰瘍のある人の看護（急性期～慢性期の経過に応じた看護 生活指導中心に）	講義
	6	1) 栄養代謝機能障害のある人の特徴 2) 栄養代謝機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 食欲不振と体重減少 (2) 黄疸 (3) 意識障害(肝性脳症)	講義
	7・8	3) 栄養代謝機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①肝生検 ②ERCP (2) 治療 ①安静療法 ②食事療法 ③薬物療法（インターフェロン等） ④肝動脈塞栓療法 ⑤経皮的エタノール注入療法 ⑥経皮肝胆管ドレナージ	講義
2. 栄養代謝機能障害のある人の看護 (8時間)	9	4) 栄養代謝機能障害のある人の看護 (1) 事例：肝硬変のある人の看護	講義

3. 内部環境調節機能障害のある人の看護 (10時間)	10・11 12・13 14 15 評価	1) 体温調節機能障害のある人の特徴 2) 甲状腺機能亢進症（バセドウ病）のある人の看護 (1) アセスメントと看護 (2) 外科的治療を受ける人の看護 (3) 薬物療法を受ける人の看護 (抗甲状腺治療薬) 3) 甲状腺機能低下症のある人の看護 (1) アセスメントと看護 (2) 薬物療法を受ける人の看護 4) 熱中症のある人の看護 5) pH調節機能障害のある人の特徴 6) pH調節機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 呼吸性・代謝性アシドーシス (2) 呼吸性・代謝性アルカローシス 6) pH調節機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①腎機能検査 ②腎生検 (2) 治療 ①薬物療法（利尿薬、降圧薬） ②食事療法 ③透析療法 7) pH調節機能障害のある人の看護 (1) 慢性腎不全にて透析療法を受ける人の看護 筆記試験	講義 講義 講義
評価	筆記試験		
教科書	〔单元1〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 2019 第15版 〔单元2〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院 2019 第15版 〔单元3〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 医学書院 2019 第15版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 2019 第15版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院 2019 第15版		
参考文献	〔单元3〕 ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害 メディカ出版 2014 第3版		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
成人看護学援助論Ⅱ	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	専任教員
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 看護の対象は、疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な健康の危機あるいは生活上の障害を合わせ持っている人とその家族である。看護者は、機能障害を持ちながら生涯にわたり自己コントロールを続け、健康生活の実現と生活の質を守るために支援する必要がある。 ここでは、血糖調節機能障害、生体防御機能障害、感覚器機能障害のある人の看護の基礎を学ぶ。 単元1．血糖機能障害のある人の看護 血糖調節機能とは、生命活動維持に必要なエネルギーの貯蔵や供給を行うために血糖を一定範囲に保っている。血糖調節にかかわるのは、血糖調節にかかわるホルモンとホルモンが作用する効果器である。そのため、外部からの飲食物の取り入れの過剰や不足、体内でのエネルギーの有効活用ができない場合には、身体にとって至適な血糖値を保つことができなくなる。この血糖調節機能は、血糖の調節にかかわる担い手が障害されることでおこる。血糖調節機能障害は、成人期にある対象のライフスタイルや日常生活行動が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。 ここでは、血糖調節機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。 ＜単元目標＞ 1. 血糖調節機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。 2. 血糖調節機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。 3. 血糖調節機能が障害された対象の個別性に応じた教育・指導を考えることができる。 単元2．身体防御機能障害のある人の看護 人を取り巻く環境には様々なものがある。その環境のなかには人に障害を与えるものが数多くあるが、人にはその障害を生体に侵入させないようにしたり、万が一入ってもそれを排除し自己を守る機能が備わっている。また、生体内で発生した異物や老廃物に対しても、それを排除する機能を持っている。これが身体防御機能である。この身体防御機能の障害が生じることで、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。 ここでは、全身性エリテマトーデス、慢性関節リウマチ、白血病の疾患をもとに身体防御機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。 ＜単元目標＞ 1. 身体防御機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。 2. 身体防御機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。 単元3．感覚機能障害ある人の看護 感覚器官とは、外からの刺激を受容し、中枢神経系に伝達する器官のことをいう。つまり人間が外界からの情報を受け止めている器官であり、視覚器（目）、平衡聴覚器（耳）、嗅覚器（鼻）、味覚器（舌）、触覚・圧覚・温覚・痛覚（皮膚）などが含まれる。これらは日常生活には欠かすことのできない生体の機能であり、生理的要因のみでなく、心理的要因にも影響を受ける機能である。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。 ここでは、感覚機能障害の視覚機能障害・聴覚機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。 ＜単元目標＞ 1. 視覚・聴覚障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。 2. 視覚・聴覚機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 血糖調節機能障害のある人の看護 (16時間)	1	1) 血糖調節機能障害のある人の特徴 2) 血糖調節機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 高血糖 (2) 低血糖	講義
	2	3) 血糖調節機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①血糖値(日内変動・HbA1C・ターゲット) ②75gブドウ糖検査 ③自己血糖測定	講義
	3	(2) 治療 ①合併症予防と生活指導 (食事療法・運動療法 薬物療法)	演習 講義
	4~8	4) 事例による看護過程の展開 (1) II型糖尿病で慢性期にある人や家族の看護 ①事例:2型糖尿病のある成人期の対象	講義 GW
2. 身体防御機能障害のある人の看護 (8時間)	9	1) 身体防御機能障害のある人の特徴 2) 皮膚・粘膜障害の症状とアセスメント、看護 (1) 発疹 (2) 掻痒 (3) 熱傷	講義
	10~12	3) 免疫機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) アレルギー (2) 免疫障害(自己免疫疾患、免疫不全) 4) 免疫機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①アレルギー検査 ②生検 ③骨髓穿刺 (2) 治療 ①ステロイド剤治療 ②化学療法 ③造血幹細胞移植 5) 免疫機能障害のある人の看護	
3. 感覚機能障害のある人の看護 (4時間)	13・14	1) 感覚機能障害のある人の特徴 2) 視覚機能障害のある人の生活への影響 (1) 視力低下・視野異常のある人のアセスメントと看護 (2) 眼痛のある人のアセスメントと看護 3) 視覚機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 (2) 治療 4) 聴覚機能障害のある人の生活への影響と理解 (1) 聴覚機能障害の症状とアセスメント、看護 ①難聴	講義

		②耳鳴 ③耳痛 ④耳漏 5) 聴覚機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 (2) 治療 6) 聴覚機能障害のある人の看護 (1) 事例：メニエールのある人の看護 筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	〔单元1〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 2019 第15版 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会・文光堂 2013 第7版 〔单元2〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 2019 第15版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 2020 第15版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院 2020 第15版 〔单元3〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 医学書院 2020 第14版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 医学書院 2020 第14版		

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
成人看護学援助論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

看護の対象は疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な生命の危機あるいは生活上の障害を合わせ持っている人とその家族である。看護者は、看護の対象である人の健康生活の実現に向けて支援する必要がある。なかでも、呼吸機能障害、循環機能障害は、生命の危機に直結する場合が多く、その緊急性のため、優先度を考慮し短時間で即座に状態を把握する能力や、的確な判断と迅速な行動が要求される。また、疾病の治療には侵襲的治療（手術療法）が必要な患者も多く、患者は多くの侵襲とストレスを受け危機的状況に陥る可能性が高い。そのため、看護者は的確にアセスメントする能力と看護実践能力が求められる。

ここでは、周術期にある人の看護と呼吸機能障害、循環機能障害があり、健康の危機、生命の危機状況にある人や家族への看護の基礎を学ぶ。

単元1. 周術期にある人の看護

周術期看護とは、手術患者の入院から退院までの期間に、患者に提供される一連の看護ケアとされている。一般的には入院から手術を受け退院するまでの期間をさす。周術期看護の専門性とは、術前・術中・術後の全期間を通して一貫した看護を提供し、手術療法が患者にとって最大利益となるよう支援する必要がある。

ここでは、周術期にある人の看護の基本を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 侵襲的治療にて健康危機にある人の看護について理解することができる。
2. 周術期（術前・術中・術後）の特徴に応じた看護を理解することができる。

単元2. 呼吸機能障害のある人の看護

呼吸機能とは、酸素を体内に取り入れ、二酸化炭素を体外に排出する働きをいう。身体に酸素が供給されなければ、すべての身体機能が十分に発揮できなくなり生命は危機に陥る。呼吸機能は生命維持の基盤となる機能であり、患者は健康の危機に陥る場合が多い。そのため、看護者は、急性期の患者の生命を救うため緊張度の高いケアが求められる。また、呼吸機能障害は、成人期にある対象の生活習慣、職業、身体機能の変化が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、呼吸機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 呼吸機能障害が患者の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 呼吸機能が障害された患者のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元3. 循環機能障害のある人の看護

循環機能とは、生命維持に必要なエネルギーの生成にかかわる酸素を含む血液を運ぶ機能である。ポンプ機能と輸送環流機能の2つからなる。循環機能は脳の刺激が途絶えても働き続ける機能という特徴がある。循環機能障害は患者の生命の危機状態を引き起こす可能性がある。そのため、看護者は、急性期においては患者の生命を救うため緊張度の高いケアが求められる。そして、成人期にある対象の生活習慣や身体機能の変化が起因となり、日常生活や社会生活に大きな影響を及ぼす。そのため、看護者は成人期にある人の生命・生活を支える機能の状態を把握し、障害に応じて適切に看護を行う必要がある。

ここでは、循環機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 循環機能障害が患者の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 循環機能が障害された患者のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 周術期にある人の看護 (8時間)	1・2	1) 侵襲的治療(手術療法)に伴う身体変化	講義
		2) 手術療法を受ける患者の看護 (1) 周術期の看護とは ①手術侵襲と生体反応 ②インフォームドコンセント ③周術期におけるチーム医療と看護師の役割	
	3	(2) 手術前の看護 ①全身状態と術後合併症のリスクのアセスメント ②術前オリエンテーション ③術前訓練	講義
	4	(3) 手術中の看護 ①麻酔導入・覚醒時の看護 ②呼吸・循環・体温のモニタリング ③手術体位とその影響	
2. 呼吸機能障害のある人の看護 (8時間)		(4) 手術後の看護 ①術後の疼痛管理 ②術後合併症の予防とその看護 ③早期回復促進への援助	講義
	5	1) 呼吸機能障害がもたらす生命・生活への影響 2) 呼吸機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 咳 (2) 痰 (3) 喀血 (4) 呼吸困難感 (結核、気胸、肺癌などの疾患に伴う症状)	講義
	6~8	3) 呼吸機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①気管支鏡検査 ②スパイロメトリー ③肺生検 (2) 治療 ①人工呼吸器を装着する患者 ②胸腔ドレナージを受ける患者 ③薬物療法を受ける患者 4) 呼吸機能障害のある患者の看護 (1) 事例：気胸により胸腔ドレナージ中の患者の看護 (2) 看護の実際 ①気胸を患う人の観察とアセスメント ②胸腔ドレナージ中の管理	講義

3. 循環機能障害のある人の看護 (12時間)	9・10	1) 循環機能障害がもたらす生命・生活への影響 2) 循環機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) ショック・心不全 (2) 不整脈 (3) 胸痛	講義
	11・12	3) 循環機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①血圧・動脈圧モニター ②心電図検査(ホルター心電図・負荷心電図) ③心臓超音波検査(心エコー) (2) 治療 ①薬物療法・CV管理 ②心臓カテーテル法 ③外科的手術による治療(冠動脈バイパス) ④ペースメーカー	講義
	13・14	5) 循環機能障害のある人の看護 (1) 心筋梗塞患者の発症から退院までの経過に応じた看護 (2) 演習: 急性心筋梗塞で集中治療を受ける人の看護の実際 ①事例: 48歳女性、急性心筋梗塞にて緊急入院となった患者。CCUに搬送され、救急処置や治療がおこなわれる予定。 a. 急性心筋梗塞のアセスメント (呼吸・循環器系・脳神経系のフィジカルアセスメントの実施) b. 緊急入院となった患者・家族への看護の実施 ・ECG12誘導、ECG胸部誘導、酸素吸入 ・点滴ルートの確保 ・膀胱内留置カテーテル挿入 ・シリンジポンプ・輸液ポンプの操作 ・患者・家族の心理面の看護	講義 演習
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	〔单元1〕 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 2017 第11版 〔单元2〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器 医学書院 2019 第15版 〔单元3〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 医学書院 2019 第15版		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
成人看護学援助論Ⅳ	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

看護の対象は疾病により様々な機能障害を抱え、それぞれの機能に特有な健康の危機、あるいは生活上の障害を合わせ持っている人とその家族である。急激な機能障害からの回復や障害を受容しながら、障害の程度や状況に応じて生活の再構築が必要となる場合もあり、看護者は、それらの人の健康生活の実現に向けて支援する必要がある。

ここでは、脳神経機能障害、運動機能障害、排泄機能障害、性・生殖機能障害により生活の再構築を要する人や家族への看護の基礎を学ぶ。

単元1. 脳神経機能障害のある人の看護

脳神経機能障害は発症年齢も幅が広く、発症後の経過も様々であり、症状も軽症から重症までその程度に相まって、その人のQOLを低下させる。脳・神経の疾患は複雑な病態を伴い、あるいは原因・治療が解明されていない疾患も多く、様々な機能の障害が起こるため、成人期にある対象のライフスタイルに大きな影響を及ぼす。また、生活の自立困難や障害を抱えることにもなり、心理・社会的問題も多く生じる。このような脳・神経疾患対象に対しては生命の維持に向けた援助はもちろん、QOLの維持・拡大のための支援に至るまで、幅広い看護を学ぶ必要がある。

ここでは、脳神経障害のある人の看護の基本を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 障害を受容過程や障害の程度、状況に応じた看護について理解することができる。
2. 脳神経機能障害の状態に応じた看護について理解することができる。
3. 脳神経機能障害の回復へのリハビリテーション看護を考えることができる。

単元2. 運動機能障害のある人の看護

運動機能に障害を生じると、治癒の経過が長く、変形・機能障害あるいは疼痛等のために、日常生活動作に支障をきたし、精神的・社会的にも影響を及ぼし、不適応状態となりやすい。そのため運動機能の障害に起因する日常生活の援助と疼痛の緩和・合併症の予防・健康部位の機能低下防止、そして日常生活を再獲得し、社会復帰のために自立に迎えるように援助する必要がある。

ここでは、運動機能障害のある人の看護の基本を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 運動機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 運動機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

単元3. 排泄機能障害のある人の看護

摂取した食物が腸管内で消化・吸収され、やがてその残渣物は肛門から糞便となって排出されることや人が恒常性を維持していくうえで、尿を生成し排出していくことは、基本的な生命活動である。排泄機能が障害されることは、生理的な排出経路の変更を余儀なくされることもあり、これまでに形成されたボディイメージが崩れ、自己概念をも揺るがすなど心身に大きな影響を与えるものである。

ここでは、排泄機能障害により、生活の再構築を必要とする人の看護を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 排泄機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 排泄機能が障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。
3. 生涯、障害を持ちながら、生活の再構築を必要とする対象の状況に応じた看護について理解することができる。

できる。

単元4. 性・生殖機能障害のある人の看護

性・生殖機能は生命の維持に関与する重要な役割を果たす。また、性器とは異性間のコミュニケーションをはじめとして、社会における人間の関係性の成立を支える役割を果たす。そのため、性・生殖機能障害は人々の生活に大きな影響を及ぼす。

ここでは、性・生殖機能障害（女性生殖機能障害）のある人の看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 性・生殖機能障害が対象の日常生活に与える影響を理解することができる。
2. 女性生殖機能障害された対象のアセスメントができ、必要な看護を考えることができる。

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 脳神経機能障害のある人の看護 (10時間)	1	1) 脳神経機能障害のある人の理解	講義
	2	1) 意識障害の分類と評価 2) 意識障害のある人の看護 3) 運動機能障害のある対象人の看護	講義
	3	1) 言語障害のある人の看護 2) 嚥下障害のある人の看護 3) けいれんを起こす人の看護	講義
	4	1) 脳血管障害とその代表的疾患 2) 外科的治療を受ける人の看護 3) 頭蓋内圧亢進症状のある人の看護	講義
	5	1) 高次脳機能障害のある人の看護 2) 脳血管障害のある人の看護	講義
2. 運動機能障害のある人の看護 (8時間)	6・7	1) 運動機能障害のある人の特徴 2) 運動機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 日常生活活動困難 (2) 運動機能に関係する痛み	講義
	8・9	3) 運動機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①関節の可動域テスト など (2) 治療 ①ギプス・シーネ固定 ②牽引療法 など 4) 運動機能障害のある人の看護 (1) 事例：椎間板ヘルニアで手術を受ける人の看護	講義
3. 排泄機能障害のある人の看護 (6時間)	10	1) 排泄機能障害のある人の特徴 2) 排尿機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 排尿の異常 (2) 尿性状の異常	講義

4. 性・生殖機能障害のある人の看護 (4時間)		3) 排尿機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①膀胱鏡 ②X線検査 ③間欠的自己導尿法 (2) 治療 ①尿路変向術 (回腸導管造設術)	
	1 1	4) 排便機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 下痢 (2) 便秘 5) 排便機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 下部消化管の検査 ①大腸内視鏡検査 ②X線造影検査 (2) 治療 ①大腸切除術 ②腹会陰式直腸切断術 (マイルズ術)	講義
	1 2	6) 排泄機能障害のある人の看護 (1) 事例：大腸がんにて直腸切断術・人工肛門造設術を受けた人の看護 (セルフケアへの看護)	講義
	1 3	1) 性・生殖機能とその役割 (1) 性・生殖機能とはなにか (2) 性・生殖機能の成熟への理解 (3) 性・生殖機能と生命・生活 2) 女性生殖機能障害の症状とアセスメント、看護 (1) 性器出血 (2) 帯下 3) 女性生殖機能障害の検査・治療に伴う看護 (1) 検査 ①内診 ②経膈エコー (2) 治療 ①薬物療法：ホルモン療法	講義
	1 4	4) 女性生殖機能障害のある人の看護 (1) 事例：子宮広汎全摘術を受ける人の看護 (手術前～退院までの経過に応じた看護)	講義
	1 5 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		

教科書	〔单元1〕						
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学⑦	脳・神経	医学書院	2019	第15版
	〔单元2〕						
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学⑩	運動器	医学書院	2019	第15版
	〔单元3〕						
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学⑤	消化器	医学書院	2019	第15版
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学⑧	腎・泌尿器	医学書院	2019	第15版
	〔单元4〕						
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学⑨	女性生殖器	医学書院	2019	第15版

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
成人看護学援助論Ⅴ	1 単 位 （ 3 0 時 間 ）	2 年 次 前・後 期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

終末期にある対象の看護は、看護のどの領域にも必要な知識であり、看護学の領域で大きな位置を占めている。死が間近に迫り、身体の変化が不可逆になると、医学的ないわゆる病気治療は有効でなくなり、医療は症状の緩和を中心に展開される。この時期は病気治療よりも QOL へと価値の転換が起こるので、患者の日常生活を支える看護の役割が非常に重要になる。

死因の第一位はがんであり、成人の壮年期以降の人のがんによる死亡率が急増している。そのため、がん看護の特徴を理解し、多様な問題やニーズを抱えている人や家族をあらゆる側面からケアする必要がある。

ここではがん看護の基本的な知識を学ぶと共に、終末期にある成人期の人が疾病と共に生き、安らかな最期を迎える過程の看護の基本を学ぶ。

単元1：がん看護

がんは早期発見と診断ならびに治療の進歩により治癒可能な状態、がんと共に生きる、生命の質を重視することを求められる慢性的な状態、入院と在宅と職場を組み合わせ生活することが可能な状態、痛みの慎重なコントロールにより尊厳ある死を迎える状態など、様々なステージにある。

ここでは、がん罹患し種々の侵襲的治療を受ける人や家族への看護の基礎を学ぶ。

<単元目標>

1. がんと共に生きていく過程への看護を理解することができる。
2. がんで放射線療法、化学療法を受ける人の看護を理解することができる。
3. カウンセリングの原理を理解し、がん罹患した人やその家族の苦悩に対する共感、受容を考えることができる。

単元2：終末期看護

終末期にある対象にとって死はもはや避けられない現実である。死へのプロセスを歩むとともに、これまでの自分の人生を振り返り、人生の最終段階としての総まとめをする。看護者は、対象の全人的苦痛を受容し、緩和ケアを行いながらその人自身が生きていることの意味を見だし、生が意義深いものであり、尊厳ある死を迎えられるように援助することが求められる。

ここでは、終末期にある人、家族の生と死を支える看護の基本を学ぶ。

<単元目標>

1. 緩和ケアを必要とする対象を、身体・心理・社会・霊的側面から統合的に理解することができる。
2. 終末期にある人の全人的苦痛を理解することができ、緩和ケアを考えることができる。
3. 終末期にある人や家族の生を支え、その人らしい終焉への看護を理解することができる。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. がん看護 (24時間)	1・2	1) がんの基礎知識 2) がん看護の実際 -がんと共に生きていく過程への実際- ①診断期 ②治療期 ③終末期 ④家族へのケア	講義

2. 終末期看護 (4時間)	3・4	3) 化学療法と看護 (1) 治療の概要(目的・対象・方法) (2) 合併症 (3) 化学療法を受ける人の看護 4) ペインコントロール	講義
	5	5) 放射線診断	講義
	6～8	6) 放射線療法 (1) 治療の概要(目的・対象・方法) (2) 合併症 (3) 放射線療法を受ける人の看護	講義
	9～12	7) カウンセリング (1) カウンセリングとは (2) カウンセリングにおける人間観・基本的態度 (3) 看護におけるカウンセリングの機能・方法 (4) 演習: 病名の告知を受けた人の精神面への看護(白血病の告知を受けた人) ①告知を受けた対象のアセスメント ②看護の実際	講義 GW 演習
	13・14	1) 終末期にある人の特徴と理解 2) 死の概念、ホスピス、緩和ケア、ターミナルケアの概念 3) 全人的苦痛の緩和 4) 終末期にある人と家族への看護 (1) 全人的苦痛の緩和 (2) 死の受容 (3) デスエデュケーション (4) グリーフケア 5) 終末期にある人と家族の看護 (1) 事例: 乳がん終末期にある人・家族の看護	講義
	15 評価	筆記試験	
価 評	筆記試験		
教科書	〔单元1〕 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 2017 第2版 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 2016 第9版 〔单元2〕 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院 2018 第15版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 2018 第6版		

老 年 看 護 学

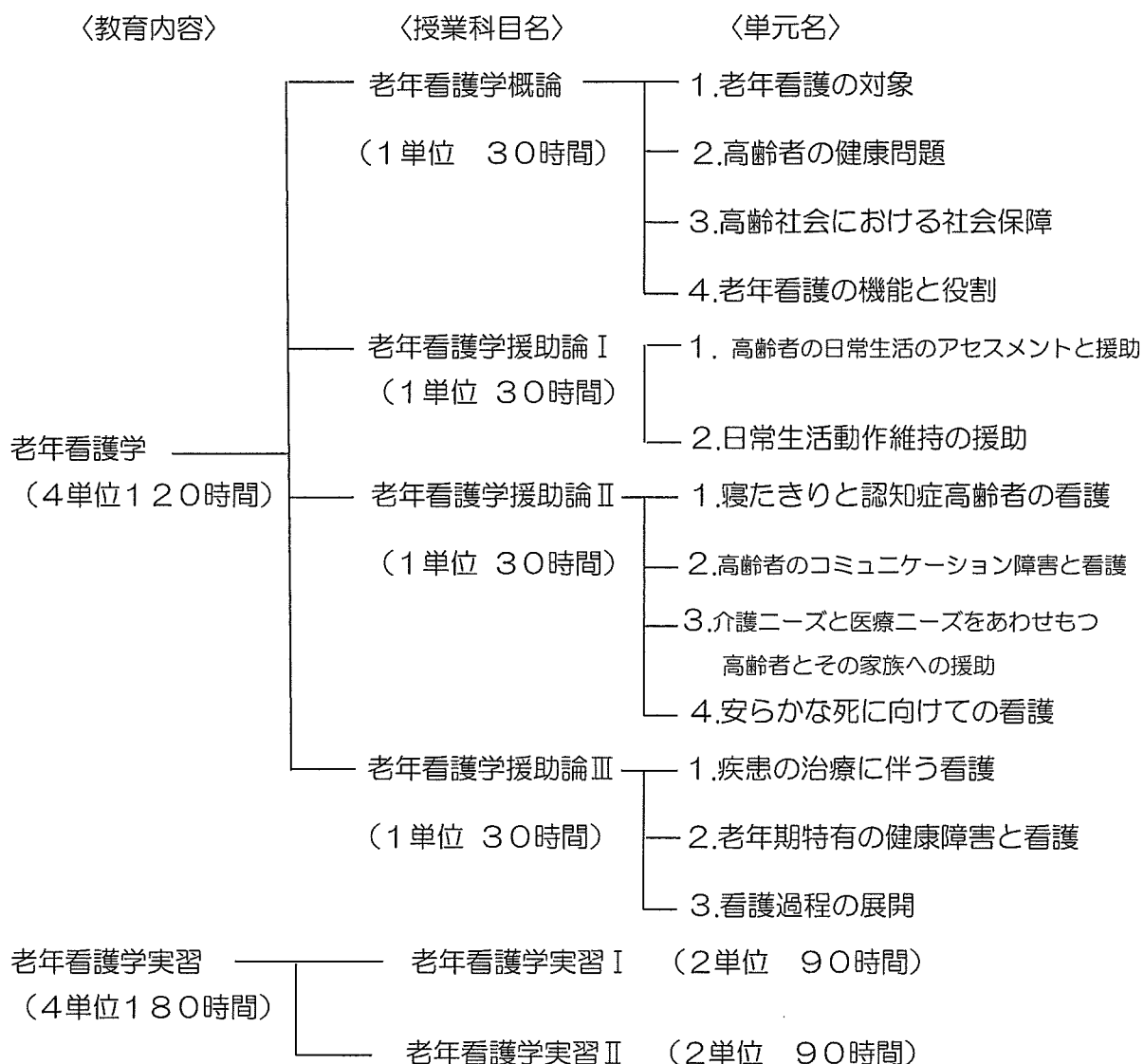
老年看護学

1. 老年看護学の考え方、ねらい

少子高齢化、疾病構造の変化、保健医療福祉制度の変革により、高齢者の生活の場やライフサイクルが多様化している中で老年看護に対する期待が高まっている。高齢者人口がますます増加する中で、高齢者個々に応じた健康な生活を目指し、他職種と協働し、質の高いケアが重要となってくる。

老年看護学では、加齢による身体的・精神的・社会的変化が健康や生活に及ぼす影響や問題を理解し、個々の高齢者の生活機能をアセスメントし、健康レベルに応じた予防的対処と日常生活の自立を目指した看護を実践するために必要な基本的な知識・技術・態度を養う。また、高齢者の生活の質に必要な様々な保健・医療・福祉の制度について理解する。

2. 老年看護学の構成



授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
老年看護学概論	1 単位 (30 時間)	1 年次 前・後期	非常勤講師・専任教員
〈授業科目の履修目的・概要・指針など〉 超高齢社会の現代では、多くの高齢者が元気に活動している一方で、健康に不安を抱えていたり、障害をもっている高齢者も多い。また今まで活動的であった人が少しのきっかけで寝たきり状態になったり、認知症が進行したりする。さらに加齢にともなう身体的、精神的、社会的変化は健康状態に大きく影響する。 そこで加齢にともなう身体的、精神的、社会的変化とその特徴を理解したうえで、高齢者の生活史や生活習慣、生活信条、健康観を尊重し、健康レベルに応じた看護を実践していくための基礎的能力を養う。 また高齢者の自立支援にむけた援助を実践するため、関連する法律、施策と保健・医療・福祉サービスの特徴、高齢者に多い医療事故を理解する必要がある。また高齢者のニーズにあった制度活用支援にむけて、他職種との連携、協働が求められる中、看護職に期待されている役割について考えていく。 〈単元目標〉 1. 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化と特徴を理解する。 2. 老年看護の意義、目的、必要性について理解する。 3. 老年期にある人の自立支援にむけて、保健・医療・福祉サービスの理解と、看護者の役割を考える事ができる			

〈授業計画〉

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 老年看護の対象 (8時間)	1	1) 老年期とは (1) 老年期の定義 (2) ライフサイクルからみた老年期の意義 (3) 高齢者の生活 (4) 老年期の発達課題	講義
	2～4	2) 加齢に伴う身体的機能・精神心理的機能・社会的変化。 ＊ 高齢者体験セットを使用し、高齢者の日常生活を体験する	講義 演習
2. 高齢者の健康問題 (8時間)	5	1) 高齢者の健康 (1) 長寿の要因, 老年人口, 平均寿命, 健康寿命 (2) 健康意識	講義
	6・7	(3) 老年期における健康の考え方	講義
	8	2) 高齢者の健康問題 (1) 老年期の疾病 (2) 日本の高齢化現象の特徴 (3) 高齢化に伴う問題	講義

3. 高齢社会における 社会保障 (6時間)	9~11	1) 高齢者、社会のニーズ 2) 老人保健・福祉対策の経緯 3) 介護保険制度	講義 GW 発表
4. 老年看護の機能と 役割 (6時間)	12	1) 老年看護の基本 (1) 老年看護の定義 (2) 老年看護活動の場〔医療機関、施設、在宅〕	講義 DVD
	13	(3) 老年看護の役割・機能 (4) 高齢者と医療安全	講義
	14	2) 老年看護における家族支援のあり方 3) 老年看護の原則	講義
	15 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教科 書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2018 第9版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2018 第5版		
参 考 文 献	岡堂哲雄 長濱春子 老人患者の心理と看護 中央法規出版 厚生統計協会 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 国民福祉の動向 日本看護協会 介護保険とケアマネージャー 日本看護協会出版会 他随時紹介		

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
老年看護学援助論Ⅰ	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化をふまえて、老年期にあるすべての人が、よりよい健康な生活を目指すために、日常の生活機能をアセスメントし看護援助に必要な援助方法を学ぶ。

さらに、それらの人がより健康な生活への適応を促進し、できるかぎり自立性の維持を目指した看護が行える方法を学ぶ。

＜単元目標＞

1. 高齢者の生活機能をアセスメントし、日常生活の看護援助を理解する。
2. 高齢者の日常生活の自立を維持するために必要な看護援助を理解する。

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 高齢者の日常生活のアセスメントと援助 (24時間)	1	1) 高齢者の清潔のアセスメントと援助 (1) 入浴・シャワー浴 (2) 清拭	講義
	2	(3) 足浴・洗面・口腔ケア (4) 義歯の取扱(モデル人形) (5) 援助の実際	講義
	3・4	(6) 入浴とシャワー浴・爪切り・耳垢除去 * 82歳の女性で脳梗塞入院した片麻痺事例 実施方法をポスターで掲示したものを説明後、グループで入浴とシャワー浴、つめきり・耳垢除去を学生間で疑似体験。 発表・教員のまとめ	演習
	5	2) 高齢者の食生活のアセスメントと援助 (1) 老年期の栄養 ①加齢による身体機能・精神機能・社会的変化 ②加齢と摂食・嚥下機能の変化 (2) 食生活のアセスメント ①一般的な栄養評価法 ②高齢者栄養評価に必要な視点を考える (3) 食事時のアセスメント ①摂食・嚥下の5期モデル ②食事によって引き起こされる合併症 ・低栄養(るいそう) ・脱水 ・窒息 ・誤嚥性肺炎	講義

	6	(4) 水分補給の重要性 ①脱水の要因と発生のメカニズム ②症状の特徴・アセスメント・予防 (5) 援助の実際 ①食事前の援助 ②食事中の援助 ③食事後の援助 ④直接訓練・間接訓練	講義
	7	(6) 食事の演習・間接訓練 ①トロミ剤の比較 ・でんぷん・グアガム系・キサンタンガム系の比較 ・番茶/ジュース等で比較 ②食事環境を整える ③摂食姿勢を整える ④食事の援助を行う ・各グループで、患者役・看護師役を決めて実施 ・各自が作成したトロミ水を用いて、飲水の介助を行う ・ゼリーを用いて食事介助を行う 《必要物品》 ・コップ、スプーン（ティースプーン、カレースプーンなど介助を想定した物を準備する） ・エプロン、布きん、オーバーテーブル、車いす ・番茶、ジュース（オレンジジュース）など ・ゼリー（果物が入った物は介助しにくいいため具なしの物を準備する）	演習
	8	3) 高齢者の排泄のアセスメントと援助 (1) 排泄のメカニズム (2) 排泄行為の自立のポイント (3) 尿失禁	講義
	9	(4) 便秘・下痢 ①便秘の予防・対処 ②下痢の特徴 (5) 援助の実際	講義
	10	(6) 骨盤底筋体操・オムツの交換 * 82歳の女性で脳梗塞により入院したにより片麻痺のある高齢者の事例 実施方法を説明 グループで看護師役と患者役を体験 グループワーク後グループ毎に発表・教員のまとめ	演習

2. 日常生活動作維持の援助 (4時間)	11・12	4) 高齢者の生活リズムのアセスメントと援助 (1) 睡眠と覚醒の変化 (2) 睡眠障害に関連する要因 (3) 安眠への援助	講義
	13・14	1) 日常生活動作能力のアセスメント (1) ADL の指標 (2) アセスメントするときの注意点 (3) 日常生活動作のためのアセスメント (4) ADL を高めるための援助 (5) 転倒の要因 (6) 転倒予防のアセスメントと援助 (7) 生活のリハビリテーション 遊びリテーション レクリエーション * 介護老人保健施設に入所されている高齢者を設定 老年期の特徴をふまえたレクリエーションを企画・発表し全体討議。教員のまとめ。	講義

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
老年看護学援助論Ⅱ	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 老年期には、身体・精神・社会的変化などにより、生活機能の低下や日常生活行動が自立に向かえないことがある。また、成人期に罹患した慢性疾患からの影響や、加齢に伴う特徴的な疾病が複合しやすいため、健康障害を総合的にアセスメントし、二次的障害を予防する看護が必要とされている。 老年看護学援助論Ⅱでは、高齢者に特徴的な二次的障害を有する対象や家族を援助するために必要な基礎的知識と、高齢者と家族の多様化したニーズに応じた看護、高齢者を尊重した看護について学ぶ。 <単元目標> 1. 廃用症候群および認知症高齢者の特徴を学び、必要な援助方法を理解する。 2. 感覚機能の低下がある高齢者へのコミュニケーション技法を学ぶ。 3. 高齢者と家族の多様化したニーズとその看護について学ぶ。 4. 高齢者への終末期看護を学び、看取りへの支援を理解する。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 寝たきりと認知症 高齢者の看護 (14 時間)	1	1) 寝たきり高齢者の看護 (1) 寝たきりになる要因 (2) 寝たきりの予防と合併症	講義
	2	(3) 廃用症候群発生予防に向けた支援 ①廃用症候群の予防のための運動	講義
	3・4	(4) 褥瘡予防に向けた支援 ①リスクアセスメントの実際 *82歳の女性。脳梗塞で緊急入院した片麻痺のある高齢者の事例。 この時点でのブレデンスケールを表にしグループで予防について討議と発表。 (5) 寝たきり高齢者と家族への支援	講義 演習
	5	2) 認知症高齢者の看護 (1) 高齢化社会と認知症との関係 (2) 認知症の発症要因と評価基準	講義
	6・7	(3) 認知症高齢者への看護の基本 ①生活機能障害からみる認知症のとらえ方 ②関わり方 ③家族への支援 *動画視聴後、グループで検討と発表。全体討議。	講義 演習

2. 高齢者のコミュニケーション障害と看護 (6時間)	8	1) 高齢者に特徴的なコミュニケーションと看護 (1) 失語症のある高齢者 (2) 構音障害のある高齢者	講義
	9・10	(3) 難聴のある高齢者 * 82歳の女性脳梗塞で緊急入院し事例VTRをもとに(1)(2)(3)をグループで討議、発表	講義 演習
	11	1) 生活・療養の場における看護 (1) 高齢者と家族の多様化したニーズ	講義
	12	(2) 在宅高齢者への看護 (3) 保健医療福祉施設の特徴と看護	講義
	13	1) 高齢者への看取りの看護 (1) 死を迎えることの意味	講義
3. 介護ニーズと医療ニーズをあわせ持つ高齢者とその家族への看護 (4時間)	14	(2) 死の迎え方の特徴 ①看取りの場 ②家族を支えるということ *動画を視聴し、グループで①②についてグループワーク、発表と教員のまとめ。	演習
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2018 第9版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2018 第5版		
参考文献	日本看護協会編 介護保険とケアマネージャー 日本看護協会出版会 臨床老年医学入門 医学書院 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 他随時紹介		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
老年看護学援助論Ⅲ	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 老年期は、成人期からの慢性疾患を有していることが多い。さらに、加齢に伴い防衛力や予備力などが低下し、疾患や障害をおこしやすい状態にある。また、検査や治療に対する適応力が低下しているため、疾病からの回復を妨げやすくなっている。 そこで、高齢者の身体的特徴を理解したうえで罹患しやすい疾患を中心にその病態と看護を学ぶ。さらに、疾患や二次的障害の予防に向けたアセスメントをおこない、健康問題を有する高齢者の日常生活自立と促進を目指した看護を学ぶ。 <単元目標> 1. 疾患の治療に伴い起こりやすい身体・精神的侵襲への看護を理解する。 2. 老年期に特徴的な疾病を理解することにより、老年看護をおこなうための基礎能力を養う。 3. 障害をもつ高齢者とその家族への看護過程を理解する。			

<授業計画>			
単 元	回数	内 容	授業形態
1. 疾患の治療に伴う看護 (2時間)	1	1) 高齢者の問診の要点 2) 治療に伴う身体・精神的侵襲への看護 (1) 検査 (2) 薬物療法 (3) 放射線療法 (4) 手術療法	講義
2. 老年期特有の健康障害と看護 (16時間)	2	1) 運動器疾患と看護 (1) 大腿骨頸部骨折の高齢者の理解と看護 (2) 骨・筋系疾患に伴う変化への看護 ①骨粗鬆症 ②筋萎縮・関節の拘縮	講義
	3	③関節動域訓練 * 75歳の女性。坂道で転倒し入院。左大腿骨頸部骨折の術後の事例。 理学療法士の指導のもと関節の自・他動訓練をグループで疑似体験する。	演習
	4	2) 泌尿器系疾患と看護 (1) 前立腺肥大症の高齢者の理解と看護 (2) 排泄障害の予防と看護	講義
	5	3) 循環器系疾患と看護 (1) 高血圧症の高齢者の理解と看護 (2) 心不全の高齢者の理解と看護	講義

3. 看護過程の展開 (10時間)	6	4) 呼吸器系疾患と看護 (1) 肺炎の高齢者の理解と看護 (2) 肺気腫の高齢者の理解と看護	講義
	7	①肺理学療法 * 誤嚥性肺炎の事例で、基本的な排痰法をデモン ストレーション後、グループで疑似体験 5) 感覚器系疾患と看護 (1) 白内障の高齢者の理解と看護	演習
	8	6) 皮膚疾患と看護 (1) 老人性掻痒症の高齢者の理解と看護 (2) 疥癬の理解と看護	講義
	9	7) 脳神経系疾患と看護 (1) 脳血管障害の高齢者の理解と看護 (2) パーキンソン病の高齢者の理解と看護	講義
	10～ 14	1) 事例を用いて看護過程の展開 大腿骨頸部骨折の高齢者の看護過程の展開 (人工骨頭置換術前・後の看護) * 75歳の女性。転倒し入院。大腿骨頸部骨折 術後の事例 グループで看護過程の一次アセスメント・関連 図・二次アセスメントまでを討議後発表し、ク ラス全体で共有。	演習
	15 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2018 第9版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2018 第5版 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 2019 第6版		
参考文献	看護学大系13 老人の看護 日本看護協会出版会 鎌田ケイ子 高齢者ケア論 全国老人ケア研究会 臨床老年医学入門 医学書院 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版株式会社 他随時紹介		

小 児 看 護 学

小児看護学

1. 小児看護学の考え方・ねらい

現在、子どもを取り巻く社会や家族に深く関わる子どもの健康問題が増えている。子どもが置かれている社会や周囲の状況を理解することは、現在の小児看護を考える第一歩として重要である。小児看護に携わる看護者は、ヘルスプロモーションの理念に基づき、権利を有する一人の人として子どもを尊重し、様々な健康レベルの子どもが社会の中で健やかに発達し生きていくことができるように、個別性ある看護を提供する責務がある。また、子どもを育む家族も看護の対象と位置付け、家族に対して看護を提供することも重要である。

小児看護学では、小児看護の特徴と理念を学ぶ。健康な子どもの成長・発達の理解、発達段階に応じた援助と支援の必要性を学ぶ。そして、健康障害を持つ子どもの理解のため、主要な疾患、症状などを学び、さまざまな健康状態や状況にある子どもと家族の看護を理解し、それらの発達段階、健康レベルに応じた看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

2. 小児看護学の構成

〈教育内容〉	〈授業科目名〉	〈単元名〉
小児看護学 6単位 (195時間)	小児看護学概論 1単位(15時間)	1. 子どもと家族の看護の概念 2. 子どもの人権と看護 3. 小児保健対策
	小児看護学援助論Ⅰ 1単位(30時間)	1. 子どもの成長・発達と評価 2. 小児期における栄養 3. 発達段階に応じた援助と支援
	小児看護学援助論Ⅱ 1単位(30時間)	1. 小児期の主な疾患 2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 3. 小児期における疾病の経過と看護 4. 心身障害のある子どもと家族の看護 5. 低出生体重児の看護
	小児看護学援助論Ⅲ 1単位(30時間)	1. 外来における子どもと家族の看護 2. 検査・処置を受ける子どもの看護 3. 活動制限が必要な子どもと家族の看護 4. 隔離が必要な子どもと家族の看護 5. 手術を受ける子どもと家族の看護 6. 痛みのある子どもと家族の看護 7. 救急処置が必要な子どもと家族の看護 8. 小児の看護過程
	小児看護学実習 2単位(90時間)	

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
小児看護学概論	1単位（15時間）	1年次 前・後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> これからの社会を担う子どもの命を大切に守り、困難な状況を改善し、健やかな成長・発達を保障することは、医療者をはじめとする社会全体の責務である。一人ひとりの子どもが豊かな人生を歩むことができるように支援していくことが必要である。子どもが自立した一人の人として尊重され、自らのもつ可能性を発揮して生活していけるよう支援することも必要である。 ここでは、子どもの健康指標と子どもを保護する法律や社会動向、施策などに目を向け、小児看護を取り巻く状況を学び、小児看護の役割と意義について考えていく。 <単元目標> 1. 小児看護の対象としての子どもと家族を理解する。 2. 小児看護の変遷を理解する。 3. 小児看護の役割と倫理について理解する。 4. 小児保健統計を踏まえ、子どもを保護する法律や保健対策を理解する。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 子どもと家族の看護の概念 (2時間)	1	1) 小児看護の対象 (1) 子どもの特徴 (2) 子どもと家族、社会 2) 小児看護の目標と役割 (1) 小児看護の目的 (2) 小児看護の役割	講義
2. 子どもの人権と看護 (6時間)	2	1) 小児医療、小児看護の変遷 (1) 小児医療の変遷 (2) 小児看護の変遷 (3) 小児看護の課題	講義
	3・4	2) 小児看護の倫理 (1) 子どもの権利 (2) 児童憲章 (3) 児童の権利に関する条約 (4) アドボカシー (5) 子どもを取り巻く社会の変化 (6) 虐待	講義

3. 小児保健対策 (6時間)	5～7 8 評価	(7) 小児看護と倫理的配慮 1) 小児保健対策 (1) 小児を巡る法律と統計 ①児童福祉法 ②母子保健法 ③学校保健安全法 ④予防接種法 ⑤その他の法律 (2) 母子保健施策と子育て支援 筆記試験	講義
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院 2020 第14版 国民衛生の動向：厚生統計協会		
参考文献	小児看護と看護倫理―日常的な臨床場面での倫理的看護実践―へるす出版 2020 国民衛生の動向 厚生統計協会 子どもの権利条約ハンドブック 自由国民社 2016		

授業科目	単位数（時間）	開講時期	担当講師
小児看護学援助論Ⅰ	1単位（30時間）	1年次 後期	諏訪奈津子・三上明美
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 子どもは、成長・発達していく存在である。成長・発達に関わる知識を学ぶことは、子どもを理解し、効果的な支援を提供する基盤となる。基盤となる知識を持つことで、本来子どもが持っている育つ力や学ぶ力を最大に伸ばす関わりが提供でき、看護の役割を果たすことができる。 ここでは、子ども（家族を含む）の成長・発達、小児各期の具体的な子どもの生活と発達を理解し、発達段階に応じた援助、支援を学び、小児看護に必要な基本的能力を身につける。 <単元目標> 1. 子どもの成長・発達過程と発達課題を理解する。 2. 小児期における栄養の役割と特徴を理解する。 3. 小児各期の日常生活を理解し、その援助方法を理解する。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 子どもの成長・発達と評価 (12時間)	1	1) 小児期の年齢区分 2) 小児の特性 3) 成長・発達の原則 (1) 一般的原則 (2) 成長・発達に影響する因子	講義
	2～4	4) 小児各期の成長・発達 (1) 形態的特徴 (2) 機能的特徴 (3) 心理社会的特徴	講義
	5	5) 子どもの発達理論 (1) エリクソン自我発達理論 (2) ピアジェの認知発達理論 (3) オレムのセルフケア理論	講義
	6	6) 成長・発達の評価	講義
	7	1) 子どもにとっての栄養の意義 2) 小児各期の栄養の特徴と看護	講義
	8	3) 離乳食の進め方と目安	演習
2. 小児期における栄養 (4時間)			

3. 発達段階に応じた援助と支援 (12 時間)	9	1) 乳幼児期 (1) 親子関係 ①愛着形成 ②母子関係の確立 ③母子分離不安	講義
	10	(2) 成長発達における遊びの意義 ①遊びの中で育つ体と心	演習
	11	(3) 基本的生活習慣の確立 ①食事 ②排泄 ③睡眠 ④清潔 ⑤衣服の着脱	講義
	12	(4) 安全な環境の提供 ①子どもにみられる事故 ②安全教育	講義
	13	2) 学童期 (1) 学童期の子どもを取りまく社会環境 (2) 学校生活への適応 (3) 学習と遊び (4) 生活習慣病の予防 (5) 第二次性徴 (6) 安全教育 (7) 学童の情緒と家族関係 (8) 学童期の子どもの問題行動と対応	講義
	14	3) 思春期 (1) セルフケアと保健指導 (2) 食生活 (3) 親からの自立 (4) 異性への関心 (5) 思春期の子どもを取り巻く社会環境 (6) 思春期にみられやすい問題行動と家族機能	講義
	15	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院 2020 第14版 国民衛生の動向：厚生統計協会		
参考文献	こどもセルフケア看護理論 医学書院 2019		

授業科目	単位数（時間）	開講時期	担当講師
小児看護学援助論Ⅱ	1 単位（30 時間）	2 年次 前期	非常勤講師・専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 小児期の疾患は、程度の差はあれ病気が子どもと家族の生活に影響を及ぼす場合も少なくない。その影響は、発達段階や病気の種類により大きく異なることが考えられる。疾病・障害を持つ子どもの健康レベルを捉え、看護を提供することも大切である。 ここでは、小児期の主な疾患を学ぶ。また、病気や入院が子どもと家族に与える影響を理解することから看護を学ぶ。 <単元目標> 1. 小児期に多い疾患・小児に特有な疾患の病態生理を理解する。 2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響と援助を理解する。 3. 小児期における急性期・慢性期・終末期の疾病の経過と子どもと家族の看護を理解する。 4. 心身障害のある子どもと家族の実際を知り、必要な看護を理解する。 5. 低出生体重児と家族の実際を知り、必要な看護について理解する。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 小児期の主な疾患 (12 時間)	1～6	1) 小児期の主な疾患の理解 (1) 神経 (2) 消化器疾患 (3) 内分泌・代謝疾患 (4) 免疫・感染症 (5) 心臓・呼吸器疾患 (6) 腎・血液・悪性新生物	講義
2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 (4 時間)	7	1) 病気や障害が子どもと家族に与える影響 (1) 各発達段階にある子どもの病気の理解 (2) 病気・治療に伴うストレス (3) ストレスに対する反応・対処 (4) 影響に関与する因子 (5) 家族の反応と看護	講義
	8	2) 入院中の子どもと家族の看護 (1) 子どもが入院する病棟の形態 (2) 入院環境と看護の役割	講義

		①病床環境 ②処置室 ③遊び・学習の場 ④生活の場 (3) 計画入院・緊急入院時の看護 (4) 治療や処置に伴う苦痛への支援 ①インフォームドアセント ②プレパレーション ③ディストラクション (5) 各発達段階にある子どもの心理・社会的苦痛と看護 (6) 退院を見すえた看護	
3. 小児期における疾病の経過と看護 (8時間)	9	1) 急性期にある子どもと家族の看護 (1) 発熱時のアセスメントと看護ケア (2) 下痢・嘔吐時のアセスメントと看護 (3) 脱水時のアセスメントと看護ケア	講義
	10	(4) 呼吸困難時のアセスメントと看護ケア (5) けいれん時のアセスメントと看護ケア (6) 生命徴候が危険な状況にある子どもの観察とケアおよび家族への援助	講義
	11	2) 慢性期にある子どもと家族の看護 (1) 小児慢性特定疾患治療研究事業 (2) 病気の時間経緯と急性増悪 (3) 病気による子どもと家族の生活の変化 (4) 学校の受け入れ (5) 長期的治療を必要とする子どもの発達とセルフケアの助長 ①地域との連携、調整 (6) 小児における在宅看護 (7) 家族のストレスの緩和・対処への支援	講義
		3) 終末期にある子どもと家族の看護 (1) 子どもの死の概念 (2) 死の不安と別離の不安 (3) 子どもへの病気の説明 (4) 終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア (5) 子どもの死を看取る家族への関わりとケア	講義

4. 心身障害のある子どもと家族の看護 (4時間)	1 2	1) 障害児医療について (1) 重症心身障害児の歴史・定義・病態 (2) 必要な療育のあり方と福祉 2) 心身障害の理解	講義
	1 3	3) 心身障害児と家族への看護	講義
	1 4	1) 低出生体重児の特徴 2) 低出生体重児と家族の看護	講義
	1 5	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院 2020 第14版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院 2020 第14版 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 医学書院 2015 第5版		
参考文献	随時紹介		

授業科目	単位数（時間）	開講時期	担当講師
小児看護学援助論Ⅲ	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 子どもが病気を持つことにより、さまざまな状況に遭遇する。慣れない環境や初めて経験する治療・処置、制限のある生活などから、苦痛や恐れ、やりたいことができない悲しみなど、ストレスの原因となる体験も多く、子どもの発達段階にも影響を及ぼすことが考えられる。また、子どもは自己判断が未熟なため親の目を離れた隙に致命的な事故に遭遇し家庭内における事故は親の責任だけではなく周囲の環境によっても日常的に発生すると言われている。これらのことから看護者は、さまざまな状況下に置かれた子どもと家族に対して、どのような看護が必要かを考えて提供していかなければならない。 ここでは、子どもの発達段階や家族のニーズ、疾病や健康問題の状態に応じた看護を学ぶ。健康障害を持つ子どもと家族が遭遇するさまざまな状況を知り、看護に必要な知識・技術・態度を身につける。 <単元目標> 1. さまざまな状況にある子どもと家族への看護を理解する。 2. 検査・処置を受ける子どもの看護を理解し、必要な技術を身につける。 3. 健康障害をもつ子どもとその家族への看護過程を理解する。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 外来における子どもと家族 (2時間)	1	1) 小児外来の看護 (1) 緊急度の把握とトリアージ (2) 感染症への対策 (3) 受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 (4) 健康診査・育児相談 (5) 虐待の気づきと看護	講義
2. 検査・処置を受ける子どもの看護 (8時間)	2～5	1) 子どもの看護技術の特徴 2) 子どもの健康を把握する看護技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサインの測定 (3) 身体計測 3) 検査・処置に必要な看護技術 (1) 与薬	講義 演習

		(2) 輸液 (3) 抑制 (4) 検体採取 (5) 呼吸症状の緩和 4) 生活援助に必要な看護技術 * 1項目ごとに目的、使用物品提示、手順、年齢に応じた工夫、観察点、注意事項などを説明。 モデル人形を使用しバイタルサイン測定・身体計測の演習を実施。	
3. 活動制限が必要な子どもと家族の看護 (2時間)	6	1) 活動制限の目的 2) 身体的・心理社会的影響 3) ストレス対処への支援 4) 家族への支援	講義
4. 隔離が必要な子どもと家族の看護 (2時間)	7	1) 隔離の目的・方法 2) 身体的・心理社会的影響 3) 隔離時の日常生活援助 4) 家族の面会・付き添い時の指導と支援	講義
5. 手術を受ける子どもと家族の看護 (2時間)	8	1) 子どもの手術の特徴 2) 手術を要する健康障害と手術の時期 3) 手術の種類 (1) 計画手術 (2) 緊急手術 (3) 日帰り手術 4) 準備状態の把握とプレパレーション 5) 周手術期の看護 6) 退院指導・継続看護	講義
6. 痛みのある子どもと家族の看護 (2時間)	9	1) 痛みの受け止め方 2) 痛みの表現方法 3) 痛みの客観的評価 4) 痛みの緩和への援助	講義
7. 救急処置が必要な子どもと家族の看護 (2時間)	10	1) 家庭内における子どもの事故とその予防 2) 救命救急処置 (1) 子どもの誤飲・誤嚥時の対処法 (2) 子どもの心肺蘇生 3) 小児救急看護の実際	講義

8. 小児の看護過程 (8時間)	11～ 14 15	1) 事例による看護過程の展開 (1) 小児期の主な疾患に罹患した小児の看護 筆記試験	講義 個人ワーク
評価	筆記試験 看護過程の個人ワーク、グループワーク課題、取り組み姿勢		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 医学書院 2020 第14版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論 医学書院 2020 第14版		
参考文献	写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 2017		

母 性 看 護 学

母性看護学

1. 母性看護学の考え方、ねらい

女性は、身体に子どもを産む仕組みが備わっていることから、次世代の健全な育成に努める役割と責任を担ってきた。しかし、女性の生き方は多様化し、女性の健康を母性の健康としてだけでは捉えられない状況にある。そのような状況の中で、母性看護の役割は女性の自己決定権を尊重する「性と生殖に関する健康と権利」を基盤に、女性のライフサイクル全般にわたって各期の健康問題に対応して母性の健康を維持・増進することである。なかでも、妊娠・出産・育児は女性やその家族にとって人生の重要な出来事であり、母性看護は対象が満足できる援助を提供する必要がある。

安全で快適な出産を経ることは、子どもの成長・発達および母子関係・親子関係に相互に影響し合っていくことから、母と子の成長をできるだけ一体化して捉え、援助していくことが必要である。

母性看護学では、人としての種族保存あるいは生殖の意義を理解し、その機能が健全に営むことができるように、母性の一生を通しての健康の維持・増進と母性機能を適切に遂行していくための基本的な援助を学ぶ。

2. 母性看護学の構成

<科目>	<授業科目名>	<単元>
母性看護学 6単位 (195時間)	母性看護学概論	1. 母性・母性看護の概念
	1単位(30時間)	2. 人間の性と生殖
		3. 母性看護と倫理
		4. 女性の健康問題と看護
		5. 母性の健康と社会
		6. 母性各期の特徴と看護
	母性看護学	1. 妊娠・分娩の正常な経過と正常からの逸脱
	援助論Ⅰ 1単位(30時間)	2. 周産期看護の概要
		3. 妊娠期の看護
		4. 分娩期の看護
	母性看護学	1. 産褥の生理的变化と正常からの逸脱
	援助論Ⅱ 1単位(30時間)	2. 産褥期の看護
		3. 母性の看護過程
	母性看護学	1. 新生児の生理と正常からの逸脱
	援助論Ⅲ 1単位(15時間)	2. 新生児期の看護
	母性看護学実習	
	2単位(90時間)	

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
母性看護学概論	1 単位（30 時間）	1 年次 前・後期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

母性看護学は、次世代の健全な育成に役割と責任をもち、「産む」という機能をもつ女性が対象である。次世代の健全育成のためには妊娠・出産・産褥という周産期を中心に思春期から更年期・老年期と対象が広がられている。周産期は身体的・心理的・社会的側面の変化が激しく危機的状況になりうる時期といわれている。そこで、母性意識の形成、発展をとらえ自己決定しながら母親になっていく女性の看護を考えていく。

さらに女性は、産み育てる対象と捉えるだけではなく、生活過程を持つ人として捉え、ライフサイクルにおける女性の健康と課題を理解し、看護者としての役割を学ぶ。

また、母子保健の動向と対策を理解し、母子保健に影響を与える要因を理解することから社会の変化に伴う母性看護の役割も理解する。

<単元目標>

1. 母性の概念および母性看護の意義を捉える。
2. 母性の発達過程を理解し、母性看護の役割を考える。
3. 母子保健の動向と対策を学び、地域社会での母子保健における看護者の役割を理解することができる。
4. 女性の健康問題を理解し、看護の役割を考えることができる。

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 母性・母性看護の概念 (4時間)	1	1) 女性の理解 (1) 現代女性の生き方 (2) 親になることと母性 (3) 母性観・父性観の変遷 (4) 現代における母性・父性とは	講義
	2	2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 経緯 (2) 現状と課題	講義
2. 人間の性と生殖 (8時間)	3・4	1) 性と生殖のメカニズム (1) 性周期 (2) 性行動、性反応 (3) 受胎 (4) 性分化 (5) 先天性形態異常の発生	講義
	5	2) セクシュアリティの概念 (1) セックス、ジェンダー、セクシュアリティとは (2) セクシュアリティの意義 (3) 多様な性	講義
	6	3) 家族計画	講義

3. 母性看護と倫理 (2時間)	7	(1) 家族計画の意義と変遷 (2) 受胎調節方法	講義
		1) 生命倫理と女性の健康 2) 女性の健康に関する倫理的問題と看護(出生前診断など)	
	8	1) STD、人工妊娠中絶、ドメスティック・バイオレンス	講義
		2) 不妊症、不育症、アルコール・喫煙・薬物	
	9	1) 人口動態統計 2) 母子の健康に関わる法律制度の変遷	講義
		3) 母子の健康支援施策 4) 災害と母性、国際化社会と看護	
	10	1) 思春期の看護 (1) 身体的、心理的、社会的特徴 (2) 健康と看護	講義 GW
		2) 成熟期の看護 (1) 身体的、心理的、社会的特徴 (2) 健康と看護	
	11	3) 更年期の看護 (1) 身体的、心理的、社会的特徴 (2) 健康と看護 4) 老年期の看護 (1) 身体的、心理的、社会的特徴 (2) 健康と看護	講義 GW
6. 母性各期の特徴と看護 (6時間)	12	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座24 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 2021 第14版		
参考文献	木村好秀：家族計画指導の実際 医学書院 2017 第2版増補版第1刷 厚生統計協会：国民衛生の動向 2020/2021 新道幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 2015 第1版第23刷 中込さと子他：概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 2019 第1版第1刷 大北全俊他：ケアの倫理 メディカ出版 2015 第1版第1刷 有森直子：母性看護学Ⅰ 医歯薬出版 2020 第2版第1刷 立岡弓子：女性の健康と看護 サイオ出版 2017 第1版第1刷 ※他、講義の中で随時紹介します。		

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
母性看護学援助論Ⅰ	1単位(30時間)	2年次 前期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 単元1：妊娠・分娩の正常な経過と正常からの逸脱 周産期(妊娠・分娩)における心身の変化は、生理的な現象であり、自然な過程である。しかし、身体の変化は正常からの逸脱を引き起こす場合があり、定期的な経過を確認することが異常の早期発見と予防につながる。周産期の正常な経過と逸脱について学習する。 単元2：妊娠期・分娩期の看護 女性の体内で成長している胎児の存在は、形態的・機能的に母体の全身状態を大きく変化させ、心身は様々な影響を受ける。女性が、周産期に生じる心身の変化に適応し、健康で快適な生活が出来るように援助することが必要である。母体のケアを通じて子を異常や障害の発生から守り、生まれてくる子が健全な成長・発達を出来るように援助することが必要である。 <単元目標> 1. 妊娠期・分娩期の看護の概念を理解する。 2. 妊娠期・分娩期に生じる身体的・心理的・社会的変化を理解する。 3. 妊娠期・分娩期の母子の適応過程における総合的アセスメントを理解する。 4. 妊娠期・分娩期の看護の原則と必要なケアを理解する。 5. 周産期の非効果的反応についての看護を理解する。 6. 主な産科手術と母子への看護を理解する。			

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 妊娠・分娩の正常な経過と正常からの逸脱 (10時間)	1・2	1) 妊娠の生理的变化とその特性 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育とその生理 (3) 母体の生理的变化	講義
	3	2) 妊娠期の異常 (1) 流産・早産・感染症・悪阻・妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、妊娠糖尿病など	講義
	4	3) 分娩の生理 (1) 分娩の要素 (2) 分娩の経過	講義
	5	4) 分娩の異常 (1) 産道・娩出力・胎児・付属物の異常 (2) 分娩損傷・異常出血、肺塞栓 (3) 産科処置と産科手術	講義
	6	1) 周産期とは (1) 周産期の期間と時期 2) 周産期をとりまく社会の現状 (1) 1人親世帯の経済格差 (2) 妊婦健康診査未受診者の状況 3) 周産期医療システムと現状	講義
2. 周産期看護の概要 (2時間)			

3. 妊娠期の看護 (8時間)	7	1) 妊娠初期・中期・後期 (1) 母体と胎児の変化 (2) 身体的・心理的・社会的変化 (3) 健康状態をアセスメントする視点と方法	講義
	8	2) 妊娠各期の日常生活・マイナートラブルへの援助	講義 GW
	9	3) 妊娠の異常と看護 (1) 流産、早産、常位胎盤早期剥離、前置胎盤 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病など	講義
	10	4) 妊娠期に必要な看護技術 (1) レオポルド触診法、腹囲測定、子宮底測定等	演習
	11～ 13	1) 分娩の進行と身体的・心理的・社会的変化 (1) 分娩第Ⅰ期 (2) 分娩第Ⅱ期 (3) 分娩第Ⅲ期 (4) 分娩第Ⅳ期 2) 分娩の異常と看護 (1) 前期破水 (2) 産科出血 (3) 胎盤機能不全 など	講義
4. 分娩期の看護 (8時間)	14	3) 分娩期に必要な看護技術 (1) リラックス法・呼吸法・補助動作・いきみ等	演習
	15 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座24 母性看護学1 母性看護学各論 医学書院 2021 第14版		
参考文献	有森直子編：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 2016 第1版第3刷 石村由利子：母性看護技術 医学書院 2016 第2版第3刷 岡庭豊：病気がみえる 産科 メディックメディカ 平成28年 第3版第6刷 櫛引美代子：妊産褥婦のケア 医歯薬出版 2014 第2版第15刷 小林康江他：母性看護の実践 メディカ出版 2019 第1版第1刷 新道幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 2015 第1版第23刷 小林康江他：母性看護の実践 メディカ出版 2019 第1版第1刷 有森直子：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 2020 第2版第1刷 ※他、講義の中で随時紹介します。		

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
母性看護学援助論Ⅱ	1単位(30時間)	2年次 前・後期	非常勤講師

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

単元1：産褥期の経過と正常からの逸脱

産褥期は、分娩後6～8週をかけて妊娠前の状態に戻るまでの期間をいう。この変化は、生理的な現象であり、自然な過程であるが、身体の変化は正常からの逸脱を引き起こす場合があり、異常の予防と早期発見が必要である。産褥期の正常な経過と逸脱について学習する。

単元2：産褥期の看護

産褥期は、新しく子どもと母親と家族が様々な役割を習得し、新しい家族の関係性を確立する時期であり、父親と母親が子どもとの暮らしに心理的・社会的に適応していく期間でもある。スムーズな適応を助けるためには、母親と子どもの健康を守るセルフア能力を獲得するために必要な援助を学び、周産期における看護の基礎的能力を養う。

<単元目標>

1. 産褥期の看護の概念を理解する。
2. 産褥期に生じる身体的・心理的・社会的変化を理解する。
3. 産褥期の母子の適応過程における総合的アセスメントを理解する。
4. 産褥期の看護の原則と必要なケアを理解する。
5. 産褥期の非効果的反応についての看護を理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 産褥期の生理的变化と正常からの逸脱 (2時間)	1	1) 産褥の生理と異常 (1) 産褥経過 (2) 子宮復古不全 (3) 発熱 (4) 肺塞栓 (5) 産褥期の精神障害 など	講義
2. 産褥期の看護 (18時間)	2	1) 産褥期と褥婦	講義
	3	2) 退行性変化と進行性変化 (1) 復古現象 (2) 泌乳機序と哺乳のメカニズム	講義
	4	3) 褥婦の心理・社会的変化 (1) 母子関係と家族関係 (2) 母子相互作用、愛着理論、親と子の絆の形成 4) 家族の心理・社会的変化 (1) 父親への援助 (2) 夫婦関係の再構築 (3) きょうだい・祖父母への援助	講義

3. 母性の看護過程 (8時間)	5	5) 褥婦・新生児・家族のセルフケア獲得に向けた援助 (1) 母乳育児の確立 (2) 育児技術の習得	講義
	6	(3) 褥婦の健康生活 (4) 社会生活への適応 (5) 家族計画	
	7	6) 産褥の異常と看護 (1) 子宮復古不全、産褥熱、肺塞栓、産後うつ、 マタニティブルーズなど (2) 死産・障害を持つ新生児を出産した親	講義
	8	7) 帝王切開術を受けた母子への看護	講義
	9・10	8) 産褥期に必要な看護技術 (1) 授乳技術・乳房の観察 (2) 沐浴・清拭・臍処置 (3) オムツ交換、更衣など	演習
	11～ 14	1) 産褥期の母子の健康問題と援助(看護過程)	講義 個人ワーク
	15 評価	筆記試験	
評価	筆記試験(90%)、看護過程(10%)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 2021 第14版		
参考文献	荒木奈都他：母性看護技術 メディカ出版 2019 第4版第1刷 有森直子編：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 2020 第1版第3刷 石村由利子：母性看護技術 医学書院 2016 第2版第3刷 今津ひとみ編：母性看護学2,産褥・新生児 医歯薬出版 2014 第2版第8刷 岡庭豊：病気がみえる 産科 メディックメディア 平成28年 第3版第6刷 櫛引美代子：新生児の観察と看護技術 医歯薬出版 2016 第1版第8刷 小林康江他：母性看護の実践 メディカ出版 2019 第1版第1刷 佐世正勝他編：ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院 2017 第3版 新道幸恵他 母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 2011 第1版第23刷 Klaus.M.H.Kennel,J.H(竹内徹他訳)：親と子のきずなはどうつくられるか 医学書院 2017 第1版 第9刷 Rubin, R(新道幸恵他訳)：母性論—母性の主体的体験— 医学書院 2012 第1版 第5刷 ※他、講義の中で随時紹介します。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
母性看護学援助論Ⅲ	1 単位（15 時間）	2 年次 前・後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 単元1：新生児の生理と正常からの逸脱 新生児は出生した直後から、子宮外環境のもとで独立して生命を維持しなければならない。新生児期は、胎外生活への適応のために生理的機能が大きく変化する時期であり、また、家族を中心にした社会生活の出発点に立つという特徴を持っている。これらの過程をよく理解して、新生児とその家族への看護ケアに繋げることが重要である。 単元2：新生児の看護 新生児が順調に子宮外生活に適応し、母子相互作用を通じて母親との関係が成立できるように援助し、成長発達のための適正な養育環境を整えるために必要な基本的能力を養う。 <単元目標> 1. 新生児の生理的変化と異常を理解する。 2. 新生児期に生じる身体的・心理的・社会的変化を理解する。 3. 新生児期の適応過程における総合的アセスメントを理解する。 4. 新生児期の看護の原則と必要なケアを理解する。 5. 新生児期の非効果的反応についての看護を理解する。			

<授業計画>

単元	回数	内 容	授業形態
1. 新生児の生理と正常からの逸脱 (4時間)	1	1) 新生児の生理と異常 (1) 新生児の形態・機能 (2) 新生児の診断 (3) 糖尿病母体児	講義
	2	(4) 新生児黄疸 (5) 新生児メレナなど	講義
2. 新生児期の看護 (10時間)	3	1) 胎外生活への適応過程 2) 生理的特徴	講義
	4	3) 身体的・心理的・社会的特徴	講義
	5	4) 出生後から退院までの援助 (1) 基本的な処置 (2) 感染予防 (3) 事故防止・取り違え防止 (4) 環境 など 5) 新生児の異常と看護 (1) 新生児仮死 (2) 一過性多呼吸	講義

		(3) 高ビリルビン血症・光線療法 など 6) アセスメントポイントと看護技術 7) 新生児に必要な看護技術 (1) アセスメントポイントに基づいた全身観察・バイタルサイン 8 評価 筆記試験	講義 演習
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 2021 第14版		
参考文献	荒木奈都他：母性看護技術 メディカ出版 2019 第4版第1刷 有森直子編：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 2016 第1版第3刷 石村由利子：母性看護技術 医学書院 2016 第2版第3刷 岡庭豊：病気がみえる 産科 メディックメディア 平成28年 第3版第6刷 櫛引美代子：新生児の観察と看護技術 医歯薬出版 2014 第1版第8刷 小林康江他：母性看護の実践 メディカ出版 2019 第1版第1刷 佐世正勝他編：ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院 2017 第3版第1刷 新道幸恵他 母性の心理社会的側面と看護ケア 医学書院 2015 第1版第23刷 ＊他、授業の中で随時紹介します。		

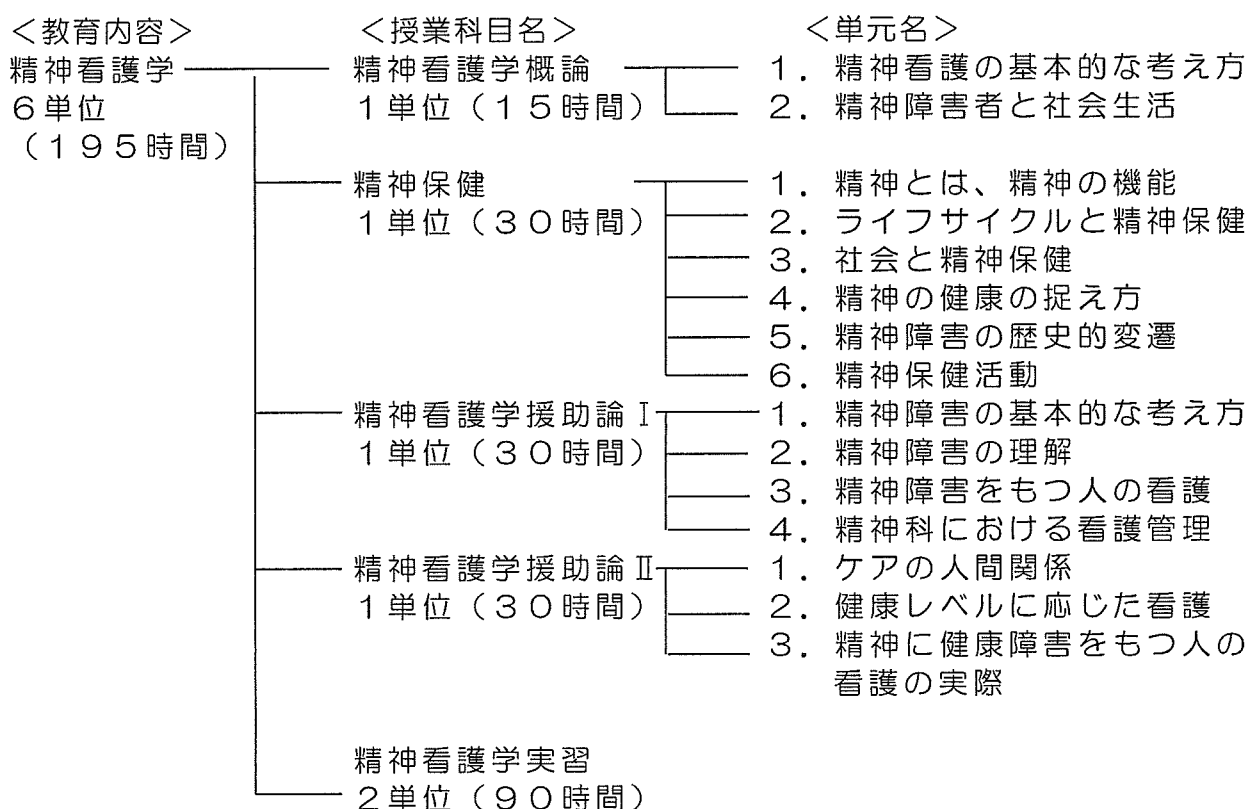
精神看護学

精神看護学

1. 精神看護学の考え方・ねらい

精神看護学は、人間の精神に関する看護を対象とする学問である。広い意味ではあらゆる場で、あらゆる人々の精神保健に関わる看護であり、狭い意味では精神障害をもった方の施設内や地域での看護である。このように、精神看護は看護の基盤として全ての領域に必要である。そこで、精神看護学では、人々の精神保健の問題から、精神疾患をもつ人への看護、地域で生活する精神障害者への援助、身体疾患をもつ人や強いストレス状況におかれている人の精神の健康問題などについて、看護の基盤として全ての領域に活用出来る知識・技術・態度を習得する事をねらいとする。

2. 精神看護学の構成



授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
精神看護学概論	1 単位 (15 時間)	2 年次 前期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

社会構造の変化に伴い、精神的バランスを崩している人が増えてきている。また、精神科医療は入院医療中心から地域医療中心へと転換してきている。そうした社会の変化に伴い、看護者に求められる能力・役割も変化してきている。ここでは、社会状況を知った上で、精神看護の場・対象・看護師の役割について学ぶ。

また、地域移行を中心とした精神医療に伴い、対象の強みや生きる力に着目した看護モデルについても理解し、これからの精神医療・看護を考えるとともに、倫理的な配慮について理解する。

<単元目標>

1. 精神看護の基本的な考え方と看護者の役割について理解する。
2. 精神障害者の人権尊重と看護師の倫理的な配慮について理解する。
3. 精神に健康障害を持った方が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支えるサポートシステムについて理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 精神看護の基本的な考え方 (6時間)	1 2 3	1) 精神看護とは (1) 精神看護の場と対象 (2) 精神看護における看護師の役割 (3) 看護モデル (4) 精神看護の専門性 (5) これからの精神医療と看護 (6) 精神看護と倫理	講義 演習
2. 精神障害者と社会生活 (8時間)	4	1) 精神保健福祉の変遷 (1) 外国における精神保健福祉活動の変遷 (2) 日本における精神保健福祉活動と法変遷	講義
	5 6 7	2) 精神保健福祉法と医療・行政 (1) 病院における医療および保護 (2) 地域・在宅における看護の実際 (3) 地域精神保健福祉活動	講義 講義
	8 評価	筆記試験	
評 価	筆記試験、日々の授業態度、提出物状況、小テストなどから総合的に評価		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 2021 第6版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院 2021 第6版		
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会 セシュエー 分裂病の少女の手記 みすず書房 長谷川浩訳:トラベルビー 人間対人間の看護 医学書院 1974 等々		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
精 神 保 健	1 単位（30 時間）	1 年次 後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> ◎授業の目標およびテーマ 精神保健は、個人・家族・社会という幅広い対象があることを理解し、疾患や障害の有無にかかわらず全ての人が生きがいをもって自分らしく生きることのできる地域社会づくりを目指すものです。最初に、精神保健の概念や基本的視点を理解します。そこから、現代社会における具体的な精神保健上の問題と精神保健活動の実際を学び、精神保健の課題と展望について理解を深めます。学生一人ひとりが広い視野をもって精神看護を考える基盤とすることを本授業の目標にします。 ◎授業の概要 個人・家族の生活ライフサイクル、地域社会のあり方と精神保健について、また、精神障害と精神保健、精神保健福祉活動の実際について、時事の問題や具体的な事例を多く取り入れた講義を中心として進めます。 ◎授業に当たり皆さんに望むこと 積極的に授業へ参加することを望みます。精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心をもち自ら考える姿勢を持つことが望ましいです。			
第 1 回	オリエンテーション		
第 2 回	精神とは何か 精神と脳の関係 精神機能の障害		
第 3 回	精神の機能		
第 4 回	パーソナリティ 精神の構造と働き 正常と異常とは		
第 5 回	ライフサイクルと精神保健①		
第 6 回	思春期・青年期その1（自我の揺らぎと社会関係の問題）		
第 7 回	ライフサイクルと精神保健②		
第 8 回	思春期・青年期その2（精神障害～統合失調症、摂食障害、パーソナリティ障害等）		
第 9 回	ライフサイクルと精神保健③		
第 10 回	成人期～老年期（人生における安定と不安定を体験、精神障害～うつ病）		
第 11 回	生活の場と精神保健① 学校・職場		
第 12 回	生活の場と精神保健② 地域生活、災害看護		
第 13 回	社会と精神保健① ストレスと危機		
第 14 回	社会と精神保健② 自殺		
第 15 回	社会と精神保健③ 暴力・虐待		
第 16 回	精神の健康のとらえ方		
第 17 回	ICFモデルから精神の健康と障害を捉える		
第 18 回	精神障害の歴史的変遷①		
第 19 回	監置から病院へ（精神病患者監護法から精神病院法：長期入院の問題）		
第 20 回	精神障害の歴史的変遷②		
第 21 回	病院から地域へ（精神衛生法から精神保健福祉法）		
第 22 回	精神保健活動		
第 23 回	地域社会における精神障害者の生活支援システム（リカバリーの考え方）		
第 24 回	筆記試験		
評価	出席状況と筆記試験（もしくはレポート）により総合的に評価する。		
教科書	テキストは使用しない。資料を配付する。		
参考文献	必要時指示する。		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
精神看護学援助論Ⅰ	1 単 位 (3 0 時 間)	2 年 次 前 ・ 後 期	非常勤講師

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

精神に健康障害をもった人に援助を行うためには、精神障害・治療・検査に関する基礎的知識を理解することが大切である。ここでは、精神障害とその症状、治療・処置時の看護について学ぶ。また、精神医療は、治療のために対象を隔離・拘束する必要がある場合があり、法律との関係も重要となる。精神障害をもった方に安全な医療を提供するために、精神科における看護管理について理解する。

<単元目標>

1. 精神科に特徴的な疾患、治療・処置やそれぞれの看護について理解する。
2. 精神科における看護管理の特徴と実際について理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 精神障害の基本的な考え方 (4時間)	1 ~ 2	1) 精神障害の基本的な考え方 (1) 精神障害とは (2) 精神障害による対象・家族への影響 (3) 精神障害による生活への影響 (4) 精神障害をもつ対象への支援の実際 (地域連携・ピアサポート・他職種連携)	講義
2. 精神障害の理解 (12時間)	3 ~ 8	1) 精神医療とは 2) 精神症状をどうみるか 3) 精神療法・薬物療法・その他 4) 統合失調症圏の障害 5) 気分障害圏の障害 6) 神経症圏の障害 7) 人格障害 8) 外因性精神病	講義
4. 精神障害をもつ人の看護 (8時間)	9 ~ 10 11	1) 精神機能の障害が日常生活に与える影響と看護 2) 精神科における治療と看護 (1) 作業療法の目的と実際 (2) 集団療法・認知行動療法・CVPPPなど精神科治療に伴う看護	講義
	12	(3) 薬物治療と身体の看護 ①向精神薬と抗精神病薬 ②薬物療法をうける対象への看護 (4) 精神科における特殊治療と看護 ①修正型電気けいれん療法時の看護 ②隔離と身体拘束時の看護	講義
5. 精神科における看護管理 (4時間)	13 ~ 14	1) 精神科看護管理の目的 (1) 精神科看護管理の目的	

		(2) 精神医療の現場の倫理 2) 精神保健福祉法と看護管理 (1) 入院患者の処遇・行動制限 (2) 入院形態 3) 精神科看護管理の実際 筆記試験	
	15 評価		
評価	授業態度、出席日数、小テスト、筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院2021第6版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院2021第6版		
参考文献	秋元波留夫他:精神を病むということ 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 中井久夫、山口直彦:看護のための精神医学 医学書院 川野雅資 看護管理の実際 第1版 医学書院 2007		

授 業 科 目	単位数 (時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
精神看護学援助論Ⅱ	1 単 位 (3 0 時 間)	2 年 次 前 ・ 後 期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 精神看護学Ⅰで学んだ事を生かしながら、精神障害をもつ対象との治療的関係の構築のために必要な知識とコミュニケーション技法を学ぶ。また、様々な健康レベルにある対象に対して看護を行うために必要なアセスメントの視点と看護の実際について理解する。 <単元目標> 1. 精神科で用いる特徴的な看護援助技法について理解する。 2. 精神科の特徴をふまえた上で、精神に健康障害をもつ人の看護過程を考える事ができる。			

<授業計画>

1. ケアの人間関係 (10時間)	1・2 3 4 5	1) ケアの人間関係 (1) ケアの前提・原則・方法 (2) 患者-看護師関係 (3) ストレングスモデル (4) プロセスレコード・ストレングスマッピングシートを使ったコミュニケーションについて	講義 演習
2. 健康レベルに応じた看護 (8時間)	6～7 8 9	1) 精神障害をもつ対象の健康レベルの理解 2) 精神障害をもつ対象の健康レベルに応じた看護(急性期～回復期・慢性期) (1) アセスメントの視点 (2) 看護の実際 3) 自殺対策について	講義 講義 演習
3. 精神に健康障害をもつ人の看護の実際 (10時間)	10～13 14 15 評価	1) 事例による看護過程の展開 (1) 統合失調症 ①急性期 ②慢性期 ③回復期～退院前 (2) 気分感情障害 (3) アルコール依存症 (4) 摂食障害 * 事例を1つ選び看護過程を展開する 2) グループ発表 筆記試験	講義 演習
評 価	授業態度、出席日数、小テスト、筆記試験70%・提出物30%		

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院2021第6版 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院2021第6版
参考文献	外口玉子 系統看護学講座別巻15巻13 精神疾患患者看護 医学書院 萱間真美 リハビリ・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 第1版 医学書院 2017

統 合 分 野

在 宅 看 護 論

在宅看護論

1. 在宅看護論の考え方・ねらい

人口構造・疾病構造の変化に伴い、地域保健医療福祉体制が整備されるとともに在宅看護への社会のニーズはますます高まっている。また、医療は高度化している一方で医療費の高騰から入院期間の短縮化が図られ、医療が施設から地域へと変化してきている。

在宅看護の対象は年齢別、疾患別、症状別という枠組みを超えた、生活の場で療養しているすべての人とその家族である。そして、対象のもつ多様なニーズに対応し、QOL を重視する看護活動が大切である。そのためには、地域の保健・医療・福祉の中での在宅看護の位置づけを明確にし、地域ケアシステムの中における看護の役割を理解する必要がある。

近年がんの罹患率が増え、入院期間の短縮化が進められている現状において、がん治療・ケアが、病院だけではなく地域のあらゆる場で行なわれ、その質が確保されるような整備が進められている。

そのような中で、人生の最期を住み慣れた場で、家族に囲まれて迎えたいと望む人も増えてきている。そのため、療養者と家族が共にその人らしく最期の時が迎えられるような看護の役割も求められる。

上記をふまえ、在宅看護論では専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱで学習した内容を基盤として、地域ケアシステム全体の中での在宅看護の目的・役割・機能と基盤となる理念、法的根拠・制度、対象の特徴、看護実践、対象に応じた看護展開・援助の実践についての知識・技術・態度を習得することをねらいとする。

2. 在宅看護論の構成

＜教育内容＞	＜授業科目名＞	＜単元名＞
在宅看護論 6単位 (180時間)	在宅看護概論 1単位(15時間)	1. 地域保健医療福祉の中の在宅看護 2. 在宅看護の目的と対象 3. 在宅看護と倫理
	在宅看護援助論Ⅰ 1単位(30時間)	1. 在宅看護の機能と役割 2. 継続看護と連携 3. 在宅看護の展開
	在宅看護援助論Ⅱ 1単位(30時間)	1. 在宅看護のコミュニケーション 2. 日常生活援助の看護技術 3. 治療処置に伴う看護技術
	在宅看護援助論Ⅲ 1単位(15時間)	1. 在宅療養者の疾患・状態別看護 2. 在宅看護過程
	在宅看護論実習 2単位(90時間)	

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
在宅看護概論	1 単位（15 時間）	1 年次 後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 在宅においての看護は、地域社会での生活を基盤とする療養者を健康面から支援する一役を担っている。保健・医療・福祉の状況もめまぐるしく変わる中、療養者や家族の生活自体も社会の影響を受けて変化し、健康や生活に対する個々の価値観も多様な時代へとなっている。 ここでは、在宅看護を取り巻く地域保健医療福祉の全体像とその中に位置づけられる地域看護の概要、在宅看護の基盤となる概念の基本的知識と倫理的行動について学ぶ。 <単元目標> 1. 在宅看護の現状と取り巻く地域看護、地域保健医療福祉の概要について理解できる。 2. 在宅看護の目的と対象の特性について理解できる。 3. 在宅看護における倫理的な看護活動について理解できる。			

<授業計画>			
単 元	回数	内 容	授業形態
1. 地域保健医療福祉 の中の在宅看護 (6 時間)	1	1) 在宅看護論を学ぶ意義 (1) 在宅看護の位置づけ (2) 在宅看護が必要とされる社会背景と根拠 (3) 在宅看護論を学ぶ目的	講義
	2	2) 地域保健医療福祉活動 (1) 地域・生活の場の概念 (2) 地域保健医療福祉の種類と内容 (3) ケアマネジメントとチームアプローチ	講義
	3	3) 地域看護の活動分野と役割 (1) 地域看護活動の変遷と関連した法律 (2) 地域看護の種類と内容 (3) 地域看護の中の在宅看護の位置づけ・提供の場	講義
2. 在宅看護の目的と 対象 (4 時間)	4	1) 在宅看護とは (1) 在宅看護の概念 (2) 在宅看護の目的 (3) 自立・QOL の向上にむけた支援 (4) 療養者の権利を守る支援	講義
	5	2) 在宅看護の対象と生活環境 (1) 対象者の特徴 (2) 療養者の生活環境 (3) 家族を捉える視点	講義
3. 在宅看護と倫理 (4 時間)	6	1) 在宅看護と倫理 (1) 在宅看護に求められる看護職者の倫理 (2) 情報保護	講義

		(3) 感染管理 (4) 緊急時の対応 (5) 在宅看護に関連する事故 2) 事例をもとに在宅看護の倫理について考える 筆記試験	グループ ワーク 発表
評価	7 8 評価		
教科書	単元1～3は筆記試験にて評価する。		
参考文献	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 2017 第5版		
	随時紹介		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
在宅看護援助論Ⅰ	1 単 位 （ 3 0 時 間 ）	2 年 次 前 期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 在宅看護の対象は、地域で生活しているあらゆる健康レベル、ライフサイクルにある人々である。人生を送る生活の場での療養になるため、その人らしい生活を重視していくことが基本となる。在宅看護の役割を発揮するために、療養者とその家族の現状、在宅看護活動のしくみや関連する法律、地域の支援機関との連携・協働や社会資源活用などの必要性、継続看護の重要性を学ぶ。 <単元目標> 1. 在宅看護の機能と役割を理解できる。 2. 在宅看護における継続看護の重要性とその役割、地域の支援機関との連携や協働について理解できる。 3. 在宅看護の看護過程のポイントと特徴を理解できる。			

<授業計画>			
単 元	回数	内 容	授業形態
1. 在宅看護の機能と役割 (8時間)	1	1) 在宅看護のしくみと関連する法律 (1) 訪問看護制度 (2) 介護保険制度 (3) 後期高齢者医療制度 (4) 障害者総合支援法 2) 在宅看護の中の訪問看護 (1) 訪問看護とは (2) 訪問看護の実施機関と看護の特徴	講義
	2・3	3) 訪問看護ステーションのしくみ (1) 訪問看護ステーションの概要 (2) 訪問看護サービスの利用の流れと種類 (3) 他職種との連携	講義
	4	4) 訪問看護の実際	講義
2. 継続看護と連携 (8時間)	5・6	1) 継続看護を提供するための在宅看護 (1) 継続看護とは (2) 継続看護を担う部署と職種 (3) 退院支援と退院調整 (4) 地域との連携システム (5) 地域連携クリティカルパス	講義
	7・8	2) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能 (1) 地域包括ケアシステムとは (2) 地域包括支援センターの役割と機能 (3) 地域の支援機関との連携協働 (4) 地域包括ケアシステムにおける看護の役割	講義

3. 在宅看護の展開 (12時間)	9・10 11～ 14 15 評価	1) 在宅看護過程の実際 (1) 在宅看護過程の特徴 (2) 情報収集項目 (3) 全体像の捉えとアセスメント(病態 生活 行動 家族 生活歴と習慣 環境 経済力 サービス 今後に対する思い希望など) (4) 看護目標の考え方と計画 (5) 実施・評価 2) 事例を用いてフェースシートに情報を整理、 看護の問題点を考え、看護目標について検討 後発表し、クラス全体で共有。 筆記試験	講義 個人ワーク GW 発表
評 価	単元1～3は筆記試験にて評価する。		
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 2017 第5版		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
在宅看護援助論Ⅱ	1 単位（30 時間）	2 年次 後期	非常勤講師
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 在宅看護は、療養生活の場での看護実践である。施設とは全く異なる環境の中で、限られた条件のもと、療養者がセルフケア能力を発揮できるよう支援していかなければならない。また、在宅医療が拡大され、医療処置を必要とする療養者も増加している。療養者の状況に応じた在宅看護を展開するためには、在宅看護におけるコミュニケーションの基本を学び、療養者の持つ価値観や生活観、経済的側面などを尊重し、主体的な選択や自立性の遵守が基盤となる。 ここでは、専門科目Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎看護技術を統合し、在宅場面で看護実践できる知識・技術・態度を学ぶ。 <単元目標> 1. 在宅看護におけるコミュニケーション技術の基本とその方法を理解できる。 2. 療養者と家族のセルフケア能力を活かし、家庭の条件を考慮した方法による日常生活援助の看護技術を理解できる。 3. 在宅治療処置を行っている療養者・家族に対して必要な看護技術を理解できる。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 在宅看護のコミュニケーション (6時間)	1	1) 在宅看護とコミュニケーション技術 (1) 在宅看護の基本としてのコミュニケーション (2) 療養者・家族とのコミュニケーションを成立させる技術 (3) 対象に応じたコミュニケーション	講義
	2・3	2) 訪問時のコミュニケーション技術 (1) 家庭訪問の基本姿勢とマナー (2) 初回訪問と2回目以降の訪問	個人ワーク 演習
2. 日常生活援助の看護技術 (12時間)	4	1) 「活動」の制限のアセスメントと「生活行為」への支援 (1) 「生活動作」と「生活行為」 (2) 必要な介助を見極めるための動作分析 2) 食事・栄養の援助 (1) 食事に関するアセスメント (2) 援助の実際と工夫 3) 清潔の援助 (1) 清潔に関するアセスメント (2) 援助の実際と工夫	講義
	5	4) 療養環境への援助 (1) 療養環境に関するアセスメント (2) 住宅改修	講義 グループワーク

3. 治療処置に伴う看護技術 (10時間)	6	(3) 福祉用具貸与・特定福祉用具販売 5) 排泄の援助 (1) 排泄に関するアセスメント (2) 援助の実際と工夫	講義
	7	6) 移動の援助 (1) 移動に関するアセスメント (2) 援助の実際と工夫 上記1)～6)の内容をもとに、福祉用具の実際を体験。	講義 演習
	8・9	上記1)～6)の内容をもとに事例に沿って日常生活援助のアセスメントの視点と援助時の留意点や工夫点を討議後発表し、クラス全体で共有。	グループワーク 発表
	10	1) 在宅経管栄養・経腸栄養法 (1) 在宅経管栄養の対象と目的 (2) 胃瘻の特徴とケア (3) 起こりやすい合併症の予防と援助 (4) 療養者と家族への支援 2) 在宅中心静脈栄養法 (1) 在宅中心静脈栄養法の適応 (2) 中心静脈栄養法の目的と方法 (3) 起こりやすい合併症や異常の予防と援助 (4) 療養者と家族への支援 3) 留置カテーテルの看護 (1) 在宅における留置カテーテルの適応 (2) 合併症の予防と援助 (3) 療養者・家族への支援 4) ストーマの看護 (1) 在宅におけるストーマの適応 (2) 合併症の予防と援助 (3) 療養者・家族への支援	講義
	11	5) 在宅酸素療法 (1) 在宅酸素療法の目的と適応 (2) 在宅酸素療法の実際 (3) 起こりやすい合併症や異常の予防と援助 (4) 療養者・家族への支援 6) 在宅人工呼吸療法 (1) 在宅人工呼吸療法の目的と適応 (2) 人工呼吸器療法の実際 (3) 吸引の看護援助 (4) 起こりやすい合併症や異常の予防と援助 (5) 療養者と家族への支援 7) 褥創 (1) 褥瘡の管理と看護 (2) 療養者・家族への支援 8) 治療管理 (1) 服薬・点滴・化学療法・放射線療法の援助	講義

	12・13	(2) 検査時の援助 上記1)～6)の内容をもとに事例に沿って治療処置に伴う看護技術の留意点と工夫点を討議後発表し、クラス全体で共有。	グループワーク 発表
	14	9) 在宅ターミナルの看護 (1) 在宅ターミナルの特徴 (2) 看護のポイント (3) グリーフケア	講義
	15 評価	筆記試験	
評価	単元1～2は筆記試験にて評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門分野 在宅看護論, 医学書院 2017 第5版		
参考文献	随時紹介		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
在宅看護援助論Ⅲ	1単位（15時間）	2年次 後期	非常勤講師
＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞ 在宅療養者は、疾患の種類が多岐に及び、障害をもちながら生活を送っていく場合が多い。また近年、終末期にある療養者も増えてきており、在宅で症状をコントロールしていかなければならない。ここでは、在宅療養者に多い疾患を中心とした看護の特徴、他職種との連携、社会資源の活用について学ぶ。また、在宅で安定した療養生活が送れるように、今までの知識を統合した看護過程の展開を目指す。 ＜単元目標＞ 1. 在宅療養者に特徴的な疾患や症状の特徴、他職種連携の重要性を理解できる。 2. 在宅療養者とその家族への看護過程を理解できる。			

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 在宅療養者の疾患・状態別看護 (6時間)	1～3	1) 在宅療養する脳血管障害のある人への看護 (1) 在宅での看護の特徴 (2) 家族への援助 (3) 社会資源の活用 2) 在宅療養する認知症のある人への看護 (1) 在宅での看護の特徴 (2) 家族への援助 (3) 社会資源の活用 3) 在宅療養する難病のある人への看護 (1) 在宅での看護の特徴 (2) 家族への援助 (3) 社会資源の活用 4) 在宅療養する終末期を迎えた人への看護 (1) 終末期の病態のアセスメント (2) 症状のコントロール (3) 家族への支援 (4) 社会資源の活用 5) 在宅で療養する子供への看護 (1) 在宅での看護の特徴 (2) 家族への援助 (3) 社会資源の活用	講義
2. 在宅看護過程 (8時間)	4～7 8 評価	事例を用いての看護過程の展開 上記1)～5)の中から事例設定する 筆記試験	個人ワーク グループ ワーク 発表
評 価	筆記試験（50％）看護過程の個人ワーク、グループワーク課題、取り組み姿勢（50％）		
教科書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院 2017 第5版		
参考文献	随時紹介		

看護の統合と実践

看護の統合と実践

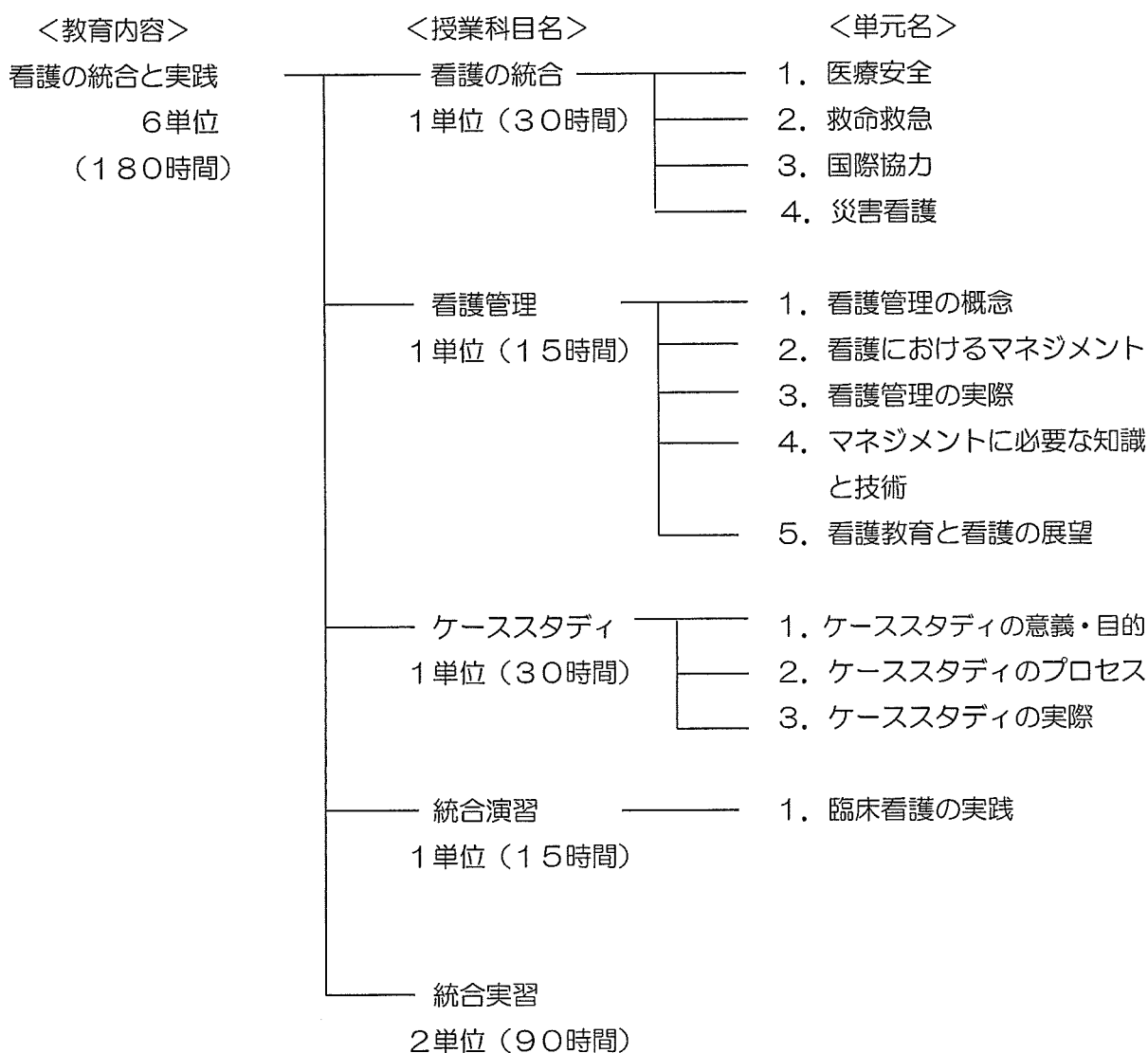
1. 看護の統合と実践の考え方、ねらい

統合分野は、現代社会において看護職に求められている臨床における看護の実践力を高めることをねらいとしている。

その中で、「看護の統合と実践」では、今までの学習を統合し、より臨床での実践に近づけられるような学習が必要となる。既習の学習に加え、さらにチーム医療、すなわち他職種との協働における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、看護マネジメント、医療安全、研究的態度などの基礎的能力を養うことを目的とする。

また、既習の看護技術を統合して実践できる能力を評価することを含む。

2. 看護の統合と実践の構成



授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
看護の統合	1 単位（30 時間）	2 年次 前・後期	専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

看護の専門性はより高まり、看護者の担う役割・機能・活動内容が多様化している現在、柔軟に思考できる能力や感性を養うことが大切である。また、医療過誤や事故の発生によって、医療に対する信頼は揺らぐことになる。そのため、既習の基礎的知識や看護技術を安全に実践し、さらに発展応用していく能力が必要とされている。

看護の統合では、多様な場面で求められる看護の役割・機能を理解し深めて、信頼される看護が実践できる能力を修得することを目的とする。

単元1. 医療安全

医療過誤・事故から患者の生命を守るため必要な知識・技術・態度について、専門科目において学習した内容を復習する。

看護者もヒューマン・エラーを起こす人間であることを認識し、看護を安全におこなうために必要な知識・技術・態度と、医療に関わる専門職者としての責務や安全管理の実践について学ぶ。

また、看護の対象を多様な視点でとらえられるために必要な基礎的知識を学び、危険予知・回避への判断力を養う。

<単元目標>

1. 安全管理の必要性がわかる。
2. 専門職としての看護の役割や責務、知識・技術・態度が理解できる。
3. 事故の可能性を予測し、回避方法を理解する。
4. 事故発生時の対応がわかる。

単元2. 救命救急

看護者は救急処置を必要とする、患者の生命が危機的状況にあることを病態やその特徴から理解し、的確な判断と対応がおこなわれなければならない。ここでは、救命処置に必要な状況の判断と基本的な処置法を学ぶ。

<単元目標>

1. 救急患者の特徴と救急看護に必要な専門知識を理解する。
2. 生命の危機状況にある患者・家族の心理を理解する。
3. 救急蘇生法の基本的技術を身につける。

単元3. 国際協力

自国とは異なる国の社会、政治、経済、文化、保健医療システム、疾病構造などに影響を与え

るあらゆるものを考慮し、看護を提供するための広い視野と諸外国との協力について基礎知識を修得する。

<単元目標>

1. 国際協力の現状と目的、概念が理解できる。
2. 国際社会における看護の役割が考えられる。

単元4. 災害看護

災害は、いつどこで発生するか予測がつかず、また災害発生後、時間経過に伴って生命と生活に関する様々な問題が発生する。そのため、災害看護では、常にどのような災害にも対応できる体制を整え、保健・医療・福祉との連携を図り、人々の生活を支えられるような看護実践力の育成が望まれている。

ここでは、災害が人々の健康生活に及ぼす影響を理解し、災害状況に合わせた看護について学習する。また、災害看護に必要な他職種との協働・連携について理解し、看護マネジメントの基本的な知識と方法を学ぶ。

<単元目標>

1. 災害看護の定義と概要が理解する。
2. 災害の種類と傷病の特徴を理解し、人々の健康生活に及ぼす影響がわかる。
3. 災害発生時の看護ケアを理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 医療安全 (14時間)	1	1) 医療・看護における安全管理の概念・意義 (1) 医療・看護における安全管理とは (2) 組織的な安全管理とは	講義
	2	(3) 患者への安全管理と危険特性	講義
	3	2) 安全確保のための基本的事項 (1) セーフティレポートシステム (2) チーム医療	講義
	4	3) 安全管理の実際 (1) 患者安全に必要なコミュニケーション (2) KYT について	講義
	5	(3) ベッドサイドの安全管理 生じやすいインシデントとアクシデント 危険予測の視点 ※食事、排泄、移動、移送、睡眠・休息、衣類の着脱、身体の清潔、環境にかかわる危険予測	演習

2. 救命救急 (6時間)		について、グループワーク 方法：提示された状況について危険予測をし、 グループ発表と教師のまとめを行う。	
	6	(4) 薬と患者安全 (5) 事例分析について (6) 事故の事例の分析と対処 ※食事、与薬、転倒、転落の事例などの事例提示 →グループで事例を分析して対処を検討→	講義
	7	発表、まとめ	講義 演習
	8	1) 日本における救急医療の変遷 2) 救急医療および救急看護を必要とする患者の特 徴と看護 (1) 救急患者の病態・治療と看護 ①1次救命処置とは ②2次救命処置とは (2) 救急患者のトリアージとは 3) 救命救急時に使用する機器と留意点 (1) AED、他の使用方法 (2) 救急時の応援要請とは	講義
	9	4) 脳死 (1) 脳死判定基準 (2) 臓器移植ネットワーク 5) 救急蘇生法の実際 (1) 心肺蘇生法(1次救命処置、2次救命処置) ※デモンストレーション	講義
	10	①救急時の応援要請から救急蘇生法の実際 (傷病者発見からAED使用、救急車到着ま で) ②患者急変時の応援要請から蘇生処置の実際 (急変した患者発見から気管挿管の介助まで) (2) 救命救急時の看護と機器使用技術 ①心肺蘇生(胸骨圧迫～口対口人工呼吸法) ②バッグバルブマスク換気法 ③AED ④気管挿管時の留意点(説明)	演習

3. 国際協力 (2時間)	1 1	1) 国際協力の概要 (1) 看護の国際協力の変遷と現状 (2) 国際協力に求められる看護能力 ①コミュニケーション能力 ②マネジメント能力 ③教育指導能力	講義
4. 災害看護 (6時間)	1 2	1) 災害看護の概念 (1) 災害看護の定義 (2) 災害看護の概要 ①実際の動き方 ②災害への備え (3) 看護者の役割	講義
	1 3	2) 災害が人々の健康に及ぼす影響 (1) CSCA (C:指揮命令系統、S:安全、C:連携、A:評価)とは (2) 被災者のトリアージ	講義
	1 4	(3) 災害各期の看護 ① 発生直後のケア ② 復興期のケア	VTR 講義 VTR 演習
	1 5 評価	筆記試験	
評価	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]看護学概論 医学書院 2020第17版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2019第17版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2017第17版 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4]臨床看護総論 医学書院 2016第5版		
参考文献	※随時授業の中で紹介		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
看護管理	1 単位（15 時間）	3 年次 前・後期	非常勤講師・専任教員

<授業科目の履修目的・概要・指針など>

現代医療における看護活動は、専門化し細分化・複雑化が著しい。また、専門職種として、社会的機能を果たす責任も大きい。看護職がその目的を達成するためには、看護師の能力を組織的かつ有効に機能させる必要、つまり、看護管理が必要になる。そして、個々の看護師はマネジメントの概念を理解し、自らがリーダーシップ・メンバーシップを発揮しながら看護活動を行う必要がある。そこで、この科目では、看護管理に関する基本的な知識と技術を学び、将来の専門職業人としての基礎作りをする。

<単元目標>

1. 看護組織を理解し、効果的マネジメントに必要な考え方と技術について学ぶ。
2. 生命尊重を基盤に職業倫理を理解し、看護職の社会に対する責任を考察する。
3. 看護管理の実際を理解する。
4. 専門職業人として、キャリア発展の必要性とその方策を理解する。

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 看護管理の概念 (2 時間)	1	1) 管理とマネジメント 2) 看護管理に係る諸定義 3) 看護管理の構成概念 4) 看護管理の対象と範囲	講義
2. 看護におけるマネジメント (4 時間)	2・3	1) 看護に関する諸制度・政策 2) 看護におけるマネジメントの変遷 3) 看護の質保障と看護管理	講義
3. 看護管理の実際 (4 時間)	4・5	1) 安全管理 2) 情報管理 3) 業務管理 4) 薬剤・物品管理 5) コスト管理 6) 看護師の育成、法的責任と倫理	講義
4. マネジメントに必要な知識と技術 (2 時間)	6	1) 組織原理と組織の特徴 2) 看護部組織における職位と役割 3) リーダーシップとフォロワーシップ 4) 組織と個人 5) ストレスマネジメント	講義
5. 看護教育と看護の展望 (2 時間)	7	1) 看護基礎教育と卒後教育 2) キャリア開発 キャリアとは、キャリアデザイン 組織開発と個人のキャリア開発	講義
	8	筆記試験	
評 価	筆記試験に授業中の課題への取り組みなどを加味して評価します。		
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院 2018 第 10 版		
参考文献			

授 業 科 目	単位数(時間)	開 講 時 期	担 当 講 師
ケーススタディ	1 単位 (30 時間)	3 年次 前・後期	専任教員
<授業科目の履修目的・概要・指針など> 総合保健医療の中で専門職・看護者として、役割を担うためにあらゆる側面から対象を理解し、より質の高い看護を提供できる能力を養う必要がある。また専門職としてその責務を果たすために、常に研究的態度をもって看護活動にあたることが求められる。 ここでは、既習で学習した内容を統合し、受け持ったケースの看護過程の展開を振り返り、詳細に検討・再評価を行い、実施した看護を文献と照らして考察し、看護観を深める。そして日常の看護経験のなかに問題意識をもち、新しい知識を取り入れ、理論的根拠に基づいた看護が実践できるよう、研究的態度を養うことをねらいとする。またケーススタディの取り組みの中で出会ったあらゆる人々との関わりの中から、自己洞察し、自己成長につなげる。 <単元目標> 1. 看護における研究の必要性を認識し、看護研究の実践者としての基本的態度を学ぶ。 2. 実践した看護を理論的根拠に基づいて、評価・考察することを学ぶ。 3. 看護の対象の理解と自己洞察を深め、看護者としての課題を明確にする。 4. 論文をまとめ発表することで、他者評価を受け入れ、問題意識を高めていく。			

<授業計画>

単 元	回数	内 容	授業形態
1. ケーススタディの 意義・目的 (2時間)	1	1) ケーススタディとは (1) ケーススタディの特質と意義・目的	講義
2. ケーススタディの プロセス (4時間)	2	2) ケーススタディの進め方 (1) ケーススタディの種類とアプローチの方法 (2) ケーススタディと看護実践 (3) 研究のプロセスと研究計画 (4) 論文の構成 (5) ケーススタディの評価	講義
3. ケーススタディの 実際 (24時間)	3・4	3) ケーススタディの取り組み (1) 研究計画書の作成 (自己のケースの計画書を作成する)	個人ワーク
	5	(2) 研究計画書のクリティーク (GWを通してクリティークを行う)	GW

	6～7	(3) ケーススタディ演習	個人ワーク (各担当教員 と調整をとり 進めていく)
	8	(4) ケーススタディの進め方	講義
	9～10	(5) ケーススタディ演習	個人ワーク (各担当教員 と調整をとり 進めていく)
	11	(6) ケーススタディの発表方法	講義
	12～ 15	(7) ケーススタディ発表	発表
評 価	授業時間と論文指導時間、それぞれが規定時間の2/3以上であること、かつケーススタディの発表をもって評価の対象とする。なお、評価は、論文の評価表によって行う。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]看護学概論 医学書院 2020 第17版 看護学生のためのケーススタディ メジカルフレンド社 第4版		
参考文献	城ヶ端初子監修：実践に生かす看護理論19 医学芸術社 他、授業の中で紹介する。		

授 業 科 目	単位数（時間）	開 講 時 期	担 当 講 師
統合演習	1 単位（15 時間）	3 年次 前・後期	専任教員

＜授業科目の履修目的・概要・指針など＞

近年の臨床看護の場では、医療の高度化、患者の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮等により、看護業務が多様化・複雑化してきている。また、患者の人権への配慮や、医療安全確保のための取り組みが強化される中で、複数の対象の状況に合わせた看護を安全に実践できることが望まれている。

そこで、総合演習では複数事例の看護計画を展開し、3年間で学習した基礎的知識と看護援助技術をもとに、様々な健康レベルにある対象者に対してリスクアセスメントしながら優先性を考えた看護実践力と応用力の修得を目的とする。

＜単元目標＞

1. 科学的根拠をもとに、優先順位を考えた行動計画を立案できる。
2. 立案した行動計画に基づき、対象の状況に応じて判断しながら看護援助が実践できる。
3. 複数の対象を受け持ち、リスクを考えながら、安全かつ安楽な看護技術が提供できる。
4. 専門職業人としての自覚と責任のもと対象を尊重した姿勢で看護援助が提供できる。

＜授業計画＞

単 元	回数	内 容	授業形態
1. 臨床看護の実践 （15 時間）	1～4	1) 多重課題の解決方法 (1) リスクマネジメントと優先順位の考え方 2) 演習・評価の実施についての説明 (1) 事例紹介（2 事例）と技術評価項目 授業 A 氏 (活動支援への看護) B 氏 (安静支援への看護) ＜看護の方向性＞ 症状が安定したため日常生活行動を拡大する。 ＜看護の方向性＞ 疾患の回復状況や状態に合わせて、床上での日常生活行動を援助する。 ＜事例の場面＞ この状況で、指定された看護援助技術をすべて取り入れた看護展開を行う。	講義
	5・6	3) 2 事例への看護計画の作成 4) 看護実践に向けた行動計画の立案	GW 個人ワーク
	7・8	5) 演習課題の行動計画の立案 6) 看護の実践 事例に対する看護計画の評価 ・立案した計画は手順の優先度とその根拠がのべられていること	演習
			レポート 評価

		・患者の状態を理解した計画内容であること - 技術到達度の評価 ・患者を尊重した技術の実践	技術試験
評価	<評価の視点> 1. 認知領域 1) 立案した計画・援助技術の科学的根拠が述べられる。 2) 実践する看護技術の原理原則が述べられる。 3) 2事例の状態を理解し、優先度を考慮した方法が説明できる。 2. 精神運動領域 1) 計画立案した内容を実践できる。 2) 安全かつ安楽な看護技術が提供できる。 3) 2事例の状態に合わせた観察ができる。 4) 健康レベルに合わせて技術の応用ができる。 3. 情意領域 1) 患者の認知能力・精神状態に応じた配慮や言葉かけができる。 2) 高齢者の生活背景を考慮し、気配りある行動がとれる。		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 2017 第17版 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 2017 第5版		
参考文献	※随時、授業で紹介		

授業科目の成績評価に関する細則

この細則は学則第23条に基づきその具体的取り扱いを定める。

(成績評価基準)

第1条 授業科目（講義、臨地実習）の成績評価基準は以下のとおりとする。

A	80 ～ 100点
B	70 ～ 79点
C	60 ～ 69点
D	60点未満（不合格）

平成16年4月1日制定

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

旭川厚生看護専門学校

授業科目（学科目）		単位	時間	授業形式	講師	
専門基礎分野	解剖学Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	医師
	解剖学Ⅱ	1	30	講義	非常勤講師	医師
	栄養学	1	30	講義	非常勤講師	管理栄養士
				実習		
	薬理学	2	45	講義	非常勤講師	医師
	病理学総論	1	15	講義	非常勤講師	医師
	病理学各論Ⅰ (消化器・腎・泌尿器)	1	30	講義	非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
	病理学各論Ⅱ (呼吸器・循環器)	1	30	講義	非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
	病理学各論Ⅲ (内分泌・代謝・自己免疫・血液・リンパ・口腔外科)	1	30	講義	非常勤講師	歯科医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
	病理学各論Ⅳ (女性生殖器・乳腺・発生異常・骨・筋肉・麻酔)	1	30	講義	非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
	病理学各論Ⅴ (脳神経・眼科・耳鼻咽喉・皮膚)	1	30	講義	非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
	医学概論	1	15	講義	非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
					非常勤講師	医師
	関係法規	1	15	講義	専任教員	看護師
計		13	330			

授業科目（学科目）		単位	時間	授業形式	講師	
専門分野Ⅰ	看護学概論Ⅰ	1	30	講義	専任教員	看護師
	看護学概論Ⅱ	1	30	講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	看護援助の基本Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	看護援助の基本Ⅱ	1	30	講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	専任教員	助産師
	看護援助の基本Ⅲ	1	30	講義	専任教員	看護師
	日常生活援助技術Ⅰ	1	30	講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	日常生活援助技術Ⅱ	1	30	講義	専任教員	看護師
	日常生活援助技術Ⅲ	1	30	講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	助産師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	診療援助技術Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	保健師
				講義	専任教員	看護師
	診療援助技術Ⅱ	1	30	講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	臨床看護総論	1	30	講義	非常勤講師	専門看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	臨床看護技術演習	1	30	講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	成人看護学概論	1	15	講義	専任教員	看護師
成人看護学援助論Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	看護師	
			講義	非常勤講師	看護師	
			講義	非常勤講師	看護師	
			講義	非常勤講師	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
成人看護学援助論Ⅱ	1	30	講義	非常勤講師	看護師	
			講義	非常勤講師	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
成人看護学援助論Ⅲ	1	30	講義	専任教員	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
計		16	465			

授業科目（学科目）		単位	時間	授業形式	講師	
専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅳ	1	30	講義	非常勤講師	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	助産師
	成人看護学援助論Ⅴ	1	30	講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	非常勤講師	放射線技師
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	専任教員	看護師
	老年看護概論	1	30	講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	看護師
				講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	非常勤講師	歯科衛生士
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30	講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	老年看護学援助論Ⅲ	1	30	講義	非常勤講師	理学療法士
				講義	専任教員	看護師
				講義	専任教員	看護師
	小児看護学概論	1	15	講義	専任教員	看護師
	小児看護学援助論Ⅰ	1	30	講義	専任教員	看護師
	小児看護学援助論Ⅱ	1	30	講義	非常勤講師	医師
				講義	非常勤講師	医師
講義				非常勤講師	医師	
講義				非常勤講師	医師	
講義				非常勤講師	医師	
講義				非常勤講師	看護師	
講義				専任教員	看護師	
講義				専任教員	看護師	
小児看護学援助論Ⅲ	1	30	講義	非常勤講師	認定看護師	
			講義	非常勤講師	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
			講義	専任教員	看護師	
母性看護学概論	1	30	講義	専任教員	助産師	
			講義	専任教員	助産師	
母性看護学援助論Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	医師	
			講義	非常勤講師	助産師	
			講義	専任教員	助産師	
計		12	345			

授業科目（学科目）		単位	時間	授業形式	講師	
専門分野Ⅱ	母性看護学援助論Ⅱ	1	30	講義	非常勤講師	医師
				講義	専任教員	助産師
				講義	専任教員	助産師
	母性看護学援助論Ⅲ	1	15	講義	非常勤講師	医師
				講義	専任教員	助産師
	精神看護学概論	1	30	講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	非常勤講師	精神保健福祉士
				講義	専任教員	看護師
	精神保健	1	30	講義	非常勤講師	看護師
	精神看護学援助論Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	医師
				講義	非常勤講師	医師
				講義	非常勤講師	認定看護師
				講義	非常勤講師	作業療法士
				講義	専任教員	看護師
	精神看護学援助論Ⅱ	1	30	講義	非常勤講師	看護師
				講義	専任教員	看護師
	基礎看護実習Ⅰ	1	45	実習	専任教員	看護師
	基礎看護実習Ⅱ	2	90	実習	専任教員	看護師
	成人看護学実習Ⅰ	2	90	実習	専任教員	看護師
	成人看護学実習Ⅱ	2	90	実習	専任教員	看護師
	成人看護学実習Ⅲ	2	90	実習	専任教員	看護師
	老年看護学実習Ⅰ	2	90	実習	専任教員	看護師
	老年看護学実習Ⅱ	2	90	実習	専任教員	看護師
	小児看護学実習	2	90	実習	専任教員	看護師
	母性看護学実習	2	90	実習	専任教員	助産師
	精神看護学実習	2	90	実習	専任教員	看護師
	在宅看護概論	1	15	講義	専任教員	保健師
統合分野	在宅看護援助論Ⅰ	1	30	講義	非常勤講師	看護師
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	専任教員	保健師
				講義	専任教員	看護師
	在宅看護援助論Ⅱ	1	15	講義	専任教員	看護師
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	非常勤講師	保健師
	在宅看護援助論Ⅲ	1	15	講義	専任教員	保健師
				講義	専任教員	看護師
	看護の統合	1	30	講義	非常勤講師	助産師
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	専任教員	看護師
	看護管理	1	15	講義	非常勤講師	認定看護管理者
				講義	非常勤講師	看護師
				講義	専任教員	看護師
	ケーススタディ	1	30	講義	専任教員	看護師
	統合演習	1	15	講義	専任教員	助産師
	在宅看護論実習	2	90	実習	専任教員	保健師・看護師
	統合実習	2	90	実習	専任教員	看護師
計		37	1,365			

分野	時間数
専門基礎分野	330
専門分野Ⅰ	465
専門分野Ⅱ	1,380
統合分野	330
総計	2,505